シ　ラ　バ　ス

平成 30 年度

（2018 年度）

大 阪 市 立 大 学 経 済 学 部

目　　次

経済学部シラバス

経済学部専門教育科目開講科目表 …… 1
経済学部専門科目　科目ナンバーについて …… 3
OCU 指標について …… 4

前期開講科目
入門科目 …… 7
基礎科目Ⅰ …… 9
基礎科目Ⅱ …… 13
応用科目 …… 16
演習科目 …… 34
後期開講科目
基礎科目Ⅰ …… 55
基礎科目Ⅱ …… 59
応用科目 …… 63
演習科目 …… 83
集中講義開講科目
基礎科目Ⅱ …… 95
応用科目 …… 96

その他

論文採点基準表 …… 97
注意事項 …… 98
杉本地区キャンパスマップ・教室一覧 …… 100
教員名簿 …… 102

平成30年度学年暦

学年開始	4月 1日（日）
新入生ガイダンス	4月 2日（月）
入学式	4月 5日（木）
新入生健康診断	4月 6日（金）
前期授業開始日	4月10日（火）
振替授業日	5月 1日（火）月曜日の授業を実施
創立記念日	6月 1日（金）（通常通り授業実施）
振替授業日	7月18日（水）月曜日の授業を実施
授業・試験期間	7月23日（月）～8月 3日（金）
夏季休業	8月 4日（土）～9月14日（金）
研修期間	9月15日（土）～9月30日（日）
後期授業開始日	10月 1日（月）
振替授業日	10月30日（火）金曜日の授業を実施
振替授業日	11月21日（水）金曜日の授業を実施
冬季休業	12月22日（土）～1月 6日（日）
授業・試験期間	1月29日（火）～2月12日（火）
振替授業日	2月12日（火）月曜日の授業・試験を実施
研修期間	2月13日（水）～3月19日（火）
春季休業	3月20日（水）～

※ 振替授業日 ― 各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。

※ 研修期間 ― 集中講義や補講などが行われることがある。

※ 授業・試験期間 ― 定期試験や授業を行う。

※ 卒業式 ― 日程確定後、ホームページ（ホーム＞教育・学生生活＞授業・履修関係＞行事予定・授業時間）に掲載します。

振替試験日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業（・試験）日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施する場合があります。

☆ 参考

・新入生歓迎祭（ふたば祭）開催に伴う休講

4月19日（木）5時限、20日（金）3～5時限

［歓迎祭開催日程：4月19日（木）5限～、20日（金）午後～、21日（土）終日］

・大学祭（銀杏祭）開催に伴う休講

10月31日（水）5時限、11月1日（木）全時限、11月2日（金）全時限

［大学祭開催日程：10月31日（水）～11月4日（日）］

・センター入試準備に伴う休講

平成31年1月18日（金）全時限

［センター試験：1月19日（土）・20日（日）］

平成30年度カレンダー

	日	月	火	水	木	金	土
4月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

2日（月）新入生ガイダンス
5日（木）入学式
6日（金）新入生健康診断
10日（火）前期授業開始
19日（木）新歓祭5限休講
20日（金）新歓祭午後休講

	日	月	火	水	木	金	土
5月			1 月	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

1日（火）振替授業日
（月曜の授業を実施）

	日	月	火	水	木	金	土
6月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

	日	月	火	水	木	金	土
7月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18 月	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

18日（水）振替授業日
（月曜の授業を実施）
23日（月）～8月3日（金）
授業・試験期間

	日	月	火	水	木	金	土
8月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

4日（土）～9月14日（金）
夏季休業期間

	日	月	火	水	木	金	土
9月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

15日（土）～30日（日）
研修期間

	日	月	火	水	木	金	土
10月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30 金	31			

1日（月）後期授業開始
30日（火）振替授業日
（金曜の授業を実施）
31日（水）大学祭5限休講

	日	月	火	水	木	金	土
11月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21 金	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

1日（木）大学祭休講
2日（金）大学祭休講
21日（水）振替授業日
（金曜の授業を実施）

	日	月	火	水	木	金	土
12月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

22日（土）～1月6日（日）
冬季休業期間

	日	月	火	水	木	金	土
1月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

18日（金）センター試験に
伴う休講措置
29日（火）～2月12日（火）
授業・試験期間

	日	月	火	水	木	金	土
2月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12 月	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28		

12日（火）振替授業日
（月曜の授業・試験を実施）
13日（水）～3月19日（火）
研修期間

	日	月	火	水	木	金	土
3月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

20日（水）～春季休業期間

平成30年度　経済学部専門教育科目表

（2018年度）

科目群	授業科目	担 当 者	単位	期別	標準履修学年	ページ	他学部生履修	備考
入門科目	日本経済の論点	杉 田　他	2	前期	1年生限定	7	不可	
	世界経済の論点	森　脇	2	前期	1年生限定	8		
基礎科目I	近代経済学(マクロ経済学2)	中　嶋	2	前期	2	9	不可	
	近代経済学(ミクロ経済学2)	柴　田	2	前期	2	10		
	政治経済学Ⅱ	脇　村	2	前期	2	11		
	経済数学	（ 落 合 ）	2	前期	2	12		
	近代経済学(マクロ経済学1)	岡　澤	2	後期	1	55		
	近代経済学(ミクロ経済学1)	浦　西	2	後期	1	56		
	基礎・経済統計	中　川	2	後期	1	57		
	政治経済学Ⅰ	齋　藤	2	後期	1	58		
基礎科目II	産業経済論	浦　西	2	前期	2～	13	可	
	経済学説史特殊講義	若　森	2	前期	2～	14		
	日本経済史	彭	2	前期	2～	15		
	西洋経済史	（長谷川）	2	集中	2～	95		前期集中開講
	応用マクロ経済学	森	2	後期	2	59	不可	
	応用ミクロ経済学	辻	2	後期	2	60		
	社会政策論特殊講義	杉　田	2	後期	2～	61		
	社会思想史	★ 岩 熊	2	後期	2～	62		
応用科目	経済変動論	森	2	前期	2～	16	可	
	統計解析論特殊講義	中 川	2	前期	2～	17		
	経済情報論特殊講義	（上 田）他	2	前期	2～	18		
	財政学	松 本	2	前期	2～	19		
	日本経済論特殊講義	滋 野	2	前期	2～	20		
	産業技術論特殊講義	坂 上	2	前期	2～	21		
	国際協力論	岩 波	2	前期	2～	22		
	各国経済論特殊講義（経済英語1）	ウェザーズ	2	前期	2～	23		
	経済統計論特殊講義A（コンピュータ講座）	中 島	2	前期	2年生以上限定	24	不可	（注）5
	Economic Reading	ウェザーズ	2	前期	2年生以上限定	25		
	Lectures on Economics A	中村 健吾 他	2	前期	2～	26		
	Introduction to International Economics	久 保	2	前期	2年生以上限定	27		
	商業簿記基礎論	（ 小 田 ）	2	前期	2～	28	可（商学部を除く）	
	公共経済学	（ 新 居 ）	2	集中	2～	96	可	前期集中開講
	証券経済論特殊講義（野村証券講座）	福 原	2	前期	2～	29		
	経済史上級講義	彭	2	前期	3年生以上限定	30	不可	
	経済政策上級講義	辻	2	前期	3年生以上限定	31		
	ミクロ経済学上級講義1	北 原	2	前期	3年生以上限定	32		
	計量経済学上級講義1	（ 鹿 野 ）	2	前期	3年生以上限定	33		

科目群	授業科目	担 当 者	単位	期別	標準履修学年	ページ	他学部生履修	備考
応用科目	経済原論ⅡA	中 嶋	2	後期	2～	63	可	
	社会経済論	(佐 藤)	2	後期	2～	64		
	経済統計論特殊講義	中村 英樹	2	後期	2～	65		
	計算機経済学	中 島	2	後期	2年生以上限定	66	不可	(注)5
	アジア経済史	脇 村	2	後期	2～	67	可	
	地方財政論	小 川	2	後期	2～	68		
	流通経済論	柴 田	2	後期	2～	69		
	労働経済論特殊講義	福 原	2	後期	2～	70		
	産業組織論特殊講義	北 原	2	後期	2～	71		
	国際経済学	久 保	2	後期	2～	72		
	ヨーロッパ経済論	(堀 口)	2	後期	2～	73		
	Lectures on Economics B	(篠 原)	2	後期	2～	74	不可	
	産業政策特殊講義1(商友会・経友会講座)	松 本	2	後期	2,3	75	可	
	経済政策論特殊講義2(税関講座)	森	2	後期	2～	76		
	労働経済論特殊講義1(連合大阪寄附講座)	ウェザーズ	2	後期	2～	77		
	経済構造上級講義	(松 澤)	2	後期	3年生以上限定	78	不可	
	国際経済上級講義	朴	2	後期	3年生以上限定	79		
	ミクロ経済学上級講義2	岩 波	2	後期	3年生以上限定	80		
	計量経済学上級講義2	(鹿 野)	2	後期	3年生以上限定	81		
	Global Economy	ウェザーズ	2	後期	2～	82		
演習科目	基礎演習	脇村 他	2	前期	1	34	不可	
	イノベーティブ・ワークショップ(課題探求演習)	朴 他	2	前期	2年生限定	47		
		脇村 他		後期	1年生限定	83		
	論文演習	中村 英樹 他	2	前期	2年生以上限定	53		
		坂上 他		後期	1～	91		
	キャリア形成ゼミ	福 原	2	前期	2,3年生限定	54		
	専門演習3	脇村 他	4	通年	3	－		
	専門演習3B	福原 他	4	通年	3	－		
	専門演習4	脇村 他	4	通年	4	－		
	卒業論文	脇村 他	12	通年	4	－		
関連科目	教員免許(中学社会、高校公民・地歴・)取得のための「教科に関する科目」のうち商・法・文学部が提供する専門科目							
他学部提供専門科目	商学部: 専門外国語、プロジェクト・ゼミナール、テーマ・ゼミナール、経営学、経済学、会計基礎論、企業と法、各概論、商業科教育法Ⅰ、商業科教育法Ⅱを除く科目 法学部: 外国語演習、専門演習、法情報学、各発展科目、基礎演習を除く科目 ※ 受講の際には、提供学部のシラバス・掲示を確認すること。							

担当者(　　)は非常勤講師、★は特任教員

(注)
1. 全学共通科目については、「全学共通科目シラバス・履修案内」を参照のこと。
2. 標準履修学年については、原則として遵守すること。
3. 全ての科目において受講生が多数の場合は受講制限されることがある。
4. 他学部提供の専門科目の受講については、提供学部のシラバス・時間割等を確認すること。
5. 定員50名程度。希望者が多数の場合は抽選。

経済学部専門科目　科目ナンバーについて

経済学部専門科目の科目ごとに附される、科目ナンバー（例.『近代経済学（マクロ経済学1)』 の科目ナンバーは“EAB1J2101”）は以下のとおり、分類されています。

上１、２桁	経済学部経済学科専門科目	EA
上３、４桁	科目分野	PR：入門科目 B1：基礎科目Ⅰ B2：基礎科目Ⅱ AP：応用科目 SE：演習科目
上５桁	講義で使用される主要な言語	J：日本語 E：英語
上６桁	推奨される履修開始のセメスターの位置	表１を参照
上７桁	難易度	0＝大学導入レベル 1＝学部１年レベル 2＝学部２年レベル 3＝学部３年レベル 4＝学部４年レベル 5＝大学院入門レベル
上８、９桁	科目識別ナンバー	

表１

学年	１回生		２回生		３回生		４回生	
開講期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
上６桁目	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**7**	**8**

OCU（Osaka City University）指標とは

本学での４年間の学修を通して、皆さんがどのように多様な学修成果を身につけたかが卒業時に問われます。OCU 指標は、これら多様な学修成果をどの程度身につけたかを視覚的にわかりやすい形で示す総合化指標です。

OCU 指標は、各授業科目で身につく内容を複数の学修成果に分解して数値化され、累積されていきます。学生の皆さんは、OCU 指標を利用することで、各学年の途中で現在の学修状況と自分が希望するキャリアのために身につけるべき学修成果を見比べて、今からどのような能力を身につけるべきかを考え、その足りない部分を補うためにどのような授業科目を履修すれば良いのか知ることができます。

科目ナンバーとの関連

それぞれの授業科目を修得することで身につける事が出来る学修成果の配分は、科目ナンバーごとに決められています。

学修成果の種類

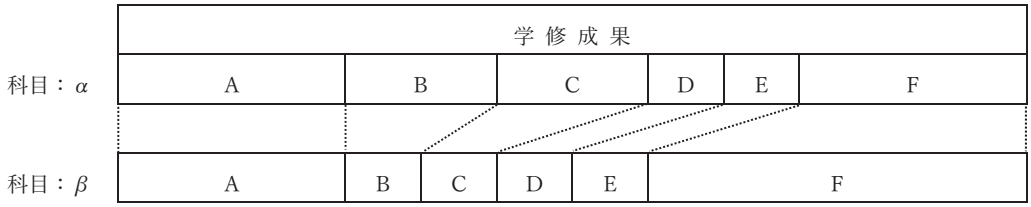
OCU 指標における学修成果は次の６つです。学修成果 A～E は全学共通、学修成果 F は経済学部独自の項目です。

学 修 成 果	内　容
A：論理的思考	修得した専門知識を、論理的な思考と柔軟な発想によって応用することができる
B：情報活用	多様な情報を収集・分析し、それらを日々の生活のなかで活用することができる
C：外国言語・文化	外国の言語と文化を学習・修得し、世界のさまざまな国・地域の人びとと意思疎通することができる
D：表現	分析の結果を、言語や記号を用いてわかりやすく表現することができる
E：社会貢献	グローバルな社会の一員であり、かつ地域社会の一員であることの自覚をもち、自らの知識・技能を活かして、（他者と協調して）社会の発展のために寄与することができる
F：複眼的構想力（経済学部独自項目）	学修成果Ａ～Ｅを活用し、多様な見方を総合して、問題解決の新しい方途を複眼的に構想することができる

OCU 指標の計算例

各科目の OCU 指標は、科目ナンバーごとに定められた各学修成果の配分と成績評価（グレードポイント：GP）によって決まります。あらかじめ定められた学修成果の配分にしたがって GP が配分され、各学修成果の OCU 指標となります。

＜科目ナンバーごとの学修成果配分例＞



科目αの学修成果配分 A：B：C：D：E：F＝３：２：２：１：１：３

科目βの学修成果配分 A：B：C：D：E：F＝２：１：５：１：２：１

＜成績の差により身についた学修成果のイメージと OCU 指標算出方法の例＞

	学修成果					
科目α：AA	A	B	C	D	E	F

（GP 4 ＝ A A の場合：成果配分の比率に従って 4/4 倍で累積される）

	学修成果					
科目β：B	A	B	C	D	E	F

（GP 2 ＝ B の場合：成果配分の比率に従って 2/4 倍で累積される）

科目αで身についた学修成果 A の OCU 指標　3 /（3 ＋ 2 ＋ 2 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 3）× 4 ＝1.0

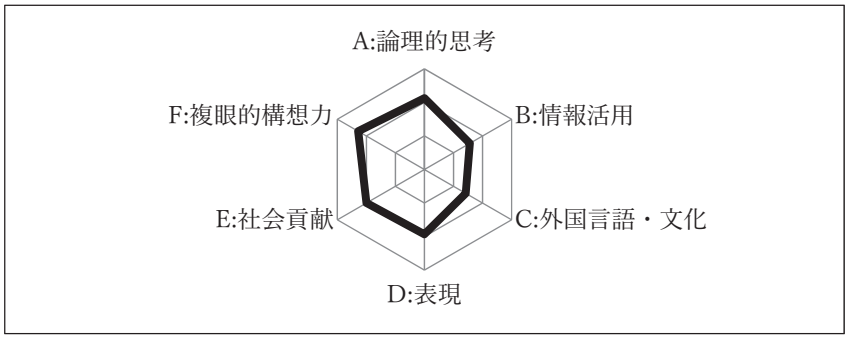
科目βで身についた学修成果 A の OCU 指標　3 /（3 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 5）× 2 ＝0.5

レーダーチャートについて

学生の皆さんそれぞれの OCU 指標は、半期ごとにレーダーチャートで示されます。各学修成果の OCU 指標は、それまでに単位を修得した科目の学修成果の累計になります。

形については綺麗な六角形が理想ではなく、学部（学位プログラム）（または自身の希望するキャリア）によって様々です。自身のレーダーチャートは学修支援推進室にて常時確認することが出来ます。

OCU 指標レーダーチャートのイメージ



OCU 指標の成果配分

科目分野	科目 No.	A 論理的思考	B 情報活用	C 外国言語・文化	D 表現	E 社会貢献	F 複眼的構想力
入門科目（PR）	EAPRJ～	4	2	1	2	1	2
基礎科目 I （B1）	EAB1J～	3	3	1	2	1	2
基礎科目 II （B2）	EAB2J～	2	2	1	3	2	2
日本語で提供される応用科目（APJ）	EAAPJ～	2	2	1	3	2	2
英語で提供される応用科目（APE）	EAAPE～	1	2	3	2	2	2
応用科目のうちの上級講義（APJ5）	EAAPJ5～	2	2	1	2	2	3
演習科目（EX）	EAEXJ～	2	2	1	2	1	4

前 期 開 講 科 目

授業形態	講義	科目No.	EAPRJ1001
科目名 日本経済の論点		単位数 2	担当教員氏名 杉田　菜穂　ほか
Course Title Issues on the Japanese Economy		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

本講義は、経済学部1年次向けに提供される科目です。経済学部では、皆さんが経済学を理論・実証・歴史という様々な側面から体系的に学ぶことができるようなカリキュラムが組まれています。その経済学の学びの第一歩となるように、本講義では日本経済の様々な論点を取り上げて、みなさんの経済に対する問題関心を喚起することを目標とします。

【授業の到達目標】

日本経済についての基本的な知識を習得していただきます。

【授業内容・授業計画】

三人の担当者（松本、ウェザーズ、杉田）がオムニバス形式でそれぞれのテーマについて講義をします。一つのテーマについて3，4回の講義で完結し、その内容に関する小テストが実施される、というサイクルを3回繰り返します。

第１回_イントロダクション
第２回_松本：日本の財政赤字と財政再建
第３回_　　日本の所得格差問題とは
第４回_　　地方財政と地方分権
第５回_松本担当・小試験
第６回_ウェザーズ：雇用問題
第７回_　　過剰労働是正
第８回_　　格差是正
第９回_ウェザーズ担当・小試験
第10回_杉田：暮らしと経済
第11回_　　豊かさについて
第12回_　　暮らしの変容
第13回_　　国民生活の課題
第14回_杉田担当・小試験
第15回_まとめの授業

【事前・事後の学習の内容】

講義内で配布された資料や指定された参考書などについて、予習・復習をしてください。

【評価方法】

各担当者の初回の講義で、講義の内容や小試験に関する通知があります。小試験の成績（松本30点満点、ウェザーズ30点満点、杉田40点満点）の合計点により評価を行います。

【テキスト又は参考書】

テキストおよび参考書：必要に応じて、各担当者が講義中に指示します。

【受講生へのコメント】

オムニバス形式の講義なので、それぞれの講義について担当者の指示に従ってください。

授業形態	講義	科目No.	EAPRJ1002
科目名 世界経済の論点		単位数 2	担当教員氏名 森脇 祥太
Course Title Issues on the World Economy		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
日本の明治以降の経済発展を西欧諸国やアジア諸国と比較することが目的です。

【授業の到達目標】
日本の経済発展の特殊性と普遍性を西欧諸国やアジア諸国と比較して明らかにすることが目標となります。

【授業内容・授業計画】
①復習、②トピックスの説明、③新聞・雑誌記事等を使った現状の解説の3つのセクションにわけて授業を進行する予定です。復習のセクションでは小テストを行うことも考えています。

第１回_イントロダクション
第２回_近代経済成長の条件整備
第３回_近代経済成長の概観
第４回_工業化のなかの農業（1）
第５回_工業化のなかの農業（2）
第６回_工業化（1）
第７回_工業化（2）
第８回_資本形成とその源泉
第９回_外国貿易とその役割
第10回_人口と労働供給
第11回_労働市場と二重構造
第12回_財政と金融
第13回_物価と国民生活
第14回_財政と金融
第15回_近代経済成長の回顧と展望
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
①授業で指示した参考書に目を通す、②授業の復習をしっかりする、ことが重要です。

【評価方法】
定期試験の成績です。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特にありません。

参考書：授業中に指示します。

【受講生へのコメント】
特に私語には注意して下さい。

授業形態	講義	科目No.	EAB1J2106
科目名 近代経済学(マクロ経済学2)		単位数 2	担当教員氏名 中嶋　哲也
Course Title Modern Economics (Macroeconomics 2)		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
短期のマクロ経済の動きを把握するためのフレームワークとして、IS-LM分析を中心としたマクロ経済学を詳しく説明する。

【授業の到達目標】
財市場と貨幣市場の相互作用を考慮に入れたうえで、財政政策や金融政策の効果を理解できるようになること。

【授業内容・授業計画】
まず、消費と投資に注目しつつ財市場を取り上げ、次に利子率が重要な役割を果たす貨幣市場について説明する。そして、両市場の相互作用の中でGDP水準がどのように決まるかをIS-LMモデルにより説明する。財政政策・金融政策の効果を検討した後、さらにIS-LMモデルを拡張したマンデル・フレミングモデルを用い、輸出・輸入や資本移動を考慮して、GDP水準の決まり方について説明する。

第１回_ケインズとマクロ経済学
第２回_総生産と政府支出
第３回_乗数効果
第４回_均衡財政乗数
第５回_貨幣供給
第６回_貨幣需要と利子率
第７回_金融政策の効果
第８回_財市場と貨幣市場の相互作用
第９回_IS-LM分析１
第10回_IS-LM分析２
第11回_不況期の問題
第12回_貿易と資本移動
第13回_修正マンデル・フレミングモデル
第14回_金融緩和とバブル
第15回_まとめ
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
授業前に前回講義内容を振り返り、頭の中で議論の流れが繋がるよう準備する。講義内容が明瞭に記憶に残っているうちに、ノートの整理をしておく。

【評価方法】
期末の定期試験で評価する。

【テキスト又は参考書】
テキストはなし。

標準的なマクロ経済学の教科書（三野和雄『マクロ経済学』(2013) 培風館など）は、どれでも参考になる。

【受講生へのコメント】
講義直後の記憶が鮮明なうちに、ノートに補足説明を自分で書いておくことが役に立つ。

授業形態	講義	科目No.	EAB1J2107
科目名 近代経済学(ミクロ経済学2)		単位数 2	担当教員氏名 柴田　淳
Course Title Modern Economics (Microeconomics 2)		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
ミクロ経済学のうち、生産者の行動、市場均衡、独占と寡占について解説します。

【授業の到達目標】
企業の利潤最大化行動、部分均衡分析、一般均衡分析、独占そして古典的な寡占の議論を理解できるようになって下さい。

【授業内容・授業計画】
通常の講義形式。

第１回_はじめに：取り扱う範囲の概説
第２回_生産者の行動：生産関数と費用関数
第３回_生産者の行動：短期費用関数
第４回_生産者の行動：短期における企業行動
第５回_生産者の行動：短期における産業
第６回_生産者の行動：長期費用関数
第７回_生産者の行動：長期における企業行動
第８回_生産者の行動：長期における産業
第９回_一般均衡分析：消費
第10回_一般均衡分析：生産
第11回_一般均衡分析：生産と消費
第12回_部分均衡分析
第13回_独占
第14回_寡占
第15回_生産要素市場
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
事前には、教科書の取り扱い範囲を読んでおいて下さい。事後には、講義中に作成したノートをもとに理解を深めて下さい。

【評価方法】
学期末試験によります。

【テキスト又は参考書】
テキスト：西村和雄「ミクロ経済学入門(第3版)」岩波書店

参考書：なし

【受講生へのコメント】
講義中のノート作成を通して理解を深めて下さい。

授業形態	講義	科目No.	EAB1J2108
科目名 政治経済学Ⅱ		単位数 2	担当教員氏名 脇村 孝平
Course Title Political EconomyⅡ		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

政治経済学Ⅰでは、資本制社会の社会・経済システムにおける「再生産」、「資本蓄積」、「経済発展」の理論について学びました。政治経済学Ⅱでは、資本制社会の社会・経済システムを、「制度」という視角から考えることにいたします。

【授業の到達目標】

本講義では、それらの制度について深い洞察を示した経済学者たちの言説の紹介および解説をしつつ、資本制社会の社会・経済システムにおける「制度」についての皆さんの理解を促したいと思っています。

【授業内容・授業計画】

現代経済を理解するうえで重要だと思われる四つの制度－「市場」（第2回～第4回）、「国家」（第5回～第6回）、「企業」（第7回～第10回）、「貨幣」（第11回～第13回）－を取り上げます。

第１回_「制度」とは何か？
第２回_「制度」としての「市場」
第３回_「市場」への懐疑
第４回_「市場」経済と格差
第５回_ 市場と「国家」
第６回_「国家」と福祉
第７回_「企業」とは何か？
第８回_ 株式会社制度と大「企業」の成立
第９回_「法人」とは何か？
第10回_ 新結合と「企業」者
第11回_「貨幣」、この不思議なるもの
第12回_「貨幣経済」としての市場経済
第13回_ 財政政策か「金融」政策か？
第14回_ まとめ
第15回_ 予備日
定期試験

【事前・事後の学習の内容】

毎回、コミュニケーション・カードを配り、前回の授業のポイントを書いてもらいます。

【評価方法】

以下の二点で評価します。
1. 毎回の講義の後の、コミュニケーション・カードの提出
2. 期末試験

【テキスト又は参考書】

テキストは、使用しません。ただし、毎回、プリントを配ります。

【受講生へのコメント】

経済学には多様な学派が存在します。本講義では、多くのアプローチを紹介する中で、経済学の面白さを理解してもらいたいと思っています。

授業形態	講義	科目No.	EAB1J2104
科目名 経済数学		単位数 2	担当教員氏名 落合　隆
Course Title Mathematics for Economics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
ゲーム理論の基礎を解説し、簡単な問題を解けるようにすること。

【授業の到達目標】
ゲーム理論を利用していろいろな戦略的思考法を身につけること。

【授業内容・授業計画】
テキストを使用して毎回講義形式の授業を行う。

第１回_ゲーム理論への招待
第２回_戦略形ゲームの基礎　①戦略形ゲームと利得行列
第３回_戦略形ゲームの基礎　②戦略形ゲームを解く
第４回_完全情報の展開形ゲーム　①展開形ゲーム
第５回_完全情報の展開形ゲーム　②完全情報展開形ゲームの応用
第６回_戦略形ゲームの応用　①弱支配戦略と支配されないナッシュ均衡
第７回_戦略形ゲームの応用　②オークション
第８回_不完全競争市場への応用　①クールノー競争
第９回_不完全競争市場への応用　②ベルトラン競争とシュタッケルベルグ競争
第10回_混合戦略　①混合戦略とナッシュ均衡
第11回_混合戦略　②２×２の混合戦略のナッシュ均衡を求める
第12回_一般の展開形ゲーム　①不完全情報の展開形ゲーム
第13回_一般の展開形ゲーム　②展開形ゲームの構成要素と部分ゲーム完全均衡点
第14回_一般の展開形ゲーム　③展開形ゲームと戦略形ゲームの関係
第15回_一般の展開形ゲーム　④投票とゲーム理論
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
テキストの各章の終わりに練習問題があるのでそれを宿題とする。

【評価方法】
期末テスト７割と宿題の提出３割で評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：『ゼミナールゲーム理論入門』　渡辺隆裕著　日本経済新聞出版社

【受講生へのコメント】
テキストの練習問題と同程度の問題を期末テストとするので、必ず自ら問題を解くこと。

授業形態	講義	科目No.	EAB2J3206
科目名 産業経済論		単位数 2	担当教員氏名 浦西　秀司
Course Title Industrial Economics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
産業の規制政策について、その根拠および問題点を簡単なミクロ経済学の理論をもとに解説する。

【授業の到達目標】
現行の規制政策を簡単な経済学の理論に基づいて解説できるようになることを到達目標とする。

【授業内容・授業計画】
パワーポイントによるスライドを使用する。

第１回_授業の進め方
第２回_規制の定義と分類
第３回_社会的余剰
第４回_市場の失敗
第５回_自然独占
第６回_公共財の供給
第７回_外部性
第８回_料金水準論
第９回_料金体系
第10回_公共料金の決定理論
第11回_公益事業の価格理論（１）－フルコスト価格・二部料金制度－
第12回_公益事業の価格理論（２）－ピークロード価格・ラムゼイ価格－
第13回_公益事業の規制方式（１）－総括原価方式－
第14回_公益事業の規制方式（２）－インセンティブ規制－
第15回_公的供給と民営化
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
事前の学習：特になし。
事後の学習：説明した内容について復習しておくこと。

【評価方法】
期末試験および中間レポートによって評価する。持ち込みは不可。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし。

参考書：授業中に適宜指示する。

【受講生へのコメント】
あらかじめ新聞やニュースなどを通し、我が国の社会・経済の仕組みへの関心を高めておくことを希望します。

授業形態	講義	科目No.	EAB2J3251
科目名 経済学説史特殊講義		単位数 2	担当教員氏名 若森みどり
Course Title Special Lecture on History of Political Economy		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】 カール・ポランニーの経済学説―時代・理論・思想
近年、世界経済フォーラムなどの国際会議などでも、市場経済的な社会改革の推進による諸帰結（投機化する金融市場、格差拡大、社会的排除、民主主義の後退、政治不信、自国第一主義、紛争地帯の拡大、高まる政治的緊張）が厳しく問われる際に、カール・ポランニーの名前が登場する。本講義では、モントリオールのコンコーディア大学附属のカール・ポランニー政治経済研究所を拠点とする国際的な研究成果を反映させて、ポランニー学説を「時代・理論・思想」の諸側面からとりあげる。

【授業の到達目標】
講義の目標は、①リーマン・ショック以降、世界中で関心を呼びおこしているポランニーの主著『大転換』や近年編訳・邦訳された論文集『市場社会と人間の自由』や『経済と自由』などのポランニーの著作のテーマを理解すること、②市場経済、市場社会を支える思想と制度、市場社会の限界、のりこえ方などなどについて、ポランニーが提起した問題を踏まえて考察すること、である。

【授業内容・授業計画】
授業では、ポランニー自身が執筆した一次資料として『[新訳]大転換』東洋経済新報社、『経済と自由』筑摩書房、『市場社会と人間の自由』大月書店をとりあげる。また、その学説の理解を助け、深めるために二次資料として、拙著『カール・ポランニー』NTT出版および、『カール・ポランニーの経済学入門』平凡社を参照する。

第１回_序論　現代に甦るカール・ポランニー
第２回_カール・ポランニーの生涯と思想①-思想形成の軌跡　前編-
第３回_カール・ポランニーの生涯と思想②-思想形成の軌跡　後編-
第４回_「市場社会」の起源①-産業革命と市場社会-
第５回_「市場社会」の起源②-救貧法論争と市場社会-
第６回_「市場社会」の起源③-経済的自由主義と対抗論理の誕生
第７回_市場ユートピアという幻想①-二重運動：市場の拡大と社会的保護-
第８回_市場ユートピアという幻想②-二重運動についての対立する解釈-
第９回_市場社会の危機①-経済と民主主義-
第10回_市場社会の危機②-ファシズムの精神と制度-
第11回_市場社会・産業文明・人間の自由-講演原稿「自由と技術」-
第12回_東西冷戦期の経済社会学への挑戦①-ウェーバーからアリストテレスの「再発見」へ-
第13回_東西冷戦期の経済社会学への挑戦②-アリストテレスとガルブレイスの「良き生活」-
第14回_東西冷戦期の経済社会学への挑戦③-アリストテレスとジャン・ジャックルソーの結合-
第15回_19世紀文明の崩壊と20世紀の形成、20世紀文明の崩壊と21世紀 - 転換期をいかに生きるか -
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
授業内容の理解を確かなものとするためにコミュニケーション・カードの提出を時々求める。授業内容の節目には内容理解を強化する目的で小テストを実施する。授業での配布資料に該当する参考文献を読むなど、予習・復習をしてもらう。

【評価方法】
学年末試験に対する評価が主となる。なお、通常授業時のコミュニケーションカードや小テストで出題した問題は、学期末試験にもしっかりと反映させる。

【テキスト又は参考書】
参考書：ポランニー『[新訳]大転換』東洋経済新報社、ポランニー『経済と自由』筑摩書房、ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、若森みどり『カール・ポランニー』NTT出版、若森みどり『カール・ポランニーの経済学入門』平凡社

【受講生へのコメント】
テキストは指定せず、上記の参考書から内容を組み合わせたレジュメを配布する。しかし、受講生が上記の参考書から関心のあるものを直接手に取って読むことが必要である。受講生との対話のなかで、授業計画を前後させるなど変更する場合がある。

授業形態	講義	科目No.	EAB2J3203
科目名 日本経済史		単位数 2	担当教員氏名 彭　浩
Course Title Economic History of Japan		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
本講義は、日本経済史を概観するものである。江戸時代・幕末・明治期に重点を置いて講義を行う。

【授業の到達目標】
受講生が日本経済発展の流れ、とくに経済近代化の過程を系統的に把握できることを主な目標とする。

【授業内容・授業計画】
基本的には時系列に沿って進めていく。日本経済と世界経済との連動性（たとえば、日本の海外貿易、貿易・国際競争による国内の産業構造への影響、近代化に伴う西洋式の生産・経営仕組みの導入）などに重点を置く。

第１回_イントロダクション
第２回_概説：伝統社会の形成
第３回_東アジア通商圏の展開
第４回_大航海時代の到来と日本
第５回_南蛮貿易の時代
第６回_朱印船貿易と「南洋」進出
第７回_海外通商：「四つの口」から世界へ
第８回_港市長崎の形成
第９回_長崎貿易の構造
第10回_江戸時代の産業振興
第11回_開国前夜の世界
第12回_開港と居留地貿易
第13回_日本の産業革命
第14回_国内資本の海外進出
第15回_総括
＊授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。

【事前・事後の学習の内容】
参考書や参考資料を読んで予習する。授業中のメモと配布資料などを読んで復習を行う。

【評価方法】
期末試験（資料の持ち込み不可）の成績(80%)、授業中の取り組み(20%)

【テキスト又は参考書】
テキスト：なし

参考書：石井寛治『日本経済史』第2版（東京大学出版会、1991年）、三和良一『概説日本経済史：近現代』第3版（東京大学出版会、2012年）など。

【受講生へのコメント】
私語は慎むこと。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4205
科目名 経済変動論		単位数 2	担当教員氏名 森　誠
Course Title Dynamic Economics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
長期にわたる最適化の観点からケインズ派モデルと新古典派モデルを検討します。

【授業の到達目標】
ケインズ派モデルはミクロ的基礎がないから無意味であるという批判がよくなされるが、新古典派流のミクロ的基礎を導入したとしてもケインズ派の主張はなお成立することを理解することを目標とします。

【授業内容・授業計画】
まず、マクロ経済学での短期モデルからはじめ、次に資本蓄積を考慮した長期モデルの基本を解説します。そして、貯蓄率の内生化の議論を紹介します。それらに慣れたうえで、ケインズモデルと新古典派モデルを対比します。

第１回_ガイダンス
第２回_短期ケインズモデル1－IS=LMモデル－
第３回_短期ケインズモデル2－AD=ASモデル－
第４回_短期新古典派モデル1－IS=LMモデル－
第５回_短期新古典派モデル2－AD=ASモデル－
第６回_長期モデル
第７回_貯蓄率の内生化1－最適化の手法－
第８回_貯蓄率の内生化2－2期間モデル－
第９回_2期間ケインズモデル1－純粋モデル－
第10回_2期間ケインズモデル2－政府の予算制約－
第11回_2期間新古典派モデル1－純粋モデル－
第12回_2期間新古典派モデル2－政府の予算制約－
第13回_新古典派モデルとケインズモデルの比較
第14回_新古典派モデルとケインズモデルにおける政策比較
第15回_まとめ
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
授業前は前回の内容の確認を行うこと。授業後は講義内容を復習し出題された練習問題を解くこと。

【評価方法】
期末試験を行う。場合によっては小テストを行う。

【テキスト又は参考書】
参考書：森　誠『長期にわたる最適化とケインズ経済学』、晃洋書房、2011年。

【受講生へのコメント】
参考書の後半以降は学部生にとっては難しい内容を含むが、講義で参考にする部分は初等的な微分ができれば諸君らが理解できる部分である。また、必要な技法は解説するので、参考書の見かけの難しさに惑わされないように。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4257
科目名 統計解析論特殊講義		単位数 2	担当教員氏名 中川　満
Course Title Special Lecture on Statistics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
時系列分析の基礎的な手法を解説する。

【授業の到達目標】
時系列分析理論の基礎を習得し、簡単な分析ができるようにする。

【授業内容・授業計画】
教科書にそって時系列分析手法を解説する。

第１回_ガイダンス
第２回_線形回帰の復習
第３回_決定係数とｔ値
第４回_自己共分散関数
第５回_自己相関関数
第６回_自己回帰（AR)モデル　AR(1)
第７回_自己回帰（AR)モデル　AR(p)
第８回_自己回帰係数の検定（風呂敷検定）
第９回_移動平均（MA)モデル　MA(1)
第10回_移動平均（MA）モデル　MA(p)
第11回_自己回帰移動平均モデル　ARMAモデル
第12回_時系列モデルの特定化（BOX-JENKINSの方法）
第13回_移動平均化（ウォルド分解）
第14回_単位根過程と単位根検定
第15回_試験対策
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
教科書の予復習

【評価方法】
定期試験による

【テキスト又は参考書】
テキスト：森棟他『統計学（改訂版）』有斐閣

参考書：森棟『計量経済学』東洋経済新報社

【受講生へのコメント】
時系列分析は色々役に立ちます。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4250
科目名 経済情報論特殊講義		単位数 2	担当教員氏名 上田　智巳、今庄　啓二
Course Title Special Lecture on Economic of Information		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

われわれは、自らの周囲から得た情報を取捨選択・評価し、それに基づいて思考・推論し、次にとるべき行動を決定している。この一連のプロセスは、ある種の情報処理過程と見なすことができる。つまり、われわれは、ある種の情報処理システムであるといえる。

この講義では、「情報処理システムとしてのわれわれ（人間）」について検討していく。

【授業の到達目標】

多くの実証的な研究が積み重ねられた結果、われわれが行う情報処理は必ずしも合理的ではないことが明らかになってきた。伝統的な経済学では、人間は完全に合理的であると仮定されてきたが、この仮定は人間の実態にそぐわないものだといえる。このような認識は、経済学界の内外で浸透してきている。この授業では、われわれが行う情報処理の仕組み、特徴、傾向について（「われわれはどのように合理的でないのか」について）理解を深めることを目指す。

【授業内容・授業計画】

情報処理システムとしてのわれわれは、いくつかのサブシステムに分けることができる。それらのサブシステムごとに、その仕組みや特徴を紹介する。また、われわれは個々に独立（孤立）した存在ではなく、他者から影響を受け、他者に影響を与える。他者の存在が、個々人の情報処理にどのような影響を及ぼすのかについても取り上げる。

第１回_この講義の概要・全体像
第２回_情報処理システムとしての人間
第３回_注意
第４回_記憶の種類と特徴
第５回_知識の構造
第６回_演繹的推論
第７回_事例紹介（１）
第８回_事例紹介（２）
第９回_確率的推論
第10回_対人認知
第11回_原因帰属
第12回_態度と説得
第13回_集団における判断・意思決定
第14回_感情・情動
第15回_まとめ
定期試験

【事前・事後の学習の内容】

各回の授業内容は、前回までの内容を前提としたものとなる。したがって、各回の授業前には、必要に応じて、前回までの内容を復習しておいてほしい。

【評価方法】

期末試験（70%）および提出課題（30%）を材料として、評価する。

【テキスト又は参考書】

テキストは用いない。参考書については、講義中に紹介する。

【受講生へのコメント】

内容の多くは、必ずしも経済学のみに特化したものではないが、経済学にとって大きな示唆となりうると考える。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4217
科目名 財政学		単位数 2	担当教員氏名 松本　淳
Course Title Public Finance		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
現代の財政制度やその課題、そして改革の方向といったことを総合的に理解することは大変難しい。それは、現代の財政が複雑化していると同時に、財政学の理論も近年、多様となっているためである。本講義では、この複雑化した財政をできる限り理解してもらうために、財政理論、財政の歴史、そして財政制度に関するトピックスというように一方向に偏らない講義を心がける。

【授業の到達目標】
本講義における到達目標は、まずは財政学に関する基礎知識を身につけてもらうことである。しかし、知識を身につけるだけにとどまらず、財政に対する興味・関心を受講後も持ち続けてもらうこと、また、財政について「自分の頭で考える」きっかけを作ることも目標とする。

【授業内容・授業計画】
毎回の講義ではレジュメおよび資料をスクリーン・モニターに映しながら講義を進める。出席者には毎回、スクリーン・モニターに映し出すレジュメと資料を配布する。

第１回_本講義の趣旨・問題意識の確認とガイダンス
第２回_財政学とは何を考える学問か？
第３回_政府の必要性についての財政理論
第４回_資源配分調整機能についての財政理論
第５回_所得再分配機能についての財政理論
第６回_経済安定化機能についての財政理論
第７回_日本財政の歴史（高度成長期の財政史）
第８回_日本財政の歴史（オイルショックから臨調行革までの財政史）
第９回_日本財政の歴史（バブル景気からバブル崩壊まで）
第10回_日本財政の歴史（平成不況の始まり）
第11回_日本財政の歴史（小泉改革から政権交代まで）
第12回_日本財政の歴史（リーマン・ショックから現在まで）
第13回_トピック１　土建国家という日本独特の公共事業
第14回_トピック２　生活保障とセーフティネットについて
第15回_トピック３　地方創生をどのように考えるか
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
毎回の講義の最後に、簡単に次回の講義のあらすじを伝えるので受講者は事前に関心のある文献を読むと理解が深まると思われる。また、毎回の講義後は配布レジュメと資料を復習しておくこと。

【評価方法】
学期末の試験により評価する。持ち込みは不可とする。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし

参考書：特になし

【受講生へのコメント】
講義では、一方的なものとならないように、受講する学生に目を配りながら、時には質問をすることもある。ぜひ恥ずかしがらずに答えてもらいたい。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4272
科目名 日本経済論特殊講義		単位数 2	担当教員氏名 滋野　由紀子
Course Title Special Lecture on Japanese Economy		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
わが国の出生率は、合計特殊出生率でみると2016年は1.44で、戦後最低を記録した2005年の1.26よりは若干持ち直したものの依然として低水準にある。少子高齢化はいよいよ社会の深刻な問題となっている。本講義では、①少子化の原因と少子化対策について、②少子高齢化の結果として生じてきた経済問題について考えていきたい。

【授業の到達目標】
現在の少子・高齢化に関わる日本経済の課題を理解し、経済学的に考える力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
講義形式で行う。適宜、参考資料を配付する。

第１回_イントロダクション
第２回_将来の人口推移
第３回_少子化の要因
第４回_育児にともなうディスインセンティブ
第５回_女性の就業と出産・育児の両立
第６回_わが国の少子化対策
第７回_諸外国の少子化対策
第８回_ワーク・ライフ・バランス
第９回_労働力への影響
第10回_貯蓄率への影響
第11回_社会保障（公的年金）システムへの影響
第12回_社会保障（公的医療）システムへの影響
第13回_経済成長率の行方
第14回_少子・高齢化に関わる日本経済の課題
第15回_まとめ
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
授業で取り上げるテーマに関連する文献を読んで、理解を深めること。

【評価方法】
レポート（30%）、期末試験(70%)によって評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし

参考書：授業中に、適宜、提示する。

【受講生へのコメント】
毎日のニュース、身近に起きている変化に興味を持ってください。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4274
科目名 産業技術論特殊講義		単位数 2	担当教員氏名 坂上　茂樹
Course Title Special Lecture on Philosophy and History of Industrial Technology		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
熱機関技術史の忘れられた、しかし重要な側面に光を当てる。

【授業の到達目標】
主題についての理解を含める。

【授業内容・授業計画】
概ね以下の通り。

第１回_総序
第２回_蒸気動力システムにおける異物の問題
第３回_各種ボイラにおける吹出し技術の開発
第４回_罐石対策としての清罐剤と胴底吹出し
第５回_泡立ち対策としての表面吹出し
第６回_罐水濃度維持のための表面連続吹出し
第７回_イギリスとアメリカの機関車ボイラにおける胴底連続吹出しの導入
第８回_鉄道省機関車ボイラにおける今村式罐水清浄装置
第９回_内燃機関と蒸気機関における潤滑問題
第10回_陸軍軍用自動車における戦地消耗の実態
第11回_陸軍車輌用発動機における潤滑油消費率の実態
第12回_陸軍戦車学校における問題の把握と技術改良方案
第13回_対照事例としての蒸気機関における潤滑
第14回_小括
第15回_総括
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
テキストはリポジトリにアップされているので随時、参照すること。

【評価方法】
期末試験による。

【テキスト又は参考書】
テキスト：大阪市立大学学術機関リポジトリにアップしておく。タイトルを見れば「これか！」と判るようにしておく。

【受講生へのコメント】
特になし

授業形態	講義	科目No.	EAAPE4231
科目名 国際協力論		単位数 2	担当教員氏名 Yukari Iwanami
Course Title International Cooperation		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
This class introduces students to the basic concepts, issues, and approaches to international cooperation.

【授業の到達目標】
This course is aimed at helping students improve their analytical skills, enhance their critical thinking, and develop their own perspectives on various issues surrounding contemporary international society.

【授業内容・授業計画】
This class is held in English. We first go through basic concepts of international cooperation, and then explore the causes of interstate war and conflict.
The schedule is subject to change.

第１回_Introduction
第２回_Actors, Interests, Interactions
第３回_State Sovereignty and Anarchy
第４回_Power and Coercive Diplomacy
第５回_Cooperation and Bargaining
第６回_Coordination Problem
第７回_Collaboration Problem
第８回_Collective Action Problems
第９回_Bargaining
第10回_Bargaining
第11回_Causes of War (Incomplete Information)
第12回_Causes of War (Incomplete Information)
第13回_Causes of War (the Commitment Problem)
第14回_Causes of War (the Commitment Problem)
第15回_Review
Final Exam

【事前・事後の学習の内容】
Students are expected to read the textbook before and after class.

【評価方法】
Final Exam 100% (Students may answer questions in Japanese.)

【テキスト又は参考書】
Jeffry A. Frieden, David A. Lake, and Kenneth A. Schultz. 2015.
World Politics: Interests, Interactions, Institutions . 3rd ed. WW Norton & Co.

【受講生へのコメント】
If some students are engaging in inappropriate behavior (including talking to other students, interrupting, talking on the phone), I will ask them to leave the classroom.

授業形態	講義	科目No.	EAAPE4201
科目名 各国経済論特殊講義(経済英語1)		単位数 2	担当教員氏名 Charles Weathers
Course Title Economic English 1		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
基本的なビジネスや経済についての知識を得るとともに、こうしたことを英語で話すことが出来るようになることを目的にしています。

【授業の到達目標】
英文の資料を読みこなし、英語を使って自らの知識、考えを積極的に述べることができるようになることを目標としています。

【授業内容・授業計画】
アダム・スミスの自由市場の論理から始め、様々な企業や企業家などの活動について取り上げる予定です。
毎回テーマに従って英文の資料を読み、英語でのディスカッションを行います。また、英語でのミニ報告をしてもらいます。

第１回_Henry Ford
第２回_Ford Motor
第３回_Toyota Motor and Japan's pre-1945 auto industry
第４回_Nissan and postwar Japan's auto industry
第５回_Thomas Edison
第６回_General Electric
第７回_Mid-term exam
第８回_Thomas Watson and the birth of the American computer industry
第９回_IBM and the US's computer industry
第10回_John Maynard Keynes
第11回_Keynesianism and the postwar economy
第12回_Norman Borlaug and the Green Revolution
第13回_The Green Revolution in Asia
第14回_Presentation workshop
第15回_Student presentations
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
配布された資料を読んでおいてください。

【評価方法】
授業への積極的な参加が最も重要ですが、その他に小試験と学期末のテストも評価の対象とします。

【テキスト又は参考書】
テキストおよび参考書：毎週、課題として、テーマに関連する短い英文の資料を配布します。

【受講生へのコメント】
20人を定員としています。参加希望の学生が２０人を超えた場合、面接などの方法によって選択します。掲示板を見てください。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4251
科目名 経済統計論特殊講義A（コンピュータ講座）		単位数 2	担当教員氏名 中島　義裕
Course Title Special Lecture on Economic Statistics A		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
様々な業務がコンピュータ上で処理されるようになり、会社などの組織の役割なども含めた全ての構造を、そのままプログラム構造に反映させる必要性が生じました。オブジェクト指向プログラミングは、この要請によって生み出されたプログラムの作成方法です。現在は、業務や組織などを表現する表記方法として脚光を浴び、マネージメントなど「文系的」な職種でも活用されるようになっています。プログラミングを学ぶことで、オブジェクト指向の考え方を身につけます。

【授業の到達目標】
下記の３つの能力を身につける事を目標にします。
1) 業務などを適切な要素に分解できる能力を身につける。
2) その関係を明確に関連付ける能力を身につける。
3) それらが全体として矛盾が生じないような分析能力を身につける。

【授業内容・授業計画】
JAVAプログラミングを学びます。基礎的な文法から始まり、パン屋や定食屋のシミュレーションを行い、どのような経営戦略を取ると、利益を最大にできるのか検討します。
授業では、毎回課題が与えられます。授業中に、その課題を完成し提出してもらいます。

第１回_ガイダンス
第２回_JAVAの基礎
第３回_変数
第４回_配列
第５回_for 文
第６回_if 文
第７回_パン屋のシミュレータ作成
第８回_パン屋のシミュレーションと経営戦略　最適な生産数を求める。
第９回_メソッドの作り方
第10回_メソッドの使い方
第11回_パン屋のシミュレーションと経営戦略　売り切れ戦略と売り残し戦略の分岐点
第12回_クラスの作り方
第13回_クラスの使い方
第14回_定食屋のシミュレータ作成
第15回_定食屋のシミュレーションと経営分析　競争相手がいる場合
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
事前学習：授業で使用するテキストを配布するので、それを予習すること
事後学習：授業中の解説を元に課題を完成させ提出する。

【評価方法】
毎回提出する課題により評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし

参考書：特になし

【受講生へのコメント】
プログラミング経験がない人が受講することを前提として授業をします。

授業形態	講義	科目No.	EAAPE3101
科目名 Economic Reading		単位数 2	担当教員氏名 Charles Weathers
Course Title Economic Reading		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
現在世界で起きている問題について、英文の資料から読み解くことを目的としています。

【授業の到達目標】
主に経済関連の英文の資料を理解し、英語で質疑応答ができるようになることを目標としています。

【授業内容・授業計画】
原則的に英文で書かれた経済関連の新聞記事や雑誌の記事を読み、ディスカッションを行います。参考資料は、New York Times、Washington Post、The Guardian、Wall Street Journalなどの新聞、またThe Economist などの雑誌です。授業では記事について英語で要約や質問表を作成し、ディスカッションをします。

第１回_Introduction
第２回_General class discussion, instructor-led
第３回_Small group discussions
第４回_Reading on political topic
第５回_Reading on social topic
第６回_Special activity
第７回_Reading on political economy topic
第８回_Reading on women's issues
第９回_Reading on international relations problem
第10回_Reading on aging society
第11回_Reading on domestic environmental issues
第12回_Reading on international environmental issues
第13回_Reading on low-birth society
第14回_Reading on aging society
第15回_Class conclusion and wrap-up
Final test

【事前・事後の学習の内容】
要約及び質問表の作成をしてもらいますが、毎回、教員が助言、指導します。

【評価方法】
宿題の提出、授業への参加、取り組みの姿勢で評価します。

【テキスト又は参考書】
テキストおよび参考書：毎週、課題として、新聞の記事など英語の資料およびワークシートを配布します。

【受講生へのコメント】
16人を定員としています。参加希望の学生が16人を超えた場合、面接などの方法によって選択します。掲示板を見てください。

授業形態	講義	科目No.	EAAPE4206
科目名 Lectures on Economics A		単位数 2	担当教員氏名 中村 英樹 ほか
Course Title Lectures on Economics in English A		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

In this course each of the lecturers will show you different aspects of the contemporary economy under the pressure of globalization.

【授業の到達目標】

All the lectures will be given in English for the students to get accustomed to English hearing and thinking.

【授業内容・授業計画】

Three lecturers will speak about the following themes.
The Theme 1) What Does Mechanization Give Us? : Hideki Nakamura
The Theme 2) Analyzing the Nature and Causes of Globalization: Kengo Nakamura
The Theme 3) The Global North/South Devide Revisited: Kohei Wakimura

第１回_Introduction: Hideki Nakamura
第２回_The Theme 1)-1: Mechanization in an Economy (Hideki Nakamura)
第３回_The Theme 1)-2: Mechanization, Wages, and Economic Growth (Hideki Nakamura)
第４回_The Theme 1)-3: Mechanization and Skilled and Unskilled Labor (Hideki Nakamura)
第５回_The Theme 1)-4: Mechanization and Employment (Hideki Nakamura)
第６回_The Theme 2)-1: Globalization of Economy (Kengo Nakamura)
第７回_The Theme 2)-2: Historical Origins of Economic Globalization (Kengo Nakamura)
第８回_The Theme 2)-3: Globalization of Politics (Kengo Nakamura)
第９回_The Theme 2)-4: Globalization of Communication, Society and Culture (Kengo Nakamura)
第10回_The Theme 3)-1: The Origin of Global North/South Devide (Kohei Wakimura)
第11回_The Theme 3)-2: Terms of Trade Debate (Kohei Wakimura)
第12回_The Theme 3)-3: New International Division of Labour (Kohei Wakimura)
第13回_The Theme 3)-4: Is there no North/South Divide? (Kohei Wakimura)
第14回_Summary: Kohei Wakimura
第15回_Submission of the Term Report

【事前・事後の学習の内容】

The students will be requested to read some English texts or materials after each lecture.

【評価方法】

Each lecturer will give you a subject of the term report, and you can choose the most favorable subject for your report. The students are requested to submit the term report at the end of the semester. The result will be graded according to the level of the term report.

【テキスト又は参考書】

There is no textbook on the lectures. Instead, each lecturer will give you some texts or materials on the lectures.

【受講生へのコメント】

The Lecturers expect that the students will learn how to situate themselves in the globalizing world.

授業形態	講義	科目No.	EAAPE4205
科目名 Introduction to International Economics		単位数 2	担当教員氏名 久保　彰宏
Course Title Introduction to International Economics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

This course offers a general introduction to International Economics.

【授業の到達目標】

The main objective of the course is to train you in studying the basic knowledge of International Economics in English.

【授業内容・授業計画】

This course is designed to cover a wide variety of topics, such as trade, finance and development. In addition, we will discuss some issues every class.
基本的に講義言語は英語を使用するが，初回ガイダンスや専門用語に関しては日本語を適宜用いる。

第１回_Prescription?
第２回_Macroeconomics (Basic)
第３回_Gross Domestic Product
第４回_Trade & Technology
第５回_The Classical View of Trade
第６回_Free Trade and Complications
第７回_Foreign Aid
第８回_Foreign Currencies
第９回_The End of Poverty?
第10回_Prescription for a Happy Society
第11回_Hot Issue <Education>
第12回_Hot Issue <Poverty>
第13回_Hot Issue <Trade>
第14回_Hot Issue <Exchange rates>
第15回_Discussion
定期試験

【事前・事後の学習の内容】

配布資料の見直しと復習をすること。

【評価方法】

Attendance and participation, Quizzes, Exams/Research Project
受講者の人数によってディスカッションやプレゼンテーションを取り入れるため評価方法を変更する可能性がある。

【テキスト又は参考書】

None

【受講生へのコメント】

Students are expected not only to attend all classes but to be active in discussion as well.
語学力は問わない。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ3201
科目名 商業簿記基礎論		単位数 2	担当教員氏名 小田　和幸
Course Title Basic Commercial Bookkeeping		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

企業の経済事象は、簿記で財務諸表を作成することで初めて把握できます。
そして、その財務諸表を読みとることで、企業が経済活動を続けるための原動力となる経営管理や業績評価を行うことが可能となります。
本講義では、まず簿記の重要性や基本的な知識（日本商工会議所簿記検定3 級レベル）を学習します。その上で、会計の用語・財務諸表の構造・読み方分析等、財務諸表を理解するために必要な基礎的な力を身につけます。

【授業の到達目標】

日本商工会議所簿記検定3 級合格レベルの計算能力を身につける。
財務諸表の理解力を深めて経済学の知識に役立てる。

【授業内容・授業計画】

第１回_ガイダンス・簿記の目的
第２回_取引・仕訳・勘定記入・試算表
第３回_商品売買・現金の記帳方法
第４回_預金・手形の記帳方法
第５回_手形・有価証券の記帳方法
第６回_その他の勘定の記帳方法、主要簿
第７回_決算・英米式決算法
第８回_その他の決算整理
第９回_その他の決算整理
第10回_財務諸表の作成
第11回_収益性分析
第12回_収益性分析
第13回_安全性分析
第14回_採算性分析
第15回_定期試験

【事前・事後の学習の内容】

新しい学問ですので事前の学習はテキストの該当範囲を一読するのみで結構です。
事後の学習は問題集の計算演習を複数回行うようにして下さい。
重点的に計算演習が必要な項目は講義内でお伝え致します。

【評価方法】

出席状況、小テストの成績および期末試験の成績で評価します。
詳細は第１回のガイダンスでお話しします。

【テキスト又は参考書】

ALFA 3 級商業簿記テキスト、問題集、解答解説集

【受講生へのコメント】

財務諸表の読み方が分かれば、経済学の理解に役立ちます。身近な企業の数値を確認しながら簿記の基礎的範囲を学習し、幅広い知識を身につけて経済学の理解に役立ててください。
なお、出席する際には教材および電卓を必ず持参して下さい。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ3202
科目名 証券経済論特殊講義(野村証券講座)		単位数 2	担当教員氏名 福原　宏幸
Course Title Special Lecture on Security Economics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
資本市場に求められる役割とは何か。激変する世界の資本市場の全容と投資のリスク＆リターンの考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ分析・外国為替相場など、証券投資における重要なテーマに関する理論と応用を実務に従事している講師より実践的な視点から講義する。

【授業の到達目標】
３つの目的をもって受講してもらいたい。１つは経済学を学ぶにあたって必要な知識とし、応用理論としての証券論である。債券や証券の価格理論や利子率、企業利益に関する知識は経済学の基礎としても応用としても役立つものである。２つ目はポートフォリオに代表されるリスク管理の考え方である。このアイデアは証券投資で利用される「特殊な技術」ではなく現在、非常に広い範囲で応用されている。最後にグローバル化である。野村グループは世界30カ国以上に28,865人(2016年12月末現在)の役職員が在籍し、その国籍は70カ国に及んでいる。グローバル化における先進的な取り組みから生きた知識を学び取ってほしい。

【授業内容・授業計画】
野村證券のスタッフが交代で講義を行う。配布資料やレジュメを用いた講義形式で行う。
　※講義計画は、野村證券ならびに野村グループ各社の人事異動やその他諸般の事情により変更される場合がある。
第１回_ガイダンス
第２回_経済情報の捉え方ライフプランニングとNISA
第３回_リスク・リターンとポートフォリオ分析
第４回_株式市場の役割と投資の考え方
第５回_債券市場の役割と投資の考え方
第６回_投資信託の役割とその仕組み
第７回_外国為替相場とその変動要因について
第８回_グローバル化する世界と資本市場の果たす役割
第９回_産業展望と投資の考え方
第10回_ライフプランと資産形成
第11回_公的年金制度について
第12回_確定拠出年金(DC)について
第13回_DCポートフォリオの作成
第14回_マネープランの作成
第15回_試験
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。

【評価方法】
期末試験で評価する。

【テキスト又は参考書】
「証券投資の基礎」　野村證券投資情報部 編　丸善株式会社
　※講義資料は毎回講師が用意する。

【受講生へのコメント】
講義にしっかり集中し、授業のたびごとに理解することを心がけるようにしましょう。
私語、スマホ操作、居眠り、特別の理由のない遅刻・途中退出といった受講上のマナー違反を慎むこと。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ5501
科目名 経済史上級講義		単位数 2	担当教員氏名 彭　浩
Course Title Advanced Lecture on Economic History		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
本講義の目的は、経済史の研究がどのように行われているかを参加者に理解してもらうことである。貿易・都市・産業などのいくつかのテーマを取り上げ、関連する史料を解説する。テーマと史料の選択範囲は、日本・中国の近世・近代期（主に17世紀～19世紀）である。経済史関係の史料の解読と分析の練習を実施する。

【授業の到達目標】
経済史研究の方法を理解すること、経済史関係の史料（本講義が扱うテーマの範囲内）が読めることを目標とする。

【授業内容・授業計画】
主に5つのテーマについて講義を進めていく。①通商制度（とくに通商条約が成立する前の時代）、②港市の運営と商業空間、③商人団体の形成、④商業都市と市場圏、⑤産業振興と国産化。具体的な課題については、次の授業計画を参照。

第１回_イントロダクション
第２回_通商制度の分析（１）長崎会所の経営構造
第３回_通商制度の分析（２）「信牌」制のメカニズム
第４回_通商制度の分析（３）トレーディング・パス
第５回_通商制度の分析（４）取引契約
第６回_港市の運営（１）仲介業者
第７回_港市の運営（２）労働者とその編成
第８回_港市の商業空間―長崎・広州・釜山の比較―
第９回_商人団体の形成（１）糸割符仲間と五ヶ所商人
第10回_商人団体の形成（２）唐船貿易と「両局」
第11回_商業都市と市場圏（１）江戸時代の大坂
第12回_商業都市と市場圏（２）明清時代の蘇州
第13回_産業振興と国産化（１）生糸と織物産業
第14回_産業振興と国産化（２）磁器・砂糖・薬種
第15回_総括

＊授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。

【事前・事後の学習の内容】
授業前、次回講義のテーマに関わる基礎知識を自ら調べて予習を行う。授業後、史料分析を中心とした小レポートを作成する。

【評価方法】
授業中の練習問題（50%）と小レポート（50%）による総合評価

【テキスト又は参考書】
テキスト：とくに指定しない。

参考書：彭浩『近世日清通商関係史』（東京大学出版会、2015年）。ほかにも多数あり、授業中に随時指示する。

【受講生へのコメント】
私語は慎むこと。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ5502
科目名 経済政策上級講義		単位数 2	担当教員氏名 辻　賢二
Course Title Advanced Lecture on Economic Policy		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
ミクロ経済学１・２及びマクロ経済学１・２の知識を前提に、金融政策論を学ぶ。特に、IS-LMモデル及び総需要曲線・総供給曲線を理解しているものとして授業を行う。

【授業の到達目標】
金融政策論の基礎知識を習得し、現実の金融政策問題について経済学的に考える力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
金融政策手段など基本的な話から、日本の金融政策の話まで幅広く講義する予定です。

第１回_中央銀行
第２回_貨幣論(1)：貨幣の機能と定義
第３回_貨幣論(2)：貨幣供給
第４回_金融政策の理論(1)：IS-LMモデルと金融政策
第５回_金融政策の理論(2)：金融政策の有効性
第６回_金融政策の理論(3)：金融政策運営の２段階アプローチ
第７回_金融政策の理論(4)：裁量かルールか？
第８回_金融政策の理論(5)：開放経済下の金融政策
第９回_金融政策の理論(6)：マンデル＝フレミング・モデル
第10回_日本の金融政策(1)：高度成長期
第11回_日本の金融政策(2)：低成長期(金融自由化)
第12回_日本の金融政策(3)：低成長期(バブル)
第13回_日本の金融政策(4)：低成長期(1980年代の日本の金融政策の問題点)
第14回_日本の金融政策(5)：低成長期(1990年代の日本経済の構造問題)
第15回_総括

【事前・事後の学習の内容】
前回の授業内容を復習しておくこと。
次回の授業テーマについて調べておくこと。

【評価方法】
期末試験による。

【テキスト又は参考書】
テキスト：使用しない。

参考書：特になし。

【受講生へのコメント】
微分を用いた計算ができることを前提に授業を行う。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ5505
科目名 ミクロ経済学上級講義1		単位数 2	担当教員氏名 北原　稔
Course Title Advanced Lecture on Microeconomics 1		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
大学院入門レベルのミクロ経済学について学びます。本講義1では、特に、価格を所与とした消費者や生産者の選択行動について学びます。（ゲーム理論については、後期開講の2で学んでください。）
※なお、本講義は、大学院生向けの科目（大学院科目：ミクロ分析1）を意欲のある学部生にも開放するという意図で設置されたものであり、基本的には大学院生を対象としたレベルで行います。

【授業の到達目標】
大学院レベルのミクロ経済学の基礎を習得する。特に、選択に関する情報から最適性の仮定により論理的（・数理的）に推測・予測を導き出す基礎技能を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
以下の流れで、講義形式で行います。テキストの該当章はそれぞれ第1章（選択と選好）、2・3章（消費者選択と選好）、5章（生産者選択と技術）、16章（市場均衡の性質）、数学付録（最適選択の数理）です。

第１回_ガイダンス
第２回_選択と選好①：顕示選好の弱公準
第３回_選択と選好②：選択の合理性
第４回_消費者選択と選好①：顕示選好の弱公準による行動予測
第５回_消費者選択と選好②：需要行動からの選好の推測
第６回_消費者選択と選好③：間接選好からの需要行動の予測
第７回_消費者選択と選好④：交換に関する効率性についての共通価格の含意
第８回_予備日
第９回_生産者選択と技術①：利潤最大化（供給行動からの利潤の推測）
第10回_生産者選択と技術②：費用最小化（費用関数からの供給行動の推測）
第11回_生産者選択と技術③：分担に関する効率性についての共通価格の含意
第12回_市場均衡の性質：効率性についての市場均衡の含意
第13回_最適選択の数理①：比較静学（包絡線定理）
第14回_最適選択の数理②：制約付き最適化における一階条件（ラグランジュ乗数）
第15回_予備日
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
復習用に何回か宿題を出します。

【評価方法】
期末試験によって評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：Mas-Collel, A., Whinston, M.D. and Green, J.R. (1995)『Microeconomic Theory』Oxford University Press（購入不要）
参考書：神取道弘（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社（（本講義を受けずとも）おすすめ）

【受講生へのコメント】
大学院レベルで行いますので、楽に単位を取りたいだけの人にはおすすめしません。
講義HP: http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/kitahara/micro/2018micro.htm(4月開設予定)

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ5507
科目名 計量経済学上級講義1		単位数 2	担当教員氏名 鹿野　繁樹
Course Title Advanced Lecture on Econometrics 1		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。

【授業の到達目標】
この講義の目標は、統計学と計量経済学の基礎をマスターすることである。

【授業内容・授業計画】
まず確率・統計を復習し、最小2乗法（OLS）による回帰直線を学ぶ。
次いで、古典的仮定のもとでの単回帰モデル・重回帰モデルの推定と検定を習得する。
最後に、回帰モデルの関数型の拡張を考える。

第１回_イントロダクション
第２回_確率論（1）：確率変数と確率分布
第３回_確率論（2）：正規分布・多次元分布
第４回_統計的推測（1）：基礎編
第５回_統計的推測（2）：推定と仮説件手
第６回_回帰直線と最小2 乗法（OLS）
第７回_決定係数
第８回_古典的回帰モデルとOLS 推定
第９回_回帰係数の仮説検定
第10回_統計ソフトgretl による回帰分析
第11回_重回帰分析（1）：重回帰OLS
第12回_重回帰分析（2）：コントロール変数
第13回_回帰モデルの拡張（1）：モデルの関数型
第14回_回帰モデルの拡張（2）：ダミー変数
第15回_ここまでの復習
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。
テキスト章末の復習問題を解くこと。

【評価方法】
毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。

【テキスト又は参考書】
鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。

【受講生へのコメント】
計量経済学上級講義２とセットの科目です。引き続き後期に計量経済学上級講義２を受講して下さい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名	基礎演習	単位数	2
		担当教員氏名	脇村 孝平
Course Title	Pro-Seminar	必修・選択	必修
		開講年度・開講期	2018年度 前期

【科目の主題】

本演習は、経済学部に入学した新入生諸君に、大学における基礎的な学習方法の習得をしてもらうための演習形式の授業である。

【授業の到達目標】

身に着けてほしい基礎的な学習方法として想定しているのは、以下の5つである。

1. 文献の読解
2. 討論
3. 文献調査
4. プレゼンテーション（研究発表）
5. 報告書の執筆

【授業内容・授業計画】

アフリカは、私たち日本人にとって、依然として「未知の大陸」である。アジアの多くの国々は、ここ30年程の経済発展によって、大きく様変わりをし、さらにビジネスや観光で日本人が訪れる機会も増え、馴染み深いものになっている。だが、アフリカ、特にサハラ以南のアフリカでは、1990年代まで多くの国が低成長あるいはマイナス成長に悩まされ、世界の他の諸地域との経済格差が拡がってきた。しかしながら、21世紀に入って、そのアフリカも変わりつつある。多くの諸国で、以前に比べるとはるかに高い経済成長率を記録し始めたのである。また、アフリカは、経済発展における「最後のフロンティア」として、他の諸地域の各国からも注目を浴びるようになってきた。この基礎演習では、そのアフリカを対象にして、アフリカの現在と未来を考えてみることにしたい。

第１回_オリエンテーション
第２回_テキストの輪読①
第３回_テキストの輪読②
第４回_テキストの輪読③
第５回_テキストの輪読④
第６回_テキストの輪読⑤
第７回_サブテーマ探究①「アフリカと中国」
第８回_サブテーマ探究②「アフリカと資源」
第９回_サブテーマ探究③「アフリカと農業」
第10回_サブテーマ探究④「アフリカと援助」
第11回_サブテーマ探究⑤「アフリカと企業」
第12回_個人発表①
第13回_個人発表②
第14回_個人発表③
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】

事前学習：毎回の授業で指定する文献を事前に読んでもらう。
事後学習：毎回の授業で明らかとなった論点を整理して、次の回の冒頭に発表してもらう。

【評価方法】

以下の三点で評価する。

1. 授業への出席状況の評価
2. 通常の授業における課題への取り組みの評価
3. 期末の報告書の評価

【テキスト又は参考書】

テキスト：平野克己『経済大陸アフリカ－資源、食糧問題から開発政策まで』中公新書、2013年。
参考書：なし

【受講生へのコメント】

経済学部へ入学したばかりの皆さんは、どのように経済学を勉強したらよいのか、とまどいがちでしょう。本演習では、アクチュアルな（切実な）課題をテーマにして、まずは経済学的思考の使われ方を学ぶことから始めましょう。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名 基礎演習		単位数 2	担当教員氏名 坂上　茂樹
Course Title Pro-Seminar		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
現代の技術について知識を広げること。

【授業の到達目標】
自分が最も興味を覚えられる分野を発見すること。

【授業内容・授業計画】
多様な内容の中から各自、テーマを選んで学びを深め、その成果を報告する。発表者以外は質問、討論に努める。

第１回_ガイダンス
第２回_OPAC講習会(予定)
第３回_個別発表と討論
第４回_個別発表と討論
第５回 個別発表と討論
第６回_個別発表と討論
第７回_個別発表と討論
第８回_個別発表と討論
第９回_個別発表と討論
第10回_個別発表と討論
第11回_個別発表と討論
第12回_個別発表と討論
第13回_個別発表と討論
第14回_個別発表と討論
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
テキストの中から興味ある章を各自、読み進めること。

【評価方法】
平常点に依る。

【テキスト又は参考書】
テキスト：『日経テクノロジー展望2018　世界を動かす100の技術』日経BP社、2017年、約2500円

【受講生へのコメント】
テキストの中身は広く浅くなので、各自が更なる探求を試みてほしい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名 基礎演習		単位数 2	担当教員氏名 中嶋　哲也
Course Title Pro-Seminar		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
日本経済に関わる文献の内容紹介、討論、自ら設定したテーマでのレポート作成およびその報告をつうじて、基礎的な学ぶ技術を身につける。

【授業の到達目標】
指定された文献の内容を的確に要約し、わかりやすく報告できること。他人の報告を聞いて、質問し、議論に参加できるようになること。自ら問題設定したテーマで、3500字程度のレポートが作成できるようになること。

【授業内容・授業計画】
1）指定した日本経済（日本の地域経済含む）に関係する共通文献について、担当部分を決めたうえで、聞き手にとってわかりやすくなるよう工夫しつつ報告してもらう。
2）毎回の報告内容に対して質疑応答・議論を活発に行う。
3）各自が設定したテーマでレポートを作成し、その内容を順次発表する。

第１回_演習の進め方の説明と自己紹介
第２回_学情センターのガイダンス
第３回_日本経済に関する文献報告・討論1
第４回_日本経済に関する文献報告・討論2
第５回_日本経済に関する文献報告・討論3
第６回_日本経済に関する文献報告・討論4
第７回_レポート作成に関するガイダンス
第８回_レポートの要旨報告・討論1
第９回_レポートの要旨報告・討論2
第10回_レポートの要旨報告・討論3
第11回_レポートの要旨報告・討論4
第12回_レポートの要旨報告・討論5
第13回_レポートの要旨報告・討論6
第14回_レポートの要旨報告・討論7
第15回_レポートの要旨報告・討論8

【事前・事後の学習の内容】
共通文献の指定された範囲を読んでおく。討論の後、説明しきれなかった論点について、次回に報告できるよう調べる。自分のレポートの要旨作成とわかりやすいプレゼンの準備。

【評価方法】
報告、討論への参加状況、レポート内容をもとに、総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
日本経済（日本の地域経済を含む）に関係する文献を、第1回目の授業で指定する。

【受講生へのコメント】
活発に議論できる雰囲気を大事にしたい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名 基礎演習		単位数 2	担当教員氏名 辻　賢二
Course Title Pro-Seminar		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
金融経済に関するテキストを読むことで金融に関する基礎知識を習得し、新聞記事を用いたディスカッション、レポート作成などを通じて学習スキルを身に付ける。

【授業の到達目標】
金融経済論の基礎知識を習得し、レポート作成などの学習スキルを身に付ける。

【授業内容・授業計画】
報告、ディスカッションなどを行いながら、金融の基礎(金融の役割、利子率、貨幣など)を学ぶ。

第１回_ガイダンス
第２回_金融の役割
第３回_貨幣
第４回_金融機関
第５回_利子率
第６回_債券価格
第７回_資産選択
第８回_為替レート
第９回_国民所得
第10回_貨幣需要
第11回_金融政策
第12回_物価
第13回_基礎演習・修了レポート報告
第14回_基礎演習・修了レポート相談
第15回_総括

【事前・事後の学習の内容】
前回の授業内容を復習し、次回授業のテキストの該当箇所を読んでおくこと。

【評価方法】
受講態度、発言状況、基礎演習・修了レポート等によって総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：吉田真理子・大野早苗著『はじめての金融理論』(中央経済社)　2011年

参考書：特になし。

【受講生へのコメント】
新聞の経済記事を読む習慣を身に付けてください。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名 基礎演習		単位数 2	担当教員氏名 滋野　由紀子
Course Title Pro-Seminar		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
はじめに、大学で今後4年間学ぶにあたっての技術、例えば講義の受け方、情報収集の方法、報告資料の作り方、レポートの書き方等々を習得する。その後、テキストに従いながら、現在の日本社会の様々な問題を取り上げ、検討を行う。自らが問題意識を持ち、経済学的な観点で考える姿勢を身つけることを目指したい。

【授業の到達目標】
現在の日本社会の様々な現象に問題意識を持ち、経済学的な観点で考える姿勢を身つける。

【授業内容・授業計画】
あらかじめ決めておいた担当者（4名程度）に報告を行ってもらい、その報告をもとに全員で議論を行うという形式を基本とする。

第１回_ガイダンス
第２回_報告資料（レジュメ）の作り方
第３回_情報収集の方法
第４回_グループ報告・ディスカッション
第５回_グループ報告・ディスカッション
第６回_グループ報告・ディスカッション
第７回_グループ報告・ディスカッション
第８回_グループ報告・ディスカッション
第９回_グループ報告・ディスカッション
第10回_グループ報告・ディスカッション
第11回_グループ報告・ディスカッション
第12回_レポート作成について
第13回_レポート作成について
第14回_レポート発表会
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。

【評価方法】
報告内容、演習中の発言、期末のレポートで評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：１冊の新書を用いる予定にしている。演習の初回に指定する。

【受講生へのコメント】
ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名 **基礎演習**		単位数 **2**	担当教員氏名 浦西　秀司
Course Title **Pro-Seminar**		必修・選択 **必修**	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
基礎演習は、1年生の皆さんが大学での勉強を始めるにあたって必要な情報収集やレポート作成、プレゼンテーション方法など習得してもらうための科目である。

【授業の到達目標】
この授業は、テキストの輪読やディスカッション、レポート報告などを通し、レポート作成およびプレゼンテーションができるようになることを到達目標とする。

【授業内容・授業計画】
演習形式です。
報告者：自らの担当部分を精読し、内容をレジュメとしてとりまとめ、授業で説明する。
質問者：自らの担当部分を精読し、少なくとも３つ以上の質問を用意する。

第１回_ガイダンス
第２回_レポートの書き方
第３回_文献・資料の探し方
第４回_テキストの輪読（1）
第５回_テキストの輪読（2）
第６回_テキストの輪読（3）
第７回_テキストの輪読（4）
第８回_テキストの輪読（5）
第９回_テキストの輪読（6）
第10回_テキストの輪読（7）
第11回_テキストの輪読（8）
第12回_テキストの輪読（9）
第13回_テキストの輪読（１０）
第14回_レポート作成指導（1）
第15回_レポート作成指導（2）

【事前・事後の学習の内容】
事前の学習：自らの担当部分をきちんと仕上げる。
事後の学習：コメントに従って修正する。

【評価方法】
ディスカッションへの参加状況およびレポート課題で評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：杉山武彦、竹内健蔵、根本敏則、山内弘隆（編）『交通市場と社会資本の経済学』、有斐閣、2010年。
参考書：特になし。

【受講生へのコメント】
あらかじめ新聞やニュースなどを通し、わが国の社会・経済の仕組みへの関心を高めておくことを希望します。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名 基礎演習		単位数 2	担当教員氏名 松本　淳
Course Title Pro-Seminar		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
基礎演習は、大学で学ぶ際の基礎的なスキルを修得すると同時に、「自分の頭で考えること」そして「グループワークの大切さ」を実感するための演習科目です。

【授業の到達目標】
①大学内の学習施設を知ること、②文献や資料の検索スキルを習得すること、③検索した文献等をレジュメに書くスキルを修得すること、④レジュメを基に報告・議論をしてグループで討論すること、以上のスキルを身につけることを目標とします。

【授業内容・授業計画】
大きくは3部構成で授業を進めます。第1部は大学内の施設や検索技術を習得するための授業です。第2部は検索技術で得た情報を個人レベルでまとめ、記述して、報告する授業です。第3部はグループで議論して、発表する授業です。

第１回_ガイダンス
第２回_個人の自己紹介
第３回_大学施設を知る
第４回_学術情報センターの使い方を知る
第５回_個人で調べたいことを考える
第６回_実際に調べてみる
第７回_みんなの前で報告する
第８回_個人作業の振り返り
第９回_グループで学ぶとは
第10回_グループで調べたいことを話し合う
第11回_グループのみんなで調べる
第12回_みんなの前でグループ報告する（中間報告）
第13回_最終グループ報告を作り上げる
第14回_みんなの前でグループ報告する（最終報告）
第15回_まとめと振り返り

【事前・事後の学習の内容】
個人作業やグループワークでの報告を行うためには授業外での活動が非常に大切になることを実感してもらいたいです。そしてそのような作業は実は楽しいということを知ってもらいたいです。

【評価方法】
授業への出席、個人報告およびグループ報告の内容、そして平常時の取り組み姿勢を総合的に勘案して評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：必要に応じて指示します。

参考書：必要に応じて指示します。

【受講生へのコメント】
特になし

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名	基礎演習	単位数	2
		担当教員氏名	齋藤　幸平
Course Title	Pro-Seminar	必修・選択	必修
		開講年度・開講期	2018年度 前期

【科目の主題】
基礎演習では、読解力、プレゼン力、文章力など、大学生にとって必要不可欠なスキルを身につけることが目標です。本演習では、「現代資本主義の危機」について学びながら、その具体例について発表してもらい、ディスカッションを行うことで、現代社会を分析する力を身につけてもらうことを目指しています。

【授業の到達目標】
文献をしっかりと読み、その理論的枠組みをもとに、現実を分析し、その成果を発表するという基本的なアカデミック・スキルを習得することを目指します。自分の言葉で読んだ内容を他人に伝え、相手の意見に対して、テキストを前提として批判的に応答する力を身につけてもらおうと思います。

【授業内容・授業計画】
指定されたテキスト部分について、レジュメを作って発表してもらい、その後に、皆で議論する。
読了後には近年の具体例を分析・発表し、他の学生からフィードバックをもらう。それをもとにブラッシュアップした6000～8000字の修了レポートを提出する。
第１回_イントロダクション
第２回_資本主義の危機とは？
第３回_テキストの輪読（序章、第一章前半）
第４回_テキストの輪読（第一章後半）
第５回_テキストの輪読（第二章前半）
第６回_テキストの輪読（第二章後半）
第７回_テキストの輪読（第三章前半）
第８回_テキストの輪読（第三章後半）
第９回_テキストの輪読（結語）
第10回_レポート作成について＋各人テーマの設定
第11回_テキストの輪読（ハーバマスの批判）
第12回_報告とディスカッション
第13回_報告とディスカッション
第14回_報告とディスカッション
第15回_報告とディスカッション

【事前・事後の学習の内容】
指定されたテキストを読み、わからない箇所や重要な箇所に印やコメントをつけ、ディスカッションを行うための準備をしてください。
新聞を定期的に読むようにし、授業に関連する内容などをレポート用にスクラップしておくと良いでしょう。

【評価方法】
授業への参加姿勢や発表（６０％）ならびに修了レポート（４０％）で評価する。

【テキスト又は参考書】
ヴォルフガング・シュトレーク『時間かせぎの資本主義』（みすず書房、２０１６年）

【受講生へのコメント】
今回のテキストは一年生にはかなり難しいと思いますが、しっかりと読めば必ず理解できるはずです。難しい本を読むコツと忍耐を習得してもらいたいです。わからないことがあれば、遠慮なく聞いてください。新入生のみなさんの積極的な授業への参加を期待しています。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名 基礎演習		単位数 2	担当教員氏名 有賀　敏之
Course Title Pro-Seminar		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

学部として新入生に初めて提供する、少人数制の科目である。このクラスでは、予備知識のあまり要らない、しかも読んで面白い古典を紹介することで、大学における学びのイントロダクションとしたい。

【授業の到達目標】

① 何人かの著名な経済学者の、人となりと学説に触れる。
② 翻訳を通じてケインズの書き物に触れ、人類史上有数の知性という存在のレベルを体感する。

【授業内容・授業計画】

前半に輪読を行い、後半はそれに触発されて深めた内容についてグループ単位で発表してもらう。就職活動を見越した、コミュニケーション能力や協調性の啓発も必要であろうから、各回の発表は小グループ単位を基本とする。

テキストは現在絶版であるので、コピーを配布する。また半期すべてを輪読に投じても全体は読み切れないであろうから、範囲は第二部（経済学者の伝記）および第三部（追加篇）に限定する。

なお初回で取り上げるニュートンは、いうまでもなく経済学者ではない。しかしながら本書全体の白眉は短いこの章であろうから、あえて取り上げるものである。

第１回_自己紹介と全体のイントロダクション、グループ分け、輪読の割り当て
第２回_テキストの輪読(1) アイザック・ニュートン
第３回_テキストの輪読(2) ロバート・マルサス①
第４回_テキストの輪読(3) ロバート・マルサス②
第５回_テキストの輪読(4) アルフレッド・マーシャル①
第６回_テキストの輪読(5) アルフレッド・マーシャル②
第７回_テキストの輪読(6) フランシス・エッジワース
第８回_テキストの輪読(7) フランク・ラムゼー
第９回_テキストの輪読(8) スタンリー・ジェヴォンズ①
第10回_テキストの輪読(9) スタンリー・ジェヴォンズ②
第11回_テキストの輪読(10) スタンリー・ジェヴォンズ③
第12回_グループ報告の準備作業
第13回_グループ報告(1)
第14回_グループ報告(2)
第15回_グループ報告(3)

【事前・事後の学習の内容】

前半は毎回、テキストの予習が必要である。全体を通じて、少人数のグループでの取り組みとなるので、授業時間外も含めて、メンバーとの緊密な連携、共同作業を要する。

【評価方法】

① 各回のグループ報告の内容と、クラス全体でのディスカッションへの個々人の貢献度をみる。
② 後半のグループ報告では、グループで作成したパワーポイントでの発表に加え、個々人の担当箇所のペーパーも提出してもらい、文章表現についても寸評する。

①を70%、②を30%として評価する。

【テキスト又は参考書】

テキスト： J.M.ケインズ（熊谷・大野訳）『人物評伝』（岩波書店，1959年初版）

【受講生へのコメント】

大学で学ぶとは、という心構えが備わる授業になればと念じている。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名 基礎演習		単位数 2	担当教員氏名 金子　勝規
Course Title Pro-Seminar		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
大学での学習に必要とされる基本的なスキルを身につけることを目的とする。東南アジア経済に関連する文献の輪読とディスカッション、レポート作成を通して、読解力、分析力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【授業の到達目標】
グループでの報告やディスカッションを通してアジアにも関心をもってもらう。その上で、読解力、分析力、プレゼンテーション能力を身につける。

【授業内容・授業計画】
毎回、担当者の報告をもとに議論をすすめていく。

第１回_ガイダンス
第２回_文献調査、報告資料の作成方法
第３回_報告、ディスカッション
第４回_報告、ディスカッション
第５回_報告、ディスカッション
第６回_報告、ディスカッション
第７回_報告、ディスカッション
第８回_報告、ディスカッション
第９回_報告、ディスカッション
第10回_報告、ディスカッション
第11回_報告、ディスカッション
第12回_報告、ディスカッション
第13回_レポート作成の指導
第14回_レポート作成の指導
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
次回の授業で用いる文献を読んでおくこと。授業後は、授業中に紹介した文献を読み、理解を深めてもらいたい。

【評価方法】
授業への参加状況、報告、ディスカッション、期末レポートを総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：ガイダンス時に受講者と相談の上、決定する。

【受講生へのコメント】
授業への主体的かつ積極的な参加を期待します。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名	基礎演習	単位数	2
		担当教員氏名	岩熊　典乃
Course Title	Pro-Seminar	必修・選択	必修
		開講年度・開講期	2018年度 前期

【科目の主題】
本演習では、大学で学ぶにあたって必要となる基本的なスキル（資料の探し方、レジュメの作り方、発表や議論の仕方、レポート執筆の作法など）を身につけることを目的とします。また、「大学で学ぶこと」の意味について、関連するテキストを読み、議論する中で、参加者各人が自分自身の立場を考え、深めていくことを目指します。

【授業の到達目標】
テキストの内容を的確に要約し、他人に分かるように報告できるようになること。質問や疑問点の提起などを通じて議論に参加できるようになること。自分でレポート構想を立て、資料を探し、作法に従って執筆できるようになること。

【授業内容・授業計画】
第1回～第3回は講義形式で、レジュメの作り方や資料の探し方について学ぶ。第4回～第12回では、毎回の担当者が作成したレジュメをもとに報告を行い、その上で全体で議論を行う。第13回でレポート執筆についての技法や決まりごとを学んだ上で、各人がレポートのテーマや構想を立て、第14回・15回でレポート要旨の発表を行う。最後に3500字程度の修了レポートを提出する。
第１回_ガイダンス、報告の順序決め
第２回_レジュメ作成・報告講習
第３回_資料の探し方講習
第４回_テキストの輪読①
第５回_テキストの輪読②
第６回_テキストの輪読③
第７回_テキストの輪読④
第８回_テキストの輪読⑤
第９回_テキストの輪読⑥
第10回_テキストの輪読⑦
第11回_テキストの輪読⑧
第12回_テキストの輪読⑨
第13回_レポート執筆講習
第14回_レポート構想発表会①
第15回_レポート構想発表会②

【事前・事後の学習の内容】
・　レジュメ担当者はテキストの内容をまとめた上で、一つ以上の疑問点（ないしは自らの意見・感想）を提起すること。
・　レジュメ担当者でない場合も、事前にテキストの毎回の該当箇所をしっかり読み、重要な箇所や分からない箇所、気になる箇所に、線を引いたりコメントを入れておくこと。

【評価方法】
報告内容、ディスカッションへの参加度、レポート内容をもとに、総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：
・吉見俊哉『大学とは何か』岩波新書
参考書：
・M.ウェーバー（尾高邦雄訳）『職業としての学問』岩波文庫

【受講生へのコメント】
「おもしろい」「なんだか気になる、引っかかる」という感覚は、大学で学んでいく上での重要な出発点です。そのような感覚を大事に、積極的に演習に参加して下さい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ1101
科目名 基礎演習		単位数 2	担当教員氏名 岩本　真一
Course Title Pro-Seminar		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
本科目の主題はアパレル産業やファッション文化の展開を題材に近代化を考えることです。

【授業の到達目標】
目標は「科目の主題」を他の題材に応用できる能力を身につけることです。そして、古くは中国の経済・技術・文化が今なおどのような形で日本に影響を与えているか、事実と想像を豊かにしましょう。そして、近現代に欧米からの経済・技術・文化が広く深く浸透してきた点も併せて考えられるようになりましょう。

【授業内容・授業計画】

第１回_演習の説明、学習に便利な図書館・ウェブ・文献などの紹介、担当者の自己紹介
第２回_質疑応答「序章　問題の所在と本書の課題」
第３回_討論「ミシンについて話す」
第４回_質疑応答「第1部　第1章　繊維機械としてのミシン」
第５回_質疑応答「第1部　第2章　ミシン多様化の意味」
第６回_質疑応答「第1部　第3章　ミシンの東アジアへの普及」
第７回_質疑応答「第1部　第4章　近代女性の共時性と衣服商品化の波」
第８回_質疑応答「第1部　第5章　日本のミシン輸入動向と普及経路」
第９回_討論「アパレル産業とファッションについて話す」
第10回_質疑応答「第2部　第1章　衣服産業の類型―規模と生産体制―」
第11回_質疑応答「第2部　第2章　衣服産業の地域分布」
第12回_質疑応答「第2部　第3章　中規模工場の経営動向―藤本仕立店の生産体制と多品種性―」
第13回_質疑応答「第2部　第4章　製帽業の構造と展開―その多様性と工程間分業―」
第14回_質疑応答「終章　ミシンと衣服の経済史―生産体制論と現代―」
第15回_総括

【事前・事後の学習の内容】
事前学習として、テキストの指定部分を読んで、質問事項を箇条書きで書きます。事後学習として、演習中に解決した点を要約します。そして、演習期間中に「科目の主題」に関わる図書を1冊選び（履修生同士で被らないこと）要約します。

【評価方法】
事前質問内容、事後解決文、期末レポートの点数で成績を出します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：岩本真一「ミシンと衣服の経済史―地球規模経済と家内生産―」【オンデマンド版】
※返品不可、制作に2～3週間ほど時間がかかる点に注意して下さい。
参考書：多数あるので演習中に紹介します。

【受講生へのコメント】
事前に準備する質問内容について、演習中に他の履修生へ解説を求める場合もあります。全ての質問が自分の質問だと思って積極的に参加して下さい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXE1101
科目名 基礎演習(G)		単位数 2	担当教員氏名 西川　弘展
Course Title Pro-Seminor(G)		必修・選択 必修	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
英文の資料を用いながら、次の５つの事項を行います。（１）経済学の知識を背景に書かれた文献を正確に読むこと。（２）所定の文献を読みながら追加的な資料（文献・データ）を調べること。（３）報告用のレジュメを作成し、これに基づいて報告すること。（４）共通のテーマについて議論し、自らの考えをブラッシュアップすること。（５）経済学の内容をできるだけ広く知り、自分なりの問題意識を持つこと。

【授業の到達目標】
（１）現実の世界の動きに対してアンテナを張り、自らの関心や問題意識を自覚できるようになること。（２）議論（発表、発表への質疑、質疑への応答などの口頭でのコミュニケーション）がある程度できるようになること。（３）レポートのタイプを理解し、十分な準備の上に初歩的なレポート作成ができるようになること。

【授業内容・授業計画】
テーマを「市場経済の限界」として、「グローバリゼーション」について学びます。人々の認識を超え市場経済が予定調和的と考える経済学もありますが、様々な社会・経済問題を抱える現実を見る限り決してそうではなさそうです。現政権下で「立憲主義」という考え方がクローズアップされていますが、その背景にあるのは「権力はそのまま放置されれば必ず腐敗する」という仮説です。これと同様に、「市場経済はそのまま放置されれば、いずれ必ず破綻する」という仮説があっても良さそうなものですが、現在の経済学はどのように考えているのでしょうか？
第１回_授業の進め方、発表と質疑応答について、レポートの作成について
第２回_Introduction and Acknowledgement to Globalization and Its Discontents Revisited
第３回_修了レポートの作成（１）:レポートの形式とレポートのタイプを学ぶ
第４回_The Failures of Globalization
第５回_修了レポートの作成（２）:テーマを決める
第６回_The Multiple Dimensions of Globalization
第７回_修了レポートの作成（３）:テーマについて文献を調べ整理し、主だった事実や見解をまとめる
第８回_The New Protectionism
第９回_修了レポートの作成（４）:修了レポートの主題について中間報告
第10回_Can Globalization be Saved?
第11回_修了レポートの作成（５）:修了レポートのアウトラインについて中間報告
第12回_Afterword to the *GAID* 2017 Edition
第13回_修了レポートの作成（６）:英文でのレポート作成について
第14回_修了レポートの報告・質疑応答（１）
第15回_修了レポートの報告・質疑応答（２）
修了レポート完成稿の提出

【事前・事後の学習の内容】
（事前）定められた担当者が十分な準備の上で発表を行うものとします。担当者以外も資料の所定の箇所を読み、疑問点など質問事項を準備しておいてください。（事後）演習でなされた報告の内容、議論の内容を振り返って、最新の到達点を記録しつつ、これを踏まえて学修を進めてください。また修了レポートについては早い段階からの準備を促しますので、しっかり取り組んで下さい。

【評価方法】
（１）平常の学修状況（報告内容と議論への参加状況、修了レポートの準備状況）と（２）修了レポートによります。

【テキスト又は参考書】
テキスト：テキストの購入の必要はありません。下記参考書を中心に英文資料のコピーを配布します。

参考書：Josephe E. Stiglitz, *Globalization and its Discontents Revisited（GAID）: Anti-Globalization in the Era of Trump* ,2018, W.W. Norton and Company.の特に最新箇所。

【受講生へのコメント】
基礎演習を入り口にして、友人とともに積極的に学問をし、教養と独自の見識をもつより強くて優しい人間へと自らを成長させようと自覚して欲しいと思います。プロセスこそ重要であり、将来へのinvestmentともいうべき失敗や試行錯誤を恐れず、是非、学問にchallengeして欲しいと思います。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ		単位数 2	担当教員氏名 朴　一
Course Title Innovative Workshop		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

この演習は、①理論学習編として、テキスト（野口悠紀雄『日本経済入門』（講談社現代新書））をたたき台に日本経済に関する理解を深め、日本の政治・経済の現代的課題や政府の対応ついて議論する。また②実践学習編として、高校生を対象にしたオープンキャンパスの学生企画への参加を通じて、社会人へのパスポートとなる商品企画・交渉・プレゼンなどのスキルを磨いていきたい。

【授業の到達目標】

①日本経済に関する基本的知識について学び、日本社会がかかえる諸問題について考えるシンキング・スキルを身につける。
②ＯＣ学生企画の立案・実施を通じて、社会人に必要な商品企画、交渉、プレゼン能力を身につける。

【授業内容・授業計画】

授業は、テキストの輪読を中心に行う。

第１回_ガイダンス
第２回_ＯＣ企画の企画会議と役割分担
第３回_テキスト１章の報告と議論
第４回_テキスト２章の報告と議論
第５回_テキスト３章の報告と議論
第６回_テキスト４章の報告と議論
第７回_ＯＣ企画の中間発表
第８回_テキスト５章の報告と議論
第９回_テキスト６章の報告と議論
第10回_テキスト７章の報告と議論
第11回_テキスト８章の報告と議論
第12回_テキスト９章の報告と議論
第13回_ＯＣ企画の予行演習①
第14回_テキスト10章の報告と議論
第15回_ＯＣ企画の予行演習②

【事前・事後の学習の内容】

毎回、テキストを読み込んでおくこと。また議論の前提となる課題を与えるので、十分に調べておくこと。

【評価方法】

授業に対する取り組み、発表におけるプレゼンのレベルなどを基準に判断する。

【テキスト又は参考書】

吉川洋『人口と日本経済』中公新書、2016年

【受講生へのコメント】

ＯＣ学生企画をやってみたいという人はぜひ参加してほしい。例年、参加した学生から「本当に参加してよかった」という感想をいただいている。

授業形態	演習	科目No.	EAEXE2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ（G）		単位数 2	担当教員氏名 中島 義裕
Course Title Innovative Workshop （G）		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
この授業の主題は、アクティブラーニングとグループワークにより、特定の課題について自ら調査し、解決策を提案することにあります。課題は「所得と雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」のいずれかです。デラサール大学で開講している開発経済論と連携して授業を行います。その目的は、あくまでもグローバルな視野で課題を捉え、解決策を提案することにあります。

【授業の到達目標】
1) アクティブラーニングとグループワークにより適切な研究計画を立案し、実行できる。
2) 与えられた課題について実態及びそれについての先行研究を調査できる。
3) 討論を通して適切な解決策を提案できる。
4) 論理的に構成されたプレゼンテーションを実施できる。

【授業内容・授業計画】
4人からなるグループに分かれて、上記の課題の一つについて調査し、その解決策を提案します。デラサール大学や、他のInnovative Workshopのクラスと合同で、中間発表会や最終発表会を実施します。授業では、各人で割り当てた調査内容について報告しあい、それに基づいて次の週までに調査する内容を決めるという形で進めます。デラサール大学と二回接続して報告会を行います。また、他のIWのクラスとも合同報告会をします。
第１回_ガイダンス
第２回_テーマ決定と調査
第３回_調査報告と次週までの研究計画
第４回_調査報告と次週までの研究計画
第５回_調査報告と次週までの研究計画
第６回_調査報告と次週までの研究計画
第７回_調査報告と中間報告の準備
第８回_中間報告会
第９回_調査報告と次週までの研究計画
第10回_調査報告と次週までの研究計画
第11回_調査報告と次週までの研究計画
第12回_調査報告と次週までの研究計画
第13回_調査報告と次週までの研究計画
第14回_調査報告と最終報告の準備
第15回_最終報告会
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
毎回の授業中に計画し、分担した内容について、調査し、考察する。

【評価方法】
授業中の相談や討論への参加、中間報告と最終報告の内容による。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし

参考書：特になし

【受講生へのコメント】
英語が苦手な学生の受講を歓迎します。（もちろん、得意な学生も）。発表や討論などはグループで行いますので、怖がる必要はありません。受講生にはOCUメールで連絡を取りますので必ず読むようにして下さい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ		単位数 2	担当教員氏名 有賀　敏之
Course Title Innovative Workshop		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

基礎演習と専門演習の橋渡しとなる科目である。したがって基礎演習とは趣を変え、担当者の専門寄りのフィールドで、グループワークから個別報告へという階梯をたどる。

【授業の到達目標】

① 経済学と国際経済の主要なトピックについて知る。
② レジュメの作成と論点の提起、論文の構成や注の網羅といった、専門課程の学部生として必要とされる能力を身につける。

【授業内容・授業計画】

前半に輪読を行い、後半はそれに触発されて各自で深めた内容について発表してもらう。就職活動を見越した、コミュニケーション能力や協調性の啓発も必要であろうから、前半の発表は小グループ単位を基本とする。後半では、専門演習に準じて個別報告の指導を行う。

開講時点で入手可能な、平易な最新の国際経済の概説書を用いるものとする。以下の授業計画は、下記の現時点での予定テキストの構成に準じたものであるから、開講時に決定するテキストによっては変更される可能性がある。

第１回_自己紹介と全体のイントロダクション、グループ分け、輪読の割り当て
第２回_テキストの輪読(1) トランプ政権とアメリカ経済
第３回_テキストの輪読(2) 先進国と新興国
第４回_テキストの輪読(3) 自由とグローバル経済
第５回_テキストの輪読(4) 経済学の考え方の基本①
第６回_テキストの輪読(5) 経済学の考え方の基本②
第７回_テキストの輪読(6) 経済学用語①
第８回_テキストの輪読(7) 経済学用語②
第９回_テキストの輪読(8) 経済学用語③
第10回_テキストの輪読(9) ピケティ論争
第11回_テキストの輪読(10) 行動経済学の抬頭
第12回_個別報告(1)
第13回_個別報告(2)
第14回_個別報告(3)
第15回_個別報告(4)
第16回_報告の予備回

【事前・事後の学習の内容】

前半は毎回、テキストの予習が必要である。また前半では少人数のグループでの取り組みとなるので、授業時間外も含めて、メンバーとの緊密な連携、共同作業を要する。

自分のグループの報告が終わる都度、個別報告のテーマを設定してもらい、後半に向けた小論の執筆作業に入る。

【評価方法】

① 各回のグループ報告の内容と、クラス全体のディスカッションへの個々人の貢献度をみる。
② 後半の個別報告では、レジュメを用いずにフルペーパーを配布して発表してもらい、論文として具備すべき事項について実地に指導する。

①を50%、②を50%として評価する。

【テキスト又は参考書】

予定テキスト： ニューズウィーク編『経済超入門 ゼロからわかる経済学&世界経済の未来』（CCCメディアハウス，2017年）

本書は本シラバス執筆時点で日本語で読める最新の平易なテキストであるが、多分にジャーナリスティックな造りとなっている。開講までによりふさわしい新書等が刊行されれば、それに替えたい。

【受講生へのコメント】

本ワークショップの受講を通じて、来たるべき専門演習への備えとしてもらいたい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ		単位数 2	担当教員氏名 金子　勝規
Course Title Innovative Workshop		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
本イノベーティブ・ワークショップでは、日本ともかかわりの深い東南アジアを題材に取り上げる。「東南アジアと日本」を大きなテーマとして、東南アジアの経済、社会、文化との比較の観点から議論を進めていく。

【授業の到達目標】
一つの大きなテーマの下で、課題を発見して、その課題を理解し、解決していく一連のプロセスを経験することで、問題発見能力やその解決能力を養いたい。また、プレゼンテーション能力の向上も本ワークショップの目標である。

【授業内容・授業計画】
まずは東南アジアを少しでも知ることから始めて、日本との比較を通して理解を深めていきたい。グループ毎に深堀していくテーマを設定して、文献調査や簡単な現地調査などを通してレポートをまとめていく。

第１回_ガイダンス
第２回_テキスト輪読（東南アジア経済）、ディスカッション
第３回_テキスト輪読（東南アジア社会）、ディスカッション
第４回_テキスト輪読（東南アジア文化）、ディスカッション
第５回_グループ毎のテーマ設定
第６回_グループワーク
第７回_グループワーク
第８回_グループワーク
第９回_中間報告
第10回_グループワーク
第11回_グループワーク
第12回_グループワーク
第13回_最終報告１
第14回_最終報告２
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
グループワークを中心に授業を進めていきます。報告の準備と報告後はレポートを提出してもらいます。

【評価方法】
授業への参加状況、報告、ディスカッション、レポートを総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：ガイダンス時に受講者と相談の上、決定する。

【受講生へのコメント】
授業への主体的かつ積極的な参加を期待します。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ		単位数 2	担当教員氏名 岩本　真一
Course Title Innovative Workshop		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
本科目の主題は、アパレル産業やファッション文化の現状を題材に現代世界の経済状況を理解することです。そして、パソコンを用いて文書ソフトや表計算ソフトの使い方を学ぶことです。

【授業の到達目標】
目標は「科目の主題」を他の題材に応用できる能力を身につけることです。そして、古くは中国の経済・技術・文化が今なおどのような形で日本に影響を与えているか、事実と想像を豊かにしましょう。そして、近現代に欧米からの経済・技術・文化が広く深く浸透してきた点も併せて考えられるようになりましょう。

【授業内容・授業計画】

第１回_演習の説明、学習に便利な図書館・ウェブ・文献などの紹介、担当者の自己紹介
第２回_輪読　ミシェル・リー『ファッション中毒』
第３回_輪読　ミシェル・リー『ファッション中毒』（続き）
第４回_輪読　ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たか？』
第５回_輪読　ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たか？』（続き）
第６回_討論　テーマの設定、グループの設定、課題の説明
第７回_報告　雑誌分析（第1回）
第８回_輪読　ロラン・バルト『モードの体系』
第９回_輪読　ロラン・バルト『モードの体系』（続き）
第10回_輪読　ロラン・バルト『モードの体系』（続き）
第11回_報告　雑誌分析（第2回）
第12回_報告　雑誌分析（第2回続き）
第13回_報告　雑誌分析（第3回）
第14回_報告　雑誌分析（第4回）
第15回_総括

【事前・事後の学習の内容】
事前学習としてテキストを読み、1章あたりA4用紙1枚に箇条書きで要約します。事後学習として、あなたが選定したアパレル雑誌やファッション雑誌のデータ整理を行ないます。ワークショップのテーマとグループを設定した後はデータ整理を広く進めていきます。

【評価方法】
事前要約、報告内容、期末論文の点数で成績を出します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：指定しません。

参考書：「授業内容・授業計画」に記したもの。他の文献は演習中に紹介します。

【受講生へのコメント】
素早く情報や知識に触れる能力と、立ち止まって情報や知識を消化する能力の二つを学びとって下さい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXE2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ（G）		単位数 2	担当教員氏名 西川　弘展
Course Title Innovative Workshop （G）		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
「所得・雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」など、共通の学修テーマのもとに編成されるグループ単位でのグループ・ワーク（学修・調査、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）を軸に、またイノベーティブ・ワークショップ（G）の別クラスと密接に連携しつつ、演習を行います。さらに、フィリピンのデラサール大学の開発経済学の講座とのやりとりを行い、これにより演習の成果をさらに深めます。特にデラサール大学とのやりとりでは英語を用いま

【授業の到達目標】
次の２点を主な目標としています。（１）共通の目標を持つ複数人でのグループ・ワーク（学修・調査・研究、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）について相当の経験を積むこと。（２）時には外国語を用いたグループ間でのやりとりの経験を積むこと。特に、グループ・ワークでは、文献調査も含む資料検索、資料の整理、問いの設定、発表内容の確定、プレゼンテーションが課せられますので、ここでの経験は、個人の作業・学修・研究においても役立つことにな

【授業内容・授業計画】
４名程度を１グループとして、それぞれのグループで「所得・雇用」、「人口」、「教育」、「健康」、「移民」のうちから主題を選択し、グループ・ワーク（学修・調査、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）を行います。デラサール大学の開発経済学の講座とのインターネット環境を通じた交流により、グループワークの成果をさらにバージョンアップさせて、最終的な成果に纏めます。
第１回_授業の説明、グループ分け、グループ・ワークの概要
第２回_大枠のテーマの決定と調査（情報の検索）
第３回_調査（前週の情報検索を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（１）
第４回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（２）
第５回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（３）
第６回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（４）
第７回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週の中間報告の準備
第８回_中間報告会
第９回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（５）
第10回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（６）
第11回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（７）
第12回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（８）
第13回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（９）
第14回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と最終報告の準備
最終報告会
グループごとの最終報告書の提出

【事前・事後の学習の内容】
授業外でのグループ・ワークないしグループ内で役割分担された個人ワーク。

【評価方法】
授業外でのワークを含む授業への参加状況と中間報告の内容、最終報告の内容、最終報告書の内容によって総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：適宜、指定した資料をインターネット等で入手してもらうか、こちらで準備します。

参考書：適宜、紹介します。

【受講生へのコメント】
机上の知識だけでなく、経験が重視される演習型の授業であり、将来につながる経験をして欲しいと思います。チーム・ワークならではの達成感が得られるよう積極的に参加して下さい。また中学生から現在まで続けて来た英語学習を振り返り、さらに発展させる良い機会ですので、尻込みせずに参加されることを望みます。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ3101
科目名 論文演習		単位数 2	担当教員氏名 中村 英樹
Course Title Writing Course		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】
経済理論や統計分析を用いて経済分析を行い、それを論文の形でまとめていきます。

【授業の到達目標】
各自が選んだテーマに応じて、経済理論（ミクロ・マクロ経済学、ゲーム理論）や統計手法を用いて分析していきます。そして、その分析を論文という形でまとめます。

【授業内容・授業計画】
卒業論文をいくつか紹介する形で、分析の行い方と論文の書き方を学習します。
各自がテーマを設定し、個別に資料を集め、分析、論文作成を行っていきます。
指導は個別と全体を併用します。

第１回_Introduction（ガイダンス）
第２回_卒業論文の例
第３回_各自のテーマ選定
第４回_選定したテーマに基づく資料収集
第５回_テーマに基づく理論分析（ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論）
第６回_理論分析（補足）
第７回_統計分析
第８回_統計分析（補足）
第９回_中間発表
第10回_理論分析（改訂）
第11回_統計分析（改訂）
第12回_論文（大まかな仕上げ）
第13回_論文（仕上げ）
第14回_最終発表
第15回_最終発表（補足）
論文審査

【事前・事後の学習の内容】
各自のテーマにおいて、論文作成のための学習をすることが必要です。

【評価方法】
論文作成の努力と質で評価します。

【テキスト又は参考書】
テキストは無し。参考書は各自に応じて適宜紹介します。

【受講生へのコメント】
特になし

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ4201
科目名 キャリア形成ゼミ		単位数 2	担当教員氏名 福原　宏幸
Course Title Seminar for Career Searching		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 前期

【科目の主題】

本科目は、経済学部の人材育成目標である「プラクティカル・エコノミスト」、特に「実践的で複眼的な構想力」の育成を目指すものです。
社会人を講師としてお招きし、2 年次と3 年次の12 名程度の少人数の双方向型授業をとおして、「プロの視点」からの課題の探求、調査、分析を行います。

【授業の到達目標】

大学内の学習からでは得られない、他者の多様な視点を総合して課題の解決策を見出す能力の養成をめざします。今年度は、社会的諸課題の解決にビジネスのを活用して、実践的に活躍している「社会的企業」を取り上げます。

【授業内容・授業計画】

社会的課題解決を目的とした事業（ビジネス）、活動（アクション）の立ち上げ、そのような事業活動の担い手の育成、組織運営を支援している認定NPO法人大阪NPOセンターの堀野亘求さんたちを招き、講義・演習を行います。
具体的な事例に基づき、ソーシャルビジネス、アクションの現状と課題を理解していただきます。また、受講者に関心ある社会的課題に対応した事業計画を作成、最終回にコンペを開催します。授業は、火曜の３時限目（15コマ）・４時限目（15コマ）から、15コマの時間を使って実施します。すなわち、毎週実施する授業ではありません。

第１回_科目のねらいと進め方
第２回_ソーシャルビジネス概論
第３回_福祉（こどもの貧困）とソーシャルビジネス
第４回_まちづくりとソーシャルビジネス①：地縁組織
第５回_まちづくりとソーシャルビジネス②：多様な主体
第６回_就労支援とソーシャルビジネス
第７回_食と農、環境とソーシャルビジネス
第８回_事業計画策定演習①（事業計画の策定）
第９回_事業計画策定演習②（資金計画の策定）
第10回_事業計画策定演習③（プレゼン資料作成等ワーク時間）
第11回_プレ発表とブラッシュアップ①
第12回_プレ発表とブラッシュアップ②
第13回_ソーシャルビジネスプランコンペ①
第14回_ソーシャルビジネスプランコンペ②
第15回_全体の総括
定期試験

【事前・事後の学習の内容】

次回に行うプリントを事前に配布するので、それについてよく予習をすること。

【評価方法】

成績の評価は、平常点、プレゼンテーション及びレポートによる。経済学部の担当教員が評価する。

【テキスト又は参考書】

テキスト：テキストは、特になし。
参考書：必要に応じて指示をする。

【受講生へのコメント】

特になし

後 期 開 講 科 目

授業形態	講義	科目No.	EAB1J2101
科目名 近代経済学（マクロ経済学1）		単位数 2	担当教員氏名 岡澤　亮介
Course Title Modern Economics (Macroeconomics 1)		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
はじめて経済学を学ぶ学生向けに、マクロ経済学の基礎的内容について講義します。

【授業の到達目標】
マクロ経済学の基礎的内容を理解する。

【授業内容・授業計画】
講義形式による。

第１回_ガイダンス
第２回_経済学の十大原理
第３回_経済学者らしく考える
第４回_相互依存と交易（貿易）からの利益
第５回_市場における需要と供給の作用
第６回_マクロ経済のデータ
第７回_生産と成長
第８回_貯蓄・投資と金融システム
第９回_失業
第10回_貨幣システム
第11回_貨幣量の成長とインフレーション
第12回_総需要と総供給①
第13回_総需要と総供給②
第14回_金融・財政政策が総需要に与える影響
第15回_予備日
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
講義の内容を復習するために練習問題を4回ほど出題する。

【評価方法】
期末試験の成績に基づいて評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：N.グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅱマクロ編』東洋経済新報社

【受講生へのコメント】
講義資料や連絡事項を担当教員のHP（https://sites.google.com/site/ryosukeokazawa/lecture）にアップするので、各自定期的に確認するようにしてください。

授業形態	講義	科目No.	EAB1J2102
科目名 近代経済学(ミクロ経済学1)		単位数 2	担当教員氏名 浦西　秀司
Course Title Modern Economics (Microeconomics 1)		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
ミクロ経済学の基礎を学習する。ミクロ経済学１では、特に消費の理論に焦点を当てる。

【授業の到達目標】
消費の理論に関する基礎レベルの知識を習得する。

【授業内容・授業計画】
テキストに従って講義を行う。授業ではパワーポイントによるスライドを使用する。

第１回_授業の進め方
第２回_ミクロ経済学の論理と方法（１）－経済学の定義－
第３回_ミクロ経済学の論理と方法（２）－市場経済の効率性－
第４回_市場機構と需要・供給（１）－均衡の安定性－
第５回_市場機構と需要・供給（２）－需要の価格弾力性－
第６回_市場機構と需要・供給（３）－供給の価格弾力性－
第７回_消費者と需要（１）－効用関数－
第８回_消費者と需要（２）－需要の決定－
第９回_消費者行動と需要曲線（１）－エンゲル曲線－
第10回_消費者行動と需要曲線（２）－需要曲線－
第11回_消費者行動と需要曲線（３）－ギッフェン財－
第12回_消費者需要理論の応用と拡張（１）－指数の比較－
第13回_消費者需要理論の応用と拡張（２）－顕示選好理論－
第14回_消費者需要理論の応用と拡張（３）－消費者余剰－
第15回_消費者需要理論の応用と拡張（４）－余暇と労働－
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
事前の学習：テキストをよく読んでおくこと。
事後の学習：説明した内容について復習しておくこと。

【評価方法】
期末試験によって評価する。持ち込みは不可。

【テキスト又は参考書】
テキスト：西村和雄　『ミクロ経済学』（現代経済学入門）第3版、岩波書店、2011年。

参考書：特になし。

【受講生へのコメント】
消費の理論によって皆さんの日々の購買行動の一部が説明できるのではないかと思われます。

授業形態	講義	科目No.	EAB1J2105
科目名 基礎・経済統計		単位数 2	担当教員氏名 中川　満
Course Title Elementary Economic Statistics		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
数理統計学の基礎を学習する．経済理論の検証については，現在のところ統計学的推論に多くを依存している．従って，統計学は経済学理解に不可欠である．また，統計学を修得する際に使用する数学的操作は，保険理論，ファイナンス理論，ゲーム理論等を修得する際にも役に立つであろう．また，一般の社会生活においても世論調査，視聴率調査，選挙の出口調査など統計学利用の場は極めて広範，かつ，身近であるから，経済学を離れても，その理解は意味があろう．

【授業の到達目標】
統計学の修得には，ふたつの側面があると考えられる．統計操作の方法の修得と操作の背景にある理論の修得である．本講義では後者に焦点をあてる．半期という時間的制約と，理論的背景を理解していないとただの暗記となり応用力が付かない点からである．

【授業内容・授業計画】
教科書に沿って講義する．ただし，高校時代にすでに知っているとみられる事項は飛ばす．なお，授業には平方根を求めることができる電卓を持参してほしい．

第１回_ガイダンス
第２回_記述統計1（1　データの中心）
第３回_記述統計1（2　データの広がり、3　データの偏り）
第４回_記述統計1（4　さまざまな平均値）
第５回_記述統計1（5　度数分布とヒストグラム）
第６回_記述統計1（6　ローレンツ曲線とジニ係数）
第７回_記述統計2（1　物価指数）
第８回_記述統計2（2　数量指数、3 ラスパイレス・パーシェ指数）
第９回_記述統計2（4　経済指標）
第10回_記述統計2（5　2変数データの整理）
第11回_相関と回帰（1　散布図と相関係数）
第12回_相関と回帰（2　単回帰）
第13回_相関と回帰（3　回帰の適合度）
第14回_相関と回帰（4　回帰の諸問題）
第15回_試験対策セッション（補講で対処）
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
テキストによる予復習を行うこと．

【評価方法】
定期試験による．ただし，客観的に本講義修了レベルの到達度が証明できる場合は，相応の成績で単位を与える．

【テキスト又は参考書】
テキスト：森棟他（2015）『統計学（改訂版）　＜NLASシリーズ＞』

【受講生へのコメント】
統計学の面白さを伝えたい！

授業形態	講義	科目No.	EAB1J2103
科目名 政治経済学Ⅰ		単位数 2	担当教員氏名 齋藤　幸平
Course Title Political Economy Ⅰ		必修・選択 選択必修	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
資本主義の仕組みと制度、および抱えてきた諸問題や課題を、political economyの基礎概念や考え方を通じて解説していく。その際には、スミス、リカード、マルクスに代表される古典派経済学の伝統に立ち返って、「労働」を基礎とした社会システム把握の重要性を確認することにしたい。その上で、資本主義の歴史的発展を概観し、最後に現代資本主義の構造的な危機について考察する。

【授業の到達目標】
政治経済学の視点や理論を踏まえて資本主義という社会システムについて主体的に考察し解説できるようになることを到達目標とする。

【授業内容・授業計画】
テキスト、授業中に紹介する参考文献や時論的な記事、配布資料に基づいて講義する。

第１回_イントロダクション
第２回_資本主義の起源
第３回_商品・貨幣の力
第４回_所有
第５回_賃労働と資本
第６回_世界システムとしての資本主義
第７回_帝国主義と不等価交換
第８回_大衆社会の誕生①　福祉国家
第９回_大衆社会の誕生②　企業主義統合
第10回_大衆社会の再収縮
第11回_資本主義の危機①　ブラック企業
第12回_資本主義の危機②　世界金融危機
第13回_資本主義の危機③　グローバルな物質代謝の亀裂
第14回_資本主義社会の成熟
第15回_まとめ
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
事前の学習：指定されたものをしっかりと読んでくること。
事後の学習：説明した内容について復習しておくこと。

【評価方法】
期末試験問題によって評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：授業中に適宜指示する。

【受講生へのコメント】
資本主義のうちで生活することに私たちは慣れきっていますが、資本主義という社会システムについて自覚的に考え、その歴史性を把握することで、資本主義の問題や矛盾について批判的に考察できるようになってもらいたいと思っています。

授業形態	講義	科目No.	EAB2J3207
科目名 応用マクロ経済学		単位数 2	担当教員氏名 森　誠
Course Title Applied Macroeconomics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
マクロ経済学２に引き続いて、より詳しくマクロ経済学における経済政策の効果を分析する。
その際、主流派である新古典派の理論とケインズの理論との違いに注目する。

【授業の到達目標】
IS=LM分析では価格が与えられた場合の経済政策の効果が分析される。この講義ではIS=LM分析を簡単に復習する。そして価格を内生化するAS=AD分析での経済政策の効果を検討する。関連する内容について資格試験での出題も多いので、それらの問題を学生諸君が解けるようになることを目標とします。

【授業内容・授業計画】
通常の講義形式で授業を行う。また練習問題を解く。
初級のテキストではあまり説明されていませんが重要と思われる内容を適宜紹介します（労働分配率で説明される投資乗数、貿易黒字は悪か？投資と予想需要との関係等）。

第１回_ガイダンス
第２回_均衡予算定理と消費
第３回_完全雇用下での財政赤字は必然なのか？
第４回_投資関数
第５回_実質利子率とは
第６回_IS曲線とLM曲線
第７回_IS=LM分析と経済政策
第８回_AD曲線の導出
第９回_AD曲線と経済政策の効果
第10回_AS曲線の導出
第11回_AS=AD分析と財政政策
第12回_AS=AD分析と金融政策
第13回_ケインズモデルと新古典派モデル
第14回_新古典派のAS=ADモデルと経済政策
第15回_短期分析の問題点
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
講義前には前回の講義内容の確認が必要である。講義後は、講義内容を復習し課された練習問題を解いて理解を確認する。

【評価方法】
定期試験を行う。場合によって小テストを行う。

【テキスト又は参考書】
テキスト：なし

参考書：マクロ経済学１やマクロ経済学2での教科書（受講時のテキストでよい）、森　誠『長期にわたる最適化とケインズ経済学』、晃洋書房、2011年。

【受講生へのコメント】
よくわからない箇所や疑問点は質問するように。必要な内容は簡単に復習するので、マクロ経済学２を履修済である必要はない。

授業形態	講義	科目No.	EAB2J3208
科目名 応用ミクロ経済学		単位数 2	担当教員氏名 辻　賢二
Course Title Applied Microeconomics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
ミクロ経済学１、２では、需要サイドの理論、供給サイドの理論及び市場均衡の理論を学んだ。応用ミクロ経済学では、これらの知識を前提にミクロ経済学の応用を学ぶ。

【授業の到達目標】
ミクロ経済学１、２で学んだミクロ経済学の知識を基礎として、ミクロ経済学の応用力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
市場の失敗(外部効果、公共財)、情報の経済学、ゲーム理論、国際貿易のミクロ理論、動学分析を学ぶ。

第１回_市場機構の限界(１)(外部効果)
第２回_市場機構の限界(２)(公共財)
第３回_不確実性と情報(１)(不確実性)
第４回_不確実性と情報(２)（逆選択)
第５回_不確実性と情報(３)（道徳的危険)
第６回_ゲームの理論(１)(１回限りゲーム)
第７回_ゲームの理論(２)(繰り返しゲーム)
第８回_ゲームの理論(３)(混合戦略など)
第９回_国際貿易(１)(リカード・モデル)
第10回_国際貿易(２)(H&O・モデル)
第11回_国際貿易(３)(関税の効果)
第12回_動学理論(１)(フィッシャー・モデル)
第13回_動学理論(２)(最適動学理論)
第14回_動学理論(３)(カオス)
第15回_総括

【事前・事後の学習の内容】
前回の授業内容を復習し、次回授業のテキストの該当箇所を読んでおくこと。

【評価方法】
期末試験による。

【テキスト又は参考書】
テキスト：西村和雄著『ミクロ経済学(第３版)』(現代経済学入門)(岩波書店)

参考書：特になし。

【受講生へのコメント】
微分を用いた計算ができることを前提に授業を行います。

授業形態	講義	科目No.	EAB2J3255
科目名 社会政策論特殊講義		単位数 2	担当教員氏名 杉田　菜穂
Course Title Special Lecture on Social Policy		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
人口の高齢化、都市集中といった人口現象は、経済社会にあらゆる影響を及ぼします。本講義ではまず、人口と経済社会の関連と人口学説の史的展開について学んでいただきます。その上で、近年の日本における少子化問題をめぐる政策動向や諸課題について講じます。

【授業の到達目標】
人口と経済社会の関連や少子化をめぐる政策課題について理解していただく。

【授業内容・授業計画】
おおよそ以下のように進めますが、進捗状況によっては変更になることがあります。

第１回_人口への関心
第２回_人口論の射程
第３回_人口論の形成と展開①
第４回_人口論の形成と展開②
第５回_戦前日本の行政における人口認識①
第６回_戦前日本の行政における人口認識②
第７回_戦後日本の行政における人口認識①
第８回_戦後日本の行政における人口認識②
第９回_少子化の理論と出生力変動
第10回_少子化対策の形成と展開①
第11回_少子化対策の形成と展開②
第12回_女性のライフスタイルの多様化
第13回_原点としての母性保護論争
第14回_少子高齢化と社会保障
第15回_二極化する地域別人口と日本の未来
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
テキストや講義内で配布された資料について、予習・復習をしてください。

【評価方法】
小課題と期末レポートで評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：『人口論入門－歴史から未来へ－』法律文化社、2017年。

【受講生へのコメント】
初回の講義で講義内容や評価方法について詳しく説明します。

授業形態	講義	科目No.	EAB2J3202
科目名 社会思想史		単位数 2	担当教員氏名 岩熊　典乃
Course Title History of Social Thought		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
現代に生きる私たちが自明視している様々な観念（社会、国家、権利、自由、経済…）はどのように成り立ち、また、それらの意味内容はどのように書き換えられてきたか。私たちが生きる現代社会のあり方や様々な課題、そのゆくえを考える時、古典思想はどのような示唆を与えるか。本講義では、こうした問いに基づきつつ、社会思想史における代表的な古典テクストを読み解いていきます。

【授業の到達目標】
・取り上げるテクストの内容を、その歴史的背景や時代的課題とともに理解すること。
・私たちが生きる社会の仕組みやあり方を多角的かつ批判的に考察するための知的基盤を養うこと。

【授業内容・授業計画】
『古典から読み解く社会思想史』を、配布資料ないしはパワーポイント等によって解説する方式で授業を進めます。ただし、全章を対象とはせず、各章の内容についても適宜追加の説明を加える予定です。
第１回_ガイダンス：社会思想史とは何か
第２回_近代人とは何者か？：ホッブズ（第1章）
第３回_人間の権利は存在するのか？：バーク、ペイン（第2章）
第４回_市民社会と社会の問題圏：ヘーゲル（第3章①）
第５回_市民社会と社会の問題圏：アドルノ（第3章②）
第６回_貧困と統治：フーコー（第4章）
第７回_個人主義社会における連帯と排除：デュルケーム（第5章）
第８回_近代社会の新しい労働倫理：ヴェーバー、ギデンズ、ベック（第6章）
第９回_近代政治秩序の形成とその変容：ヴェーバー、シュミット（第7章）
第10回_公共性、無国籍者、人権：アーレント（第8章）
第11回_人権は人格の相互承認に由来する：ルソー、カント（第9章①）
第12回_人権は人格の相互承認に由来する：フィヒテ、ヘーゲル（第9章②）
第13回_女性の社会進出と自然的差異：J. S. ミル（第10章）
第14回_人間と自然は和解しうるのか？：ホルクハイマー、アドルノ（第12章）
第15回_批判理論の展開と「未完のプロジェクト」としての近代のゆくえ：ハーバーマス
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
事前にテキストに目を通し、要点や疑問点をまとめておくこと。
関心や必要に応じて、各章末の「必読文献」に挙げられている文献を参照すること。

【評価方法】
学期末試験

【テキスト又は参考書】
テキスト：中村健吾編著（2009）『古典から読み解く社会思想史』ミネルヴァ書房
＊同書を入手する場合は最新の第4刷にしてください。

【受講生へのコメント】
授業中の私語はお控えください。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4203
科目名 経済原論ⅡA		単位数 2	担当教員氏名 中嶋　哲也
Course Title Principles of Political Economy ⅡA		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
経済の長期的動向に関する諸理論の特徴、問題点、及び今後の理論的発展方向に関して講義する。

【授業の到達目標】
長期的な経済成長のメカニズムを理解するうえで、基本となる枠組みを理解すること。

【授業内容・授業計画】
長期の問題である経済成長についての見方は、需要制約をどう考えるかによってケインズ派と新古典派成長論に分かれる。それらの理論の特徴を、黒板に図を描きつつ説明する。

第１回_経済成長とは
第２回_完全雇用成長率
第３回_資本と成長率
第４回_成長持続の諸困難
第５回_新古典派成長理論
第６回_新古典派と貯蓄率
第７回_新古典派と所得格差
第８回_AKモデル
第９回_ミクロ経済学との結合
第10回_高度成長、低成長、長期停滞
第11回_従来のモデルの問題点
第12回_高度成長
第13回_低成長
第14回_人口成長と失業
第15回_まとめ
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
議論の流れを途切れさせないよう、講義出席前に前回の内容を振り返っておく。講義直後に自分でノートに補足説明を書いておく。

【評価方法】
定期試験で評価する。

【テキスト又は参考書】
テキストはない。

参考書：マクロ経済学の標準的な教科書中の「経済成長」の部分が参考になる。上級者用の参考書として『経済発展と格差－簡単な家計モデルによる検討－』中嶋哲也 2015 現代図書。

【受講生へのコメント】
講義中および直後の記憶が薄れないうちに、ノートに自分で補足説明を書いておくことが重要。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4206
科目名 社会経済論		単位数 2	担当教員氏名 佐藤 光
Course Title Social Economics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
「保守的自由主義」と呼ばれる思想の現代世界に対する意義と可能性を論ずる。

【授業の到達目標】
優れた思想家に学ぶと同時に、わたしたちの周囲のアクチュアルな諸問題に自ら向き合い自ら考える方法を習得したい。

【授業内容・授業計画】

第１回_はじめに
第２回_現代世界と保守的自由主義①――「進歩の時代」の黄昏(たそがれ)
第３回_現代世界と保守的自由主義②――保守的自由主義とは何か
第４回_エドマンド・バーク①――「保守主義」の原点
第５回_エドマンド・バーク②――フランス革命への態度
第６回_エドマンド・バーク③――バーク思想の可能性
第７回_マイケル・ポランニー①――「暗黙知」の理論
第８回_マイケル・ポランニー②――自由主義哲学
第９回_マイケル・ポランニー③――ポランニー哲学の発展
第10回_柳田国男①――自由主義者としての柳田国男
第11回_柳田国男②――太平洋戦争への態度
第12回_柳田国男③――日本リベラルはなぜ敗れたのか
第13回_保守的自由主義を今にどう生かすか①――経済
第14回_保守的自由主義を今にどう生かすか②――安全保障
第15回_まとめ
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
テキストを講義の前と後によく読むこと。

【評価方法】
期末試験による。

【テキスト又は参考書】
テキスト：佐藤光・中澤信彦編『保守的自由主義の可能性――知性史からのアプローチ』
ナカニシヤ出版、2015年。
参考書：特になし

【受講生へのコメント】
質問を歓迎する。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4259
科目名 経済統計論特殊講義		単位数 2	担当教員氏名 中村 英樹
Course Title Special Lecture on Economic Statistics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
経済学におけるデータ分析（特に、回帰分析）を理解し、自ら行えるようになる。

【授業の到達目標】
確率的な考え方をまず理解します。そして、統計分析の例をもとに、分析の行い方や結果の解釈への理解を深めていきます。最終的には、自分で統計分析できるようになることが目標です。

【授業内容・授業計画】
パワーポイントを使いながら、説明します。穴あきの資料を配るので、講義ではそれを埋めていきます。

第１回_Introduction（ガイダンス）
第２回_統計分析の例
第３回_確率の復習
第４回_確率の応用
第５回_確率を使った経済分析
第６回_統計的検定：平均の検定
第７回_平均の差の検定
第８回_回帰分析：Introduction
第９回_回帰分析：説明
第10回_回帰分析：応用
第11回_回帰分析：実践
第12回_回帰分析：高度な応用
第13回_統計分析の紹介
第14回_統計分析の実践
第15回_統計分析：補足
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
できるだけ基礎知識が無くても受講できるように工夫しますが、予習があるほうがはるかに理解は深まります。また、統計分析は実際に自分で行ってみることが重要です。

【評価方法】
学期末試験で評価します。なお、統計分析によるレポートを任意で課しますが、レポート点は試験の点数にプラスします。

【テキスト又は参考書】
テキストは無し。参考書は、講義中に紹介します。

【受講生へのコメント】
特になし

授業形態	講義	科目No.	EAAPE4212
科目名 計算機経済学(G)		単位数 2	担当教員氏名 中島　義裕
Course Title Computational Economics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
経済現象の多くは、絶えず変化し続けます。コンピュータを利用することで変化し続ける様々な現象を観察し、理解することができるようになりました。この授業では、変化し続けるシステムの基礎となっているカオス力学系を中心に、経済現象と深く関わるフラクタルやベキ則分布、そして、その応用として現在研究が進んでいるネットワーク理論について解説します。

【授業の到達目標】
カオス力学系、ネットワーク、フラクタルとベキ則分布のそれぞれについて、理解することを目標にします。

【授業内容・授業計画】
この講義では11 月末までフィリピンの教室とインターネットで繋ぎ大阪市立大学とデラサール大学の両方の学生に向けた授業を行います。この間、基本的には英語で授業をします。しかし、この講義の目的は英語を学ぶことではありません。授業の配布資料などでは日本語での解説も含めますし、講義の途中でも日本語での補足や日本語での質問も受け付けるなど授業についていけるように工夫します。ワークシートにより「手を動かして理解する」ことに注力します。
第１回_イントロダクション
第２回_レギュラー・ネットワーク
第３回_スモールワールド・ネットワーク
第４回_スケールフリー・ネットワーク
第５回_ポピュレーションダイナミクス
第６回_フラクタル
第７回_フラクタル次元とベキ則分布
第８回_サンド・パイル・モデル
第９回_軌道と相肖像
第10回_複雑な軌道と相肖像
第11回_ロジスティックマップと相肖像
第12回_不動点に吸引される軌道
第13回_吸引不動点がないケース
第14回_分岐図とカオス
第15回_カオスとフラクタル
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
事前学習：授業で使用するパワーポイントとレポートを配布するので、それを予習すること
事後学習：授業中の解説を元にレポートを完成させ提出する。

【評価方法】
毎回提出するレポートにより評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし

参考書：Barabási, A. L. and Albert, R. (1999). Emergence of Scaling in Random Networks. Science, 286(5439): 509-512.

【受講生へのコメント】
時間割は二コマですが、授業は９０分です。（フィリピンと接続している間は13:45-15:15に授業を行います。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4213
科目名 アジア経済史		単位数 2	担当教員氏名 脇村 孝平
Course Title Economic History of Asia		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

本講義は、近代アジア経済史を、貿易史を基軸として論じることを目標とする。すなわち、19世紀半ば以降現代までの、アジア内の相互の貿易（本講義では、「アジア間貿易（Intra-Asian Trade）」と呼称する）の変遷に焦点を合わせる。東アジア、東南アジア、南アジアを含むアジア内の貿易を扱うが、日本を中心に置くことになろう。

【授業の到達目標】

本講義では、貿易史の動向を概観することによって、同時期のアジア経済の変遷の全体像を垣間見ることを意図している。多くの場合、貿易構造の変化は、背後に控える産業構造の変化、あるいは経済に関わる制度の変化、さらには国家による政策の変化などを映し出している。

【授業内容・授業計画】

世界貿易は、19世紀半ば以降、交通革命（鉄道と蒸気船の発達）の影響によって、急速に成長した。「アジア間貿易」も、同時期にほぼ同様の成長率で拡大する。アジアの各地域の対ヨーロッパ貿易は、世界貿易の成長率とほぼ同じ速度で成長するが、「アジア間貿易」は、むしろそれ以上の率で発展した。

第１回_はじめにー貿易史の意義
第２回_海禁と互市
第３回_アヘン貿易
第４回_開国と不平等条約
第５回_居留地貿易
第６回_工業化の開始
第７回_綿業基軸体制
第８回_アジア間貿易の形成
第９回_植民地の位置づけ
第10回_両大戦間期のアジア間貿易
第11回_戦時期とアジア間貿易の崩壊
第12回_戦後と冷戦体制
第13回_アジア間貿易の復活
第13回_アジア間貿易の復活
第14回_「東アジアの奇跡」
第15回_おわりにー未来に向けて
定期試験

【事前・事後の学習の内容】

毎回の授業の一週間前に個人サイトにアップするレジュメ（パワーポイントのスライド）を読んで予習するようにしてもらう。

【評価方法】

学年末試験に対する評価が主となるが、ほぼ毎回提出してもらうコミュニケーション・カードに対する評価も考慮する。

【テキスト又は参考書】

テキスト：特になし

参考書：特になし

【受講生へのコメント】

21世紀の世界経済の発展において、アジア経済が果たす役割は極めて大きい。その真の意味を考えるためにも、時計の針を約百五十年前に巻き戻してみましょう。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4218
科目名 地方財政論		単位数 2	担当教員氏名 小川　亮
Course Title Local Government Finance		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
本講義では、政府活動のなかでも国の財政とともに車の両輪をなす「地方財政」について学ぶ。講義内容の特徴としては以下の２つの点にある。（1）ミクロ経済学をベースに政府行動を分析する「公共経済学」にもとづいた理論的解説が主になる。（2）統計データを用いた解説を頻繁におこなう。

【授業の到達目標】
地方財政に関する基礎的な制度や理論を体系的に理解することや、近年の地方財政改革に関して議論できる力を養うことを目標とする。

【授業内容・授業計画】
基本的には、以下の講義計画に沿うかたちで進める。毎回、パワーポイントによる講義とし、その全データを小川の個人サイトに置いて、受講生に閲覧可能状態とする予定である。

第１回_イントロダクション
第２回_資源配分と地方財政Ⅰ：歳出における国と地方の役割
第３回_　　同上
第４回_資源配分と地方財政Ⅱ：地方分権の理論と実証
第５回_　　同上
第６回_　　同上
第７回_住民負担と地方財政Ⅰ：地方歳入の構造
第８回_住民負担と地方財政Ⅱ：地方税
第９回_　　同上
第10回_　　同上
第11回_国と地方の財政関係Ⅰ：財政移転
第12回_国と地方の財政関係Ⅱ：国庫支出金
第13回_国と地方の財政関係Ⅲ：地方交付税
第14回_トピックス①
第15回_トピックス②
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
少なくともテキストを一読し、分からないところを明らかにしたうえで、講義に臨むこと。
講義後、理解できなかったことはそのまま放置せずに、速やかに質問をしたり、他の文献で調べたりすること。

【評価方法】
期末試験で評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：佐藤主光（2009）『地方財政論入門』新世社

参考書：橋本恭之・鈴木善充・木村真・小川亮・吉田素教（2017）『地方財政改革の検証』清文社

【受講生へのコメント】
積極的に質問をしてください。なお、私語、スマホ操作、居眠り、特別の理由のない遅刻・途中退出といった受講上のマナー違反を慎むこと。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4225
科目名 流通経済論		単位数 2	担当教員氏名 柴田　淳
Course Title Lectures on Distribution Channels		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
流通経済論は、理論的分析を行なう講義構成と歴史的分析を行なう講義構成の２系列からなっています。本年度は主に歴史的分析を行ないます。

【授業の到達目標】
日本の流通システムについて、歴史的パースペクティブのなかで理解できるようになること。

【授業内容・授業計画】
通常の講義形式を予定しています。

第１回_歴史的パースペクティブから流通をとらえる
第２回_江戸期以前の流通
第３回_初期豪商と独立経済圏
第４回_幕府による経済集権化と近江商人・伊勢商人の台頭
第５回_産地廻しと国内統一市場の成立
第６回_生産性上昇と新たな近江商人
第７回_在方商人
第８回_株仲間の興亡
第９回_新たな取引ルートと幕藩経済体制の崩壊
第10回_近代化と新たな豪商
第11回_運輸・通信ネットワーク整備と市場の確立
第12回_百貨店の成立
第13回_総合スーパーの成立
第14回_メーカー主導流通チャネルの興亡
第15回_残された課題
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
事前学習として、紹介された関連資料を読んできて下さい。事後学習として、講義ノートをもとによく復習をして下さい。

【評価方法】
期末試験

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし

参考書：石井寛治　「日本流通史」　有斐閣

【受講生へのコメント】
歴史を通して現在を相対化することを学んで下さい。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4271
科目名 労働経済論特殊講義		単位数 2	担当教員氏名 福原　宏幸
Course Title Special Lecture on Labour Economics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】　「ワーキングプア・就職困難者への就労支援」を主題にして講義を行う。

これらの人々が直面する課題は、不安定な雇用だけでなく、貧困そして社会的孤立など多面的である。また、この課題は、経済社会の仕組みと深く結びついている。このことから、講義では、中間的労働市場論、アクティベーション、ベーシックインカム、そして社会的排除／包摂などの議論について理解することが求められ、これらについても講義する。

【授業の到達目標】

本講義では、就労問題が、労働市場構造のあり方（経済的問題）だけでなく、社会的なつながりのあり方・支援の質と広がりといった社会的な課題とも深く結びついていることの理解を深める。とくに、その理解に必要なキータームの概念の理解と、実態についての分析的視点を身につけることをめざす。

【授業内容・授業計画】

前半では、分析装置となるキータームを説明し、続いて、欧米諸国の実態分析や政策理論について論じる。こうした講義内容を踏まえて、後半では、日本の就労問題の現状と課題について講義をする。

第１回_はじめに
第２回_ワーキングプア・就職困難者の事例 1 若者
第３回_ワーキングプア・就職困難者の事例 2 女性
第４回_ワーキングプア・就職困難者の事例 3 中高齢者
第５回_ワーキングプア・就職困難者の事例 4 日雇労働者
第６回_社会的排除／包摂論 1
第７回_社会的排除／包摂論 2
第８回_欧州連合の社会的包摂政策
第９回_イギリスの社会的包摂政策
第10回_北欧諸国の社会的包摂政策
第11回_フランスの社会的包摂政策
第12回_日本の社会的包摂政策 1
第13回_日本の社会的包摂政策 2
第14回_日本の社会的包摂政策 3
第15回_全体のまとめ
定期試験

【事前・事後の学習の内容】

次回の講義のテーマを伝えるので、関連するネット情報などに目を通すことを求める。
とくに事後の復習をしっかりと行うことを求める。

【評価方法】

レポートと期末試験で評価する。

【テキスト又は参考書】

テキストを予定しているが、後日通知する。また、あわせて講義時に資料を配布する。

【受講生へのコメント】

特になし

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4279
科目名 産業組織論特殊講義		単位数 2	担当教員氏名 北原　稔
Course Title Special Lecture on Industrial Organization		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
産業組織論に関わる最新の研究に触れる。また、ミクロ経済学的視点（特に、インセンティブ）・計量経済学的視点（特に、内生性の問題）の研究における活かし方を学ぶ。

【授業の到達目標】
最新の研究でどの様なことが、どの様にして、明らかになっているかを知る。また、それらにおけるミクロ経済学的視点・計量経済学的視点の活かされ方を知る。

【授業内容・授業計画】
NBER Digest（ニュース性の高い最新研究の一般向け要約が毎月四本以上掲載されている（NBER HPより）で取り上げられた論文を講義形式で紹介する。参考までに、一昨年度の講義で扱った記事を以下に掲載する。

第１回_ガイダンス
第２回_第1論文（記事例：Recent Trends in Intergenerational Mobility）
第３回_第2論文（記事例：Student Absences, Instructional Time, and Academic Achievement）
第４回_第3論文（記事例：Birth Order and Student Performance）
第５回_第4論文（記事例：Juvenile Incarceration and Later Criminal Activity）
第６回_第5論文（記事例：Dynamic Aspects of Family Transfers）
第７回_第6論文（記事例：Letter Grading Government Efficiency）
第８回_第7論文（記事例：Hiring Decisions for High-Value Employees: Evidence from March Madness Performance）
第９回_第8論文（記事例：Bank Performance in 1998 Explains Performance during the Recent Crisis）
第10回_第9論文（記事例：African Export Successes）
第11回_第10論文（記事例：Measuring the Long-Term Impacts of Teachers）
第12回_第11論文（記事例：Agglomeration of Bankruptcy）
第13回_第12論文（記事例：Earners' Gender Identity and Relative Income within Households）
第14回_第13論文（記事例：Parsing the Evidence of the Financial Crisis 2007-9）
第15回_第14論文（記事例：Who Creates Jobs?）
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
講義前に、NBER Digestの記事（HP: http://www.nber.org/digest/）と論文のアブストラクトには目を通し、疑問点を整理しておく。講義後は、関連する統計がどれ程取れるものか調べてみる。

【評価方法】
宿題及び試験により評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし

参考書：特になし

【受講生へのコメント】
扱う記事や宿題についての情報は講義HP http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/kitahara/2018io.htm(10月開設予定)に随時掲載するのでこまめにチェックすること。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4230
科目名 国際経済学		単位数 2	担当教員氏名 久保　彰宏
Course Title International Economics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
先進国・中進国・途上国に分類したとして、貿易と金融のグローバル化はそれぞれの社会・経済にとって今後ますます重要な役目を果たすであろう。自由貿易と為替レートの変動がスタンダードになりつつある昨今，とりわけ中進国や途上国では保護貿易や為替の安定を議論する声も根強い。
国際経済についての議論を様々な角度（経済理論）から検証することが本講義のねらいである。

【授業の到達目標】
貿易と金融の両面を適宜融合させて，昨今の国際経済事情について理解を深めることが最大の目標となる。

【授業内容・授業計画】
基本的には講義形式が中心であるが，講義のテーマによっては討論を求める。なお，図表などを用いた解説をおこなうこともあるが，高度な数学的解説は用いないよう配慮する。

第１回_イントロダクション
第２回_国際収支
第３回_国際資本移動
第４回_自由貿易と保護貿易
第５回_貿易理論
第６回_貿易収支と実質為替レート
第７回_貿易収支と為替レート政策
第８回_前半のまとめ
第９回_購買力平価
第10回_バラッサ＝サミュエルソンの定理
第11回_金利平価
第12回_オーバーシューティングモデル
第13回_為替レートの予想
第14回_通貨危機の発生メカニズム
第15回_まとめと最新研究の紹介
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
ノートを再度まとめ，復習することが望ましい。

【評価方法】
中間テスト30%　期末試験（またはレポート）70%

【テキスト又は参考書】
テキストは使用しない。参考文献は講義中に指示する。

【受講生へのコメント】
講義中のディスカッションには積極的に参加して欲しい。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4236
科目名 ヨーロッパ経済論		単位数 2	担当教員氏名 堀口　朋亨
Course Title European Economy		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

EUは、約5億人の人口を抱え、アメリカを上回る域内総生産（全世界の約25%）を誇り、日本にとっても非常に重要な市場である。そこで一定の地歩を固めることは、国際社会における生存のために非常に重要である。国家間の葛藤を乗り越え、パートナーとして経済共同体を作り上げているが、今日、グローバル経済がもたらす副作用から分裂の危機を迎えている。

本講義では、EUの形成過程、機能、課題に関して考察を行う。

【授業の到達目標】

EU経済の基本的仕組みについて理解できるようになることをめざし、さらに進んで、グローバル経済下における競争環境が国民経済に与える影響を理解されたい。特に失業と貿易の関係について考察し、一定の見識を持てるようになることが、本講義が目指す到達目標である。

【授業内容・授業計画】

毎回、パワーポイントによる講義とし、病気などのやむを得ない事情でこれなかった学生にはレジュメを配布します。

第１回_本講義の視座
第２回_ＥＵの成立の背景
第３回_ＥＵの統治機構
第４回_ＥＵの法体系と立法プロセス
第５回_競争力の源泉としての国際標準1
第６回_競争力の源泉としての国際標準2
第７回_ＥＵと国際貿易
第８回_ＥＵの失業率と雇用政策1
第９回_ＥＵの失業率と雇用政策2
第10回_ＥＵの失業率と雇用政策3
第11回_ＥＵの雇用環境再考
第12回_ＥＵの競争施策
第13回_外国人労働者と移民
第14回_グローバル経済と経済格差
第15回_ヨーロッパ経済論の鳥瞰図
定期試験

【事前・事後の学習の内容】

事前学習としては、関連するニュースを読むようにするようにしてほしい。事後学習としては、参考文献や関連する書籍を学情で借りて、講義ノートに関連する情報を書き込むようにしてください。

【評価方法】

平常点10%、試験90%
講義を踏まえて、論述式の試験を行います。

【テキスト又は参考書】

テキストは特になし、参考書は以下のものとする。
中村 健吾『欧州統合と近代国家の変容―EUの多次元的ネットワーク・ガバナンス』昭和堂
永岑 三千輝、 広田 功『ヨーロッパ統合の社会史―背景・論理・展望』 日本経済評論社

【受講生へのコメント】

自分だけのノートを作成するつもりで、講義を受けてください。

授業形態	講義	科目No.	EAAPE4207
科目名 Lectures on Economics B		単位数 2	担当教員氏名 篠原　正人
Course Title Lectures on Economics in English B		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
This course aims at understanding the fundamentals of economics in English.
After reviewing the basics of economic theories, focus is drawn to the current economic affairs that we see in the media.
Students are encouraged to raise questions on the topics they have chosen and exchange opinions.

【授業の到達目標】
To be able to understand English terminology of economics.
To be able to make a presentation in English on economic issues.

【授業内容・授業計画】
The course begins with the brief review of basic macro/micro economics in English.
Next, current issues in the world economy are picked up for discussions.
Students are asked to talk about the issues they have chosen and discuss them with the peers.

第１回_Course orientation & self-introduction by the teacher and the students
第２回_Basics in economics
第３回_Perspective in macro-economics
第４回_Perspective in micro-economics
第５回_Markets
第６回_Economic history of Japan
第７回_Economic history of the World
第８回_Economics and humans
第９回_Rationality and complexity
第10回_Economic development in Asia
第11回_Current issues: world trade system
第12回_Evolution in supply chains
第13回_What is a firm?
第14回_Case study on the activities of firms (1)
第15回_Case study on the activities of firms (2)
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
Students must review the economics theories they have learned in Japanese.
It is compulsory to read the economic pages of English newspapers in order to get used to the terminology.

【評価方法】
Contribution to the discussions in the class: 30%
Quality of reports submitted: 30%
Final examination: 40%

【テキスト又は参考書】
テキスト：
To be announced or handed out in the course.
参考書：YouTube: "Crash Course Economics"
Website: Investopedia "Economics Basics" https://www.investopedia.com/university/economics/

【受講生へのコメント】
Students are encouraged to actively participate in the discussions in the class.

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ3204
科目名 産業政策特殊講義1（商友会・経友会講座）		単位数 2	担当教員氏名 松本　淳
Course Title Special Lecture on Industrial Policy 1		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
この講義は学生のキャリア形成を趣旨とするものであり、産業界などで活躍する先輩方を講師としてお招きし、産業・企業そして仕事などについての実体験を語っていただくものです。

【授業の到達目標】
日本経済を支えるそれぞれの産業は、常に日本および世界経済の変化に対応するとともに、その時々の国内外の競争の中を生き抜いてきました。そのような日本経済を支える産業経済の生きた、リアルな実体験について理解を深めることを目標とします。

【授業内容・授業計画】
この講義は、商友会および経友会（本学商学部・経済学部および大学院経営学研究科・経済学研究科の卒業生同窓生）による公開講座です。
商学部や経済学部だけではなく他学部も含めた卒業生の中から現役社会人を中心に講師をお迎えして、幅広い産業経済界の実体験を伝えていただきます。

第１回_　　2018年度の講師の全容は、改めて別途、掲示いたします。
第２回_
第３回_
第４回_
第５回_
第６回_
第７回_
第８回_
第９回_
第10回_
第11回_
第12回_
第13回_
第14回_
第15回_
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
講師の全容は事前に分かるので、その講師の産業について事前に調べておくことが望ましい。また、講義後にはその内容を復習することが望ましい。

【評価方法】
学年末の筆記試験（講師の作成したレジュメ・資料の持込可）および出席点により評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし

参考書：特になし

【受講生へのコメント】
講義への毎回の出席と講師への積極的な質問を期待しています。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ3206
科目名 経済政策論特殊講義2(税関講座)		単位数 2	担当教員氏名 森　誠
Course Title Special Lecture on Economic Policy 2		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

国際貿易・物流の第一線で働く財務省関税局及び大阪税関職員が、複雑化・多様化する国際物流の現状を踏まえ、貿易の健全な発展と安全・安心な社会の実現に向けた我が国の関税政策・税関行政の取組み等について、関税制度の仕組みや密輸動向など最新の知識・情報を分かりやすく説明し、国際貿易・経済の未来を自らで「考える」きっかけとなるような講義を目指します。

【授業の到達目標】

我が国の関税政策や税関行政の基礎的な知識を修得していただきます。

【授業内容・授業計画】

大阪税関及び財務省関税局職員が交替で講義を行います。
※講義計画は、財務省関税局及び大阪税関の人事異動やその他諸般の事情等により変更される場合がある。

第１回_ガイダンス
第２回_イントロダクション（関税・税関を取り巻く環境）
第３回_関税とは何か（関税の役割）
第４回_関税制度の企画立案（貿易救済措置）
第５回_関税をめぐる国際的な動向Ⅰ（GATT、WTO）
第６回_関税をめぐる国際的な動向Ⅱ（EPA/FTA交渉）
第７回_税関行政１（国際物流・経済活動の関所）
第８回_税関行政２（関税決定のプロセスⅠ（貨物の分類と適用税率））
第９回_税関行政３（関税決定のプロセスⅡ（課税価格の決定と通関後の調査））
第10回_税関行政４（覚醒剤・金等の密輸の水際取締最前線）
第11回_税関行政５（知的財産権保護や環境問題等への対応）
第12回_税関行政６（貿易の円滑化（国際物流のセキュリティ強化と貿易円滑化の両立））
第13回_貿易統計（近畿圏の貿易動向・特色及び貿易統計の利活用）
第14回_関税分野の国際協力
第15回_大阪港及び関西国際空港を取り巻く現状
定期試験

【事前・事後の学習の内容】

講義で説明したポイントを中心によく復習をしてください。

【評価方法】

学期末の試験（90%）と講義後の感想カード（10%）による。
学期末の試験はマークシート方式にする予定。資料等の持ち込みは不可。

【テキスト又は参考書】

毎回の講義で参考資料を配布します。

【受講生へのコメント】

行政実務の経験を踏まえた講義を目指しますので、積極的な姿勢での受講を希望します。
経済学部に限らず、他学部の学生の履修も大歓迎です。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ3207
科目名 労働経済論特殊講義1(連合大阪寄附講座) —働くということと労働組合—		単位数 2	担当教員氏名 Charles Weathers
Course Title Special Lecture on Labour Economics		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

人が生きていく上で、「働くこと」と無縁ではあり得ない。

一方、近年の日本においては、長時間労働や過労死問題、非正規労働者の増加、ブラック企業、「働き方改革」など、労働を巡る課題が社会問題化している。

しかし、特に若年層においては、「労働に関する知識が乏しい」、「働くことに漠然とした不安がある」との調査結果もある。

この講義は、学生に対して「働くこととは」、「労働組合、労働運動とは」、「労働者の権利とは」、「連合大阪の運動とは」等、働くことを巡る諸課題についての理解を深めることを主題とする。

【授業の到達目標】

実際の労働現場、労使関係の現状を理解した上で、働き、社会活動を行っていく人材を育成する。

【授業内容・授業計画】

毎回、労働団体の連合(大阪)の役員及びゲスト・スピーカーが労働問題について講義する。

第１回_〈オリエンテーション・基礎編①〉「働くこと、労働組合を巡る現状」
第２回_〈オリエンテーション・基礎編②〉「働く人が助け合う仕組みと歴史～労働組合、労働者自主福祉運動」
第３回_①「大阪における特徴的な労働・社会的課題と連合大阪の取組み」
第４回_②「『働き方改革』の評価と展望～長時間労働・同一労働同一賃金を中心に」
第５回_③「最低賃金、賃上げが決まる仕組み(春闘)」
第６回_④「働く人の命と健康を守る～労働安全衛生・メンタルヘルス」
第７回_⑤「働く現場の声～連合大阪に寄せられた労働相談(未組織、解雇・ブラックバイト・残業代未払等)と組織化の実例」
第８回_〈特別講義〉「映画に見る労働観の変遷」
第９回_⑥「中小企業問題の本質は何か」
第10回_⑦「公務労働の現状と課題」
第11回_⑧「非正規労働者の組織化の現状と課題」
第12回_⑨「女性(男性も)が働きやすい職場づくり～ＷＬＢをどう進めるか」
第13回_⑩「ＡＩ、ＩｏＴの進展と働くことの将来」
第14回_〈論点整理〉教員によるまとめ
第15回_〈総括講義〉「働くということと労働組合」
期末試験

【事前・事後の学習の内容】

講義についてのミニ報告、一冊の書籍についての書評を提出してもらう。
また、期末試験を行う。

【評価方法】

毎回の出席、ミニ報告、書評および期末試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】

テキスト：毎週、レジュメなどの資料が配布される。

【受講生へのコメント】

特になし

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ5503
科目名 経済構造上級講義		単位数 2	担当教員氏名 松澤　俊雄
Course Title Advanced Lecture on Economic Structure		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
経済循環における産業構造と産業連関（および産業連関表）についての理解を図るとともに、運輸産業を例にして企業行動と利用者行動による「供給」・「需要」が資源配分（社会厚生）上や、地域社会の活性化等にどのように関わるかをみてゆきたい。地域・都市交通の性質を理解し、整備・運営上の方策や方向性についても論求したい。

【授業の到達目標】
①産業構造・産業連関表の基礎的知識について学ぶ。②公共政策の経済学的評価方法について学ぶ。③都市交通の「性質」について様々なデータから学習を行う。④運輸産業の構造を反映した整備・運営上の在り方（政策）についての思考力を養う。

【授業内容・授業計画】
経済循環において各産業の生み出す生産物が他の産業に中間生産物として、また家計・政府などに最終需要としてどのように取引されるかを考える。つぎに運輸・交通産業を例としてその供給・需要構造をマクロ的に把握するとともに、企業・家計による需要について社会・経済的な要因分析を行う。また利用者獲得を巡る企業間・産業間競争について分析もおこなう。後半では地域・都市交通サービスを産業としてみるとともに、利用者からみた広い意味での公共財として、その整備・運営についての方向性を考えたい。

第１回_経済主体と経済循環
第２回_産業構造と産業連関表[I]
第３回_産業構造と産業連関表[II]（産業連関分析）
第４回_運輸産業の需要構造[I]
第５回_運輸産業の需要構造[II]
第６回_運輸事業者間・運輸産業間の競争[I]（利用者費用とサービス生産費用）
第７回_運輸事業者間・運輸産業間の競争[II]
第８回_交通政策と便益の測定(Marshall Measure,CV,EV,C-B分析)
第９回_運輸事業における価格形成（MC,Ramsey,Peak-Load等）と評価
第10回_都市交通の性質と分析[I]
第11回_都市交通の性質と分析[II](自動車交通を含む)
第12回_都市の活性化と交通整備
第13回_都市交通の運賃設定
第14回_域内バス産業の規制改革
第15回_地域・都市の総合交通政策
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
講義資料に事前に目を通すようにして下さい。またできれば復習もおこなって下さい。

【評価方法】
期末試験を中心に評価する（学期の途中でレポート提出を求める予定。提出者は期末試験に加点する）。

【テキスト又は参考書】
テキスト：使用予定：別途指示する。講義資料を必要に応じて配布する（紙媒体・ネット上掲示資料）
参考書：国土交通省監修『交通経済統計要覧』（最新年版）(財)運輸政策研究機構発行；『国土交通白書』：ホームページでも、政策・統計等をダウンロード出来ます。 http://www.mlit.go.jp/
国土交通白書など、国のHPからダウンロード可能な統計データ。

【受講生へのコメント】
日頃から運輸・交通問題に関心をもってマスメディア等に接して下さい。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ5504
科目名 国際経済上級講義		単位数 2	担当教員氏名 朴　一
Course Title Advanced Lecture on International Economy		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

開発経済の基本理論を用いて、植民地化、国民経済の形成過程、開発独裁（権威主義体制下での経済開発）、経済民主化、多国籍企業の台頭、多国間の経済協力などトピックスを中心に、韓国や北朝鮮を事例に経済・社会構造の変化について報告する。

【授業の到達目標】

東アジア経済の分析理論に関する基本的枠組みを習得し、開発途上国が直面する諸問題について考える力（問題解決の方法）を身につける。

【授業内容・授業計画】

本講義では、以下のようなトピックスに関する先行研究を材料に講義を行い、テーマの課題を中心に受講生と議論を行う。

第１回_講義の進め方
第２回_植民地近代化論－朝鮮における植民地化の功罪
第３回_低開発の発展－朝鮮における植民地開発は開発か、低開発か？
第４回_世界システムと不等価交換－新植論の功罪
第５回_後発性利益と後発性不利益－第四世代工業化をどう理解すべきか
第６回_新国際分業－ＯＥＣＤレポート『新興工業国の挑戦』の波紋
第７回_企業内国際分業－韓国財閥と多国籍企業
第８回_プロダクトライフサイクル論－韓国財閥にみるキャッチアップ型工業化
第９回_計画経済と社会主義市場経済－北朝鮮にみる「限定的な改革開放政策」
第10回_開発独裁－韓国における権威主義体制下の開発
第11回_経済援助と経済制裁－北朝鮮とどう向き合うか
第12回_経済のグローバル化と通貨危機－通貨危機に対する韓国とマレーシアの対応
第13回_経済協力と自由貿易協定－韓国と米国のＦＴＡについて考える
第14回_経済ナショナリズムと保護主義－韓国における進歩派政権の保守主義の背景
第15回_まとめ
定期試験

【事前・事後の学習の内容】

講義に関するトピックスに関するテキストの部分を事前に学習し、理解しておくこと。また毎回、課題を出すので、次回までに各自で学習しておくことが望ましい。

【評価方法】

講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。

【テキスト又は参考書】

朴一『20世紀東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2017年刊

【受講生へのコメント】

講義には絶えず積極的な姿勢で臨むこと。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ5506
科目名 ミクロ経済学上級講義2		単位数 2	担当教員氏名 岩波 由香里
Course Title Advanced Lecture on Microeconomics 2		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
ゲーム理論について学ぶ。

【授業の到達目標】
完備情報ゲームと不完備情報ゲームについて理解する。

【授業内容・授業計画】
講義は予告なく変更されることがある。

第１回_はじめに
第２回_ナッシュ均衡
第３回_混合戦略
第４回_部分ゲーム完全均衡
第５回_交渉
第６回_繰り返しゲーム①
第７回_繰り返しゲーム②
第８回_完全ベイジアン均衡
第９回_シグナリング①
第10回_シグナリング②
第11回_モラル・ハザード①
第12回_モラル・ハザード②
第13回_逆淘汰①
第14回_逆淘汰②
第15回_まとめ
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
テキストの該当箇所を読んで、予習・復習をすること。

【評価方法】
期末試験　100％

【テキスト又は参考書】
テキスト：神取道弘．2014年．『ミクロ経済学の力』日本評論社.

【受講生へのコメント】
授業中に私語をするなど他の学生に対して迷惑行為を行う者は、失格にする。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ5508
科目名 計量経済学上級講義2		単位数 2	担当教員氏名 鹿野　繁樹
Course Title Advanced Lecture on Econometrics 2		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。

【授業の到達目標】
この講義は、計量経済学の標準的な分析ツールの理論と利用法を習得することを目標とする。

【授業内容・授業計画】
まず、回帰係数の線形制約の検定を解説する。
次いで、古典的仮定よりもより一般的な仮定のもとでの回帰分析を考える。
そこでは、内生性バイアスとその対処法としての操作変数法が主題となる。
最後に二値反応変数の回帰分析として、プロビットを学ぶ。

第１回_回帰モデルのF 検定（1）：基礎編
第２回_回帰モデルのF 検定（2）：応用編
第３回_漸近理論の基礎
第４回_確率的説明変数（1）：条件付き期待値関数
第５回_確率的説明変数（2）：根源的仮定とOLS
第６回_分散の不均一性と仮説検定（1）：OLSの分散と分布
第７回_分散の不均一性と仮説検定（2）：WLS
第８回_内生性バイアスと操作変数法（1）：内生性バイアスとは？
第９回_内生性バイアスと操作変数法（2）：IVと2SLS
第10回_内生性バイアスと操作変数法（3）：応用編
第11回_因果関係を立証できるか？
第12回_最尤法（1）：基礎編
第13回_最尤法（2）：プロビット
第14回_最尤法（3）：トービット
第15回_ここまでの復習
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。
テキスト章末の復習問題を解くこと。

【評価方法】
毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。

【テキスト又は参考書】
鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。

【受講生へのコメント】
計量経済学上級講義１とセットの科目です。前期に計量経済学上級講義１を受講して下さい。

授業形態	講義	科目No.	EAAPE4204
科目名 Global Economy		単位数 2	担当教員氏名 Charles Weathers
Course Title Global Economy		必修・選択 基礎科目	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
英語を駆使するグローバルな人材を育成することを目的とします。

【授業の到達目標】
英語の資料を読み、議論を行い、プレゼンテーションを行なうことによって、実践的な英語のスキル、表現する能力を身につけることを目標とします。

【授業内容・授業計画】
授業は、全て英語で行ないます。学期の前半には、新聞などからの情報を理解し、活発な議論を行なうことによって、グローバル社会の理解と英語でのコミュニケーション能力を身につけてもらいます。後半にはそれぞれの課題に沿ったプレゼンテーションを行なってもらい、英語で表現する能力を開発します。

第１回_Introduction
第２回_Discussion on reading, led by teacher
第３回_Presentation practice
第４回_First student-led discussion
第５回_Second teacher-led discussion
第６回_Planning for student presentation
第７回_Second student-led discussion
第８回_Guidance on English-language presentations
第９回_Guidance on information-gathering
第10回_Guidance on writing up presentations
第11回_Presentation workshop
第12回_First student presentations
第13回_Second round of student presentations
第14回_Final student presentations
第15回_Course wrap

【事前・事後の学習の内容】
授業は、全て英語で行ないます。毎週、宿題を出します。前半では、毎週、英語の資料の講読と英語のワークシートの答え合わせ、また、各学生がパートナーと共に１回授業のディスカッションをリードしてもらいます。後半には、各学生がパートナーと共に２５分程度の英語でのプレゼンテーションを行ってもらいます。
期末試験を行う予定はありませんが、毎週の出席と積極的な準備が求められます。
また、英語のチューターの積極的な活用が求められます。

【評価方法】
授業への積極的な準備及び参加が最も重要です。また、プレゼンテーションも評価の対象とします。

【テキスト又は参考書】
テキストおよび参考書：前半、毎週、資料を配ります。

【受講生へのコメント】
10人を定員としています。参加希望の学生が１０人を超えた場合、面接などの方法によって選択します。掲示板を見てください。また、経済英語およびEconomic Readingなど英語での授業に参加したことがある学生を優先する場合があります。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ		単位数 2	担当教員氏名 脇村　孝平
Course Title Innovative Workshop		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】

本演習では、「アジア市場を攻略せよ」というテーマを掲げます。近年、アジア諸国は、日本にとって、低賃金労働をあてにする直接投資の対象としてのみならず、消費市場としての将来性に注目が集まっている。要するにアジア諸国の大都市圏に分厚く存在するミドルクラスの購買力にも注目が集まっているのである。本演習では、受講生各人にアジアの中の一国を選んで、仮想の「市場調査」を行ってもらう予定である。

【授業の到達目標】

受講生は適当な商品を選ぶ（例えば、自動車）、それをアジアの国で売り込むという想定の下で、「市場調査」を行う。ただし、ここでいう「市場調査」は、マーケティングのための本当の「市場調査」ではなく、その前提となる基礎的な調査を指している。具体的には、その国の人口（その増加率）、経済のパーフォーマンス、所得分配、文化、宗教、大都市圏の様相など様々な情報が必要となろう。

【授業内容・授業計画】

前半は、参考になるテキストを読んで、アジア諸国の消費市場を分析する上での、基礎的な情報をつかむ。後半では、受講生自らに、仮想の「市場調査」を行ってもらう。

第１回_オリエンテーション
第２回_グループ分けとサブ・テーマ設定
第３回_『消費するアジア』第１章と第２章
第４回_『消費するアジア』第３章と第４章
第５回_『消費するアジア』第５章と第６章
第６回_『消費大陸アジア』第１章と第２章
第７回_『消費大陸アジア』第３章と第４章
第８回_文献・資料の調査の方法
第９回_プレゼンテーションの方法
第10回_グループ別発表①
第11回_グループ別発表②
第12回_グループ別発表③
第13回_論文作成の方法
第14回_論文提出
第15回_予備日

【事前・事後の学習の内容】

事前学習：テキストの当該箇所を読んでもらうとか、あるいは事前に掲示する課題をこなしてもらう。
事後学習：毎回の授業で明らかとなった論点を整理して、次の回の冒頭に発表してもらう。

【評価方法】

皆さんの演習への積極的な参加の姿勢、議論における発言、研究発表の内容、レポートなど、総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】

テキスト：大泉 啓一郎『消費するアジア：新興国市場の可能性と不安』中公新書、2011年。
　　川端基夫『消費大陸アジア：巨大市場を読みとく』ちくま新書、2017年。
参考書：特になし

【受講生へのコメント】

アジア市場に売り込みをかける企業人になったつもりで、アジアのある特定の国に関する様々な情報を入手して、その国の「通」になってください。

授業形態	演習	科目No.	EAEXE2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ（G）		単位数 2	担当教員氏名 中島　義裕
Course Title Innovative Workshop （G）		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
この授業の主題は、アクティブラーニングとグループワークにより、特定の課題について自ら調査し、解決策を提案することにあります。課題は「所得と雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」のいずれかです。デラサール大学で開講している開発経済論と連携して授業を行います。その目的は、あくまでもグローバルな視野で課題を捉え、解決策を提案することにあります。

【授業の到達目標】
1) アクティブラーニングとグループワークにより適切な研究計画を立案し、実行できる。
2) 与えられた課題について実態及びそれについての先行研究を調査できる。
3) 討論を通して適切な解決策を提案できる。
4) 論理的に構成されたプレゼンテーションを実施できる。

【授業内容・授業計画】
4人からなるグループに分かれて、上記の課題の一つについて調査し、その解決策を提案します。デラサール大学や、他のInnovative Workshopのクラスと合同で、中間発表会や最終発表会を実施します。授業では、各人で割り当てた調査内容について報告しあい、それに基づいて次の週までに調査する内容を決めるという形で進めます。デラサール大学と二回接続して報告会を行います。また、他のIWのクラスとも合同報告会をします。
第１回_ガイダンス
第２回_テーマ決定と調査
第３回_調査報告と次週までの研究計画
第４回_調査報告と次週までの研究計画
第５回_調査報告と次週までの研究計画
第６回_調査報告と次週までの研究計画
第７回_調査報告と中間報告の準備
第８回_中間報告会
第９回_調査報告と次週までの研究計画
第10回_調査報告と次週までの研究計画
第11回_調査報告と次週までの研究計画
第12回_調査報告と次週までの研究計画
第13回_調査報告と次週までの研究計画
第14回_調査報告と最終報告の準備
第15回_最終報告会
定期試験

【事前・事後の学習の内容】
毎回の授業中に計画し、分担した内容について、調査し、考察する。

【評価方法】
授業中の相談や討論への参加、中間報告と最終報告の内容による。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし

参考書：特になし

【受講生へのコメント】
英語が苦手な学生の受講を歓迎します。（もちろん、得意な学生も）。発表や討論などはグループで行いますので、怖がる必要はありません。受講生にはOCUメールで連絡を取りますので必ず読むようにして下さい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ		単位数 2	担当教員氏名 滋野　由紀子
Course Title Innovative Workshop		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
近年、出生率のさらなる低下は緩和されたものの、依然として人口規模を維持することが可能なレベルからみれば遥かに低く、少子高齢化は日本経済、社会、暮らしに様々な影響を与えている。本演習では、「少子高齢化」を大テーマとして、学生の皆さんが日常で感じる少子高齢化に起因する問題を一つ取り上げ、その問題について深く掘り下げて考えていきたい。

【授業の到達目標】
少子高齢化に起因する課題を探し、分析し、解決策を見出したうえで、それらをプレゼンテーションする力を身に付ける。

【授業内容・授業計画】
１グループ４名程度のグループ分けを行い、調査・分析はグループごとに行う。まず問題の所在を明らかにし、その問題を解明するために文献講読、資料収集、ヒアリング調査、データ解析等を行い、それらを最終発表会にて発表する。

第１回_ガイダンス
第２回_課題設定
第３回_課題設定
第４回_調査・分析計画
第５回_中間報告（調査・分析計画に関して）
第６回_調査・分析
第７回_調査・分析
第８回_調査・分析
第９回_中間報告（内容に関して）
第10回_調査・分析
第11回_調査・分析
第12回_調査・分析
第13回_プレゼンテーションの練習
第14回_最終発表会
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
グループで行う調査・分析に関連する文献等を読む。

【評価方法】
報告内容、演習中の発言、期末の最終発表で評価する。

【テキスト又は参考書】
テキストは特になし。

【受講生へのコメント】
身近な社会の問題に目を向けてください。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ		単位数 2	担当教員氏名 浦西　秀司
Course Title Innovative Workshop		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
私の担当するイノベーティブ・ワークショップでは、電気・ガス・水道・電話・鉄道・バスなど、いわゆる公共サービスに関するさまざまな問題を取り扱います。皆さんは利用者の立場からのさまざまな疑問や要望についてグループワークを通して自分なりの答えを導き出してください。

【授業の到達目標】
グループワークを通して情報収集や分析能力、プレゼンテーション能力が身につくことが到達目標である。

【授業内容・授業計画】
演習形式です。

第１回_ガイダンス・グループ分け
第２回_テーマ設定
第３回_文献・資料収集（１）
第４回_文献・資料収集（２）
第５回_文献・資料収集（３）
第６回_文献・資料収集（４）
第７回_中間報告（１）
第８回_中間報告（２）
第９回_中間報告（３）
第10回_レポート作成指導（１）
第11回_レポート作成指導（２）
第12回_レポート作成指導（３）
第13回_レポート作成指導（４）
第14回_レポート作成指導（５）
第15回_レポート報告

【事前・事後の学習の内容】
事前の学習：自らの担当部分をきちんと仕上げる。
事後の学習：コメントに従って修正する。

【評価方法】
ディスカッションへの参加状況およびレポート課題で評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし。

参考書：特になし。

【受講生へのコメント】
イノベーティブワークショップは、自ら設定した分析テーマについて、数人のグループで情報収集、分析、レポート作成、プレゼンテーションを行う科目です。最初から一人ですべて行うことは誰でも大変ですので、まずは教員のサポートのもと、グループでやってみましょう。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ		単位数 2	担当教員氏名 岩熊　典乃
Course Title Innovative Workshop		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】 ＜水曜4限クラス・木曜3限クラス＞
この演習では、近年、地球環境問題や資源問題、社会保障や地域政策、さらには経済システム全般をめぐって、キー概念としてしばしば取り上げられるようになっている「持続可能性（sustainability）」という概念に焦点をあてる。1987年「国連環境と開発に関する世界委員会（ブルントラント委員会）」報告の中で地球環境問題の解決をめぐる中心的な理念として掲げられて以降、人口に広く膾炙してきたこの概念ではあるが、「何の持続可能性か」という観点から考えれば、時として全く相入れないような無数の立場や解釈が存在し、その意味内容や定義は必ずしも自明的ではなくなっている。
　演習ではまず、この概念が提唱された背景や経緯、そしてこの概念を出発点としてどのような社会構想や議論が展開されてきたかを、テキストの輪読を通じて学ぶ。その上で、グループに分かれ、具体的な事例や社会的トピックに焦点をおき、この概念がどのように用いられ、それぞれどのようなことが目指されているかを調査・検討していく。

【授業の到達目標】
① 基礎演習で習得したアカデミック・スキル（資料読解、レジュメ作成、情報収集、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート執筆）を、さらに鍛える。
② グループ単位で課題に取り組むことによって、コミュニケーション力やディスカッション力を身につける。

【授業内容・授業計画】
まずはテキストの輪読を通じて、「持続可能性」の概念の内実、それが提起され影響力を持つようになった背景、個別具体的な問題領域でのこの概念の用いられ方を把握する。その上でグループに分かれ、この概念が関わる問題領域の一つについて、調査と検討を進め、その成果を報告する。
第１回_ガイダンス、テキスト輪読のレジュメ担当決め
第２回_テキスト輪読①
第３回_テキスト輪読②
第４回_テキスト輪読③
第５回_テキスト輪読④
第６回_小括、グループ分け、各グループのテーマ設定
第７回_グループ・ワーク①：参考文献の探索
第８回_グループ・ワーク②：参考文献の要約
第９回_グループ・ワーク③：中間発表用の資料作成
第10回_中間発表
第11回_グループ・ワーク④：中間発表の振り返り、さらなる課題の検討
第12回_グループ・ワーク⑤：最終発表用の資料作成
第13回_グループ発表とディスカッション①
第14回_グループ発表とディスカッション②
第15回_グループ発表とディスカッション③＋総括

【事前・事後の学習の内容】
テキストの指定箇所をしっかり読んでくること。
グループ・ワークの際は、グループ全体での方針や各自の役割をその都度確認しあいながら課題に取り組むこと。

【評価方法】
出席、資料作成、グループ・ワークや発表・ディスカッションへの貢献度から総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
参考書：
以下のテキストから必要な箇所を適宜抜粋して輪読する。テキストは参加者の関心に応じて変更する可能性もある。
・広井良典『ポスト資本主義――科学・人間・社会の未来』岩波新書
・福士正博『市民と新しい経済学――環境・コミュニティ』日本経済評論社

【受講生へのコメント】
グループ単位で一つの課題に取り組みます。役割分担が偏らないよう互いに配慮・協力しあいつつ、毎回の作業を着実に進めていきましょう。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ		単位数 2	担当教員氏名 岩本　真一
Course Title Innovative Workshop		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
本科目の主題は、アパレル産業やファッション文化の現状を題材に現代世界の経済状況を理解することです。そして、パソコンを用いて文書ソフトや表計算ソフトの使い方を学ぶことです。

【授業の到達目標】
目標は「科目の主題」を他の題材に応用できる能力を身につけることです。そして、古くは中国の経済・技術・文化が今なおどのような形で日本に影響を与えているか、事実と想像を豊かにしましょう。そして、近現代に欧米からの経済・技術・文化が広く深く浸透してきた点も併せて考えられるようになりましょう。

【授業内容・授業計画】

第１回_演習の説明、学習に便利な図書館・ウェブ・文献などの紹介、担当者の自己紹介
第２回_輪読　ミシェル・リー『ファッション中毒』
第３回_輪読　ミシェル・リー『ファッション中毒』（続き）
第４回_輪読　ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たか？』
第５回_輪読　ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たか？』（続き）
第６回_討論　テーマの設定、グループの設定、課題の説明
第７回_報告　雑誌分析（第1回）
第８回_輪読　ロラン・バルト『モードの体系』
第９回_輪読　ロラン・バルト『モードの体系』（続き）
第10回_輪読　ロラン・バルト『モードの体系』（続き）
第11回_報告　雑誌分析（第2回）
第12回_報告　雑誌分析（第2回続き）
第13回_報告　雑誌分析（第3回）
第14回_報告　雑誌分析（第4回）
第15回_総括

【事前・事後の学習の内容】
事前学習としてテキストを読み、1章あたりA4用紙1枚に箇条書きで要約します。事後学習として、あなたが選定したアパレル雑誌やファッション雑誌のデータ整理を行ないます。ワークショップのテーマとグループを設定した後はデータ整理を広く進めていきます。

【評価方法】
事前要約、報告内容、期末論文の点数で成績を出します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：指定しません。

参考書：「授業内容・授業計画」に記したもの。他の文献は演習中に紹介します。

【受講生へのコメント】
素早く情報や知識に触れる能力と、立ち止まって情報や知識を消化する能力の二つを学びとって下さい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXE2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ（G）		単位数 2	担当教員氏名 西川　弘展
Course Title Innovative Workshop （G）		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】 ＜木曜3限クラス＞
経済学そのものをグループ・ワークと英語を通じて能動的に学びます。近年の傾向では、アメリカ流の標準的ないし代表的な経済学教科書で経済学を受動的に教わり、そうした経済学に疑問を持たないまま社会人になってしまったり、あるいはエコノミスト（経済学者）になってしまうケースが少なくないようです。しかし、依然、経済学の基本的な考え方は単一の教科書に集約できないほど多様であり、学説間の緊張関係を持ちながら発展しています。こうした在り方をする経済学に能動的に関与

【授業の到達目標】
次の２点を主な目標としています。（１）英語を使って共通の目標を持つ複数人でのグループ・ワーク（学修・調査・研究、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）について相当の経験を積むこと。（２）グループ間でのやりとりの経験を積むこと。特に、グループ・ワークでは、文献調査も含む資料検索、資料の整理、問いの設定、発表内容の確定、プレゼンテーションが課せられますので、ここでの経験は、個人の作業・学修・研究においても役立つことになります。

【授業内容・授業計画】
最終的に履修者全員が分担で執筆する「ワークショップ・レポート」を英文で完成させます。このために、4〜3名を１グループとして英文資料を活用してグループ・ワーク（学修・調査・研究、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表、執筆などの活動）を行います。グループ・ワークにあたり各グループは、「資本主義経済の経緯」、「資本主義経済について考えた経済学者たち」、「生産力と経済発展」、「不平等と貧困」、「労働と雇用」などから１つのテーマを選びます。
第１回_授業の説明、グループ分け、グループ・ワークの概要
第２回_大枠のテーマの決定と調査（情報の検索）
第３回_調査（前週の情報検索を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（１）
第４回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（２）
第５回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（３）
第６回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週の中間報告会（１）の準備
第７回_中間報告会（１）
第８回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（４）
第９回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（５）
第10回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（６）
第11回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と中間報告会（２）の準備
第12回_中間報告会（２）
第13回_「ワーク・ショップレポートの作成」（１）：編集方針についての話し合いと作業分担の決定
第14回_「ワーク・ショップレポートの作成」（２）：「ワーク・ショップレポート」の最終確認
第15回_最終報告会
「ワーク・ショップレポート」の最終提出

【事前・事後の学習の内容】
授業外でのグループ・ワークないしグループ内で役割分担された個人単位の調査・学修。

【評価方法】
授業外でのワークを含む授業への参加状況と中間報告の内容、最終報告の内容、「ワーク・ショップレポート」の内容によって総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：適宜、指定した資料をインターネット等で入手してもらうか、こちらで準備します。
参考書：Ha-Joon Chang, Economics: the User's Guide, Bloomsbury Press, 2014.

【受講生へのコメント】
多様な見解につき、満場一致、全員の合意が最も望ましい中、多数決は決め方の一つに過ぎず、時には少数派をもっともらしい理屈でねじ伏せる乱暴な方法として悪用されていることを学んでほしいと思います。むしろお金と時間がかかる対話や議論こそが色々な物事を確実に進展させる方法であり、対話や議論をいかに効果的に行うかを学んで欲しいと思います。また、貪欲にできるだけ沢山の英文資料にあたってください。

授業形態	演習	科目No.	EAEXE2101
科目名 イノベーティブ・ワークショップ（G）		単位数 2	担当教員氏名 西川　弘展
Course Title Innovative Workshop （G）		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】 ＜金曜4限クラス＞
「所得・雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」など、共通の学修テーマのもとに編成されるグループ単位でのグループ・ワーク（学修・調査、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）を軸に、またイノベーティブ・ワークショップ（G）の別クラスと密接に連携しつつ、演習を行います。さらに、フィリピンのデラサール大学の開発経済学の講座とのやりとりを行い、これにより演習の成果をさらに深めます。特にデラサール大学とのやりとりでは英語を用いま

【授業の到達目標】
次の２点を主な目標としています。（１）共通の目標を持つ複数人でのグループ・ワーク（学修・調査・研究、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）について相当の経験を積むこと。（２）時には外国語を用いたグループ間でのやりとりの経験を積むこと。特に、グループ・ワークでは、文献調査も含む資料検索、資料の整理、問いの設定、発表内容の確定、プレゼンテーションが課せられますので、ここでの経験は、個人の作業・学修・研究においても役立つことにな

【授業内容・授業計画】
４名程度を１グループとして、それぞれのグループで「所得・雇用」、「人口」、「教育」、「健康」、「移民」のうちから主題を選択し、グループ・ワーク（学修・調査、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）を行います。デラサール大学の開発経済学の講座とのインターネット環境を通じた交流により、グループワークの成果をさらにバージョンアップさせて、最終的
第１回_授業の説明、グループ分け、グループ・ワークの概要
第２回_大枠のテーマの決定と調査（情報の検索）
第３回_調査（前週の情報検索を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（１）
第４回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（２）
第５回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（３）
第６回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（４）
第７回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週の中間報告の準備
第８回_中間報告会
第９回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（５）
第10回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（６）
第11回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（７）
第12回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（８）
第13回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と次週までの調査課題（９）
第14回_調査（前週の調査課題を受けた成果）報告・質疑応答と最終報告の準備
最終報告会
グループごとの最終報告書の提出

【事前・事後の学習の内容】
授業外でのグループ・ワークないしグループ内で役割分担された個人単位の調査・学修。

【評価方法】
授業外でのワークを含む授業への参加状況と中間報告の内容、最終報告の内容、最終報告書の内容によって総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：適宜、指定した資料をインターネット等で入手してもらうか、こちらで準備します。

参考書：適宜、紹介します。

【受講生へのコメント】
机上の知識だけでなく、経験が重視される演習型の授業であり、将来につながる経験をして欲しいと思います。チーム・ワークならではの達成感が得られるよう積極的に参加して下さい。また中学生から現在まで続けて来た英語学習を振り返り、さらに発展させる良い機会ですので、尻込みせずに参加されることを望みます。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ3101
科目名 論文演習		単位数 2	担当教員氏名 坂上 茂樹
Course Title Writing Course		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
産業技術史に係わる論文を読んで批判的総括を行うこと。

【授業の到達目標】
独自の視点を以て対象論文を批判的に読み、自説を簡潔明瞭にまとめること。

【授業内容・授業計画】
対象論文の選定は各自に委ねる。

第１回_ガイダンス
第２回_対象論文選定　１）
第３回_対象論文選定　２）
第４回_対象論文選定　３）
第５回_個別報告とそれに対する講評　１）
第６回_個別報告とそれに対する講評　２）
第７回_個別報告とそれに対する講評　３）
第８回_個別報告とそれに対する講評　４）
第９回_個別報告とそれに対する講評　５）
第10回_個別報告とそれに対する講評　６）
第11回_個別報告とそれに対する講評　７）
第12回_個別報告とそれに対する講評　８）
第13回_個別報告とそれに対する講評　９）
第14回_個別報告とそれに対する講評　10）
第15回_まとめ

【事前・事後の学習の内容】
指定論文の読み込み、関連論文の渉猟を要す。

【評価方法】
論文の出来栄えによる。

【テキスト又は参考書】
テキスト：適宜、関連分野の重要論文を指定する。

参考書：関連分野の重要図書を指示する。

【受講生へのコメント】
主体的に取り組んでほしい。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ3101
科目名 論文演習		単位数 2	担当教員氏名 辻　賢二
Course Title Writing Course		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
経済学に関する論文を作成する。

【授業の到達目標】
現実の金融・経済問題に関してディスカッションしながら考える力を身に付ける。また、経済学の論文を作成する技術を学ぶ。

【授業内容・授業計画】
現実の金融・経済問題に関してディスカッションしながら、論文作成の技術を学ぶ。

第１回_ガイダンス
第２回_論文の書き方(1)
第３回_論文の書き方(2)
第４回_論文の書き方(3)
第５回_金融・経済問題(1)
第６回_金融・経済問題(2)
第７回_金融・経済問題(3)
第８回_金融・経済問題(4)
第９回_金融・経済問題(5)
第10回_金融・経済問題(6)
第11回_金融・経済問題(7)
第12回_金融・経済問題(8)
第13回_修了論文の発表
第14回_修了論文相談
第15回_総括

【事前・事後の学習の内容】
前回の授業内容を復習しておくこと。
次回の授業の準備をしておくこと。

【評価方法】
受講態度、発言状況、修了論文等によって総合的に評価します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：使用しない。

参考書：特になし。

【受講生へのコメント】
新聞の経済記事を読む習慣を身に付けてください。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ3101
科目名 論文演習		単位数 2	担当教員氏名 金子　勝規
Course Title Writing Course		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
本論文演習の授業では、アジアの社会や経済を対象に論文を作成することを主な目的とする。

【授業の到達目標】
論文の基本的な書き方を理解し、関心のあるテーマについて7000字程度の論文を作成する。

【授業内容・授業計画】
論文演習の前半は、テーマの設定、関連する文献の調査、研究方法論について指導を行う。後半では、各自で論文の作成に取りかかり、報告・討論などを通して論文に仕上げていきたい。

第１回_ガイダンス
第２回_論文テーマの選択、論文の書き方
第３回_関連する論文の報告、ディスカッション①
第４回_関連する論文の報告、ディスカッション②
第５回_関連する論文の報告、ディスカッション③
第６回_先行研究調査①
第７回_先行研究調査②
第８回_中間報告
第９回_論文作成指導①
第10回_論文作成指導②
第11回_論文作成指導③
第12回_論文作成指導④
第13回_論文報告①
第14回_論文報告②
第15回_論文提出

【事前・事後の学習の内容】
前半は、次回の授業で用いる文献を読んでおくこと。授業後は、授業中に紹介した文献を読み、理解を深めてもらいたい。後半は、論文の作成のために時間を確保すること。

【評価方法】
授業への参加状況、報告、ディスカッション、作成した論文を総合的に評価する。

【テキスト又は参考書】
テキスト：特になし

参考書：適宜、指示する。

【受講生へのコメント】
授業への主体的かつ積極的な参加を期待します。

授業形態	演習	科目No.	EAEXJ3101
科目名 論文演習		単位数 2	担当教員氏名 岩本　真一
Course Title Writing Course		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 後期

【科目の主題】
本科目の主題はアパレル産業やファッション文化の展開を題材に近代化を考えることです。

【授業の到達目標】
目標は「科目の主題」を他の題材に応用できる能力を身につけることです。そして、古くは中国の経済・技術・文化が今なおどのような形で日本に影響を与えているか、事実と想像を豊かにしましょう。そして、近現代に欧米からの経済・技術・文化が広く深く浸透してきた点も併せて考えられるようになりましょう。

【授業内容・授業計画】

第１回_演習の説明、学習に便利な図書館・ウェブ・文献などの紹介、担当者の自己紹介
第２回_輪読　ミシェル・リー『ファッション中毒』
第３回_輪読　ミシェル・リー『ファッション中毒』（続き）
第４回_輪読　ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たか？』
第５回_輪読　ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たか？』（続き）
第６回_報告　利用文献類の紹介とテーマの紹介
第７回_報告　論文内容に関する説明と質疑応答（1回目）
第８回_輪読　デヴィッド・ハーヴェイ『パリ―モダニティの首都―』
第９回_輪読　デヴィッド・ハーヴェイ『パリ―モダニティの首都―』（続き）
第10回_輪読　デヴィッド・ハーヴェイ『パリ―モダニティの首都―』（続き）
第11回_輪読　アン・ホランダー『性とスーツ―現代衣服が形づくられるまで―』
第12回_輪読　大丸弘「西欧型服装の形成」
第13回_輪読　大丸弘「西欧型服装の形成」（続き）
第14回_報告　論文内容に関する説明と質疑応答（2回目）
第15回_報告　論文内容に関する説明と質疑応答（3回目）

【事前・事後の学習の内容】
事前学習としてテキストを読み、1章あたりA4用紙1枚に箇条書きで要約します。事後学習として「科目の主題」に関わる図書を数冊選び、あなたの論文テーマに沿って抽出や要約などを行ないます。その作業を土台に、演習で学んだ内容や自分で調べた内容を加味して期末論文として提出します。

【評価方法】
事前要約、報告内容、期末論文の点数で成績を出します。

【テキスト又は参考書】
テキスト：指定しません。

参考書：「授業内容・授業計画」に記したもの。他の文献は演習中に紹介します。

【受講生へのコメント】
素早く情報や知識に触れる能力と、立ち止まって情報や知識を消化する能力の二つを学びとって下さい。

集 中 講 義 開 講 科 目

授業形態	講義	科目No.	EAB2J3204
科目名 西洋経済史		単位数 2	担当教員氏名 長谷川　淳一
Course Title Economic History of Europe		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 集中

【科目の主題】
産業革命以降の時期について最初の工業国イギリスの経済・社会の変化を中心に検討していく。

【授業の到達目標】
工業化に伴う政治・社会の変化を学ぶ。

【授業内容・授業計画】
通常の講義形式による。

第１回_西洋経済史研究の問題意識の変遷
第２回_産業革命
第３回_後発国の工業化
第４回_自由主義的改革
第５回_大不況と帝国
第６回_帝国主義の展開
第７回_帝国主義のその後
第８回_世界恐慌
第９回_第二次世界大戦
第10回_戦後再建
第11回_戦災復興
第12回_都市政策の展開
第13回_1960年代の改革
第14回_寛容社会論
第15回_諸変化の概観と試験

【事前・事後の学習の内容】
プリントを配布するのでそれらを適宜用いられたい。

【評価方法】
集中講義の最終日に行なう試験による。それ以外の代替的な措置による評価は一切行なわない。

【テキスト又は参考書】
特になし。

【受講生へのコメント】
私語厳禁。上記授業計画については進行状況等によって変更することがある。

授業形態	講義	科目No.	EAAPJ4216
科目名 **公共経済学**		単位数 2	担当教員氏名 新居　理有
Course Title Public Economic		必修・選択 選択	開講年度・開講期 2018年度 集中

【科目の主題】 ミクロ経済学では，市場を通じた取引の重要性について学習する．一方で，現実の経済においては，市場を通じた自由な取引のみに任せると，取引がうまくいかない状況も多く存在することが知られている．この講義では，どのような状況では自由な取引だけではうまくいかなくなってしまうのかを考える．また，このような状況を（部分的にでも）解決する方法として，政府が行う経済政策がある．経済政策の利点と欠点を理解し，より望ましい経済政策について考えるための基礎を構築する．

【授業の到達目標】 以下の三点を到達目標とする．
1. 市場における自由な取引がベストとならない状況はどのようなものか理解する．
2. それぞれの状況において，経済政策がもたらす良い効果と悪い効果を理解する．
3. 経済学的な思考に基づいて，現実の経済政策の利点と欠点について考えられるようになる．

【授業内容・授業計画】 講義形式で進める予定であるが，理解度を測るために簡単な演習を行うことがある．必要な配布物については，原則講義時間内に配布する．

第１回_ガイダンス
第２回_不完全競争市場（１）―独占市場
第３回_不完全競争市場（２）―厚生損失の発生と解決のための経済政策
第４回_不完全競争市場（３）―不完全競争市場の具体例
第５回_外部性（１）―外部性の定義と問題点
第６回_外部性（２）―外部性へ対応するための政策
第７回_外部性（３）―外部性の具体例
第８回_公共財（１）―公共財の定義と問題点
第９回_公共財（２）―公共財供給と政府
第10回_公共財（３）―公共財供給の具体例
第11回_情報の非対称性（１）―逆淘汰の問題点
第12回_情報の非対称性（２）―逆淘汰の解決のための経済政策
第13回_情報の非対称性（３）―モラルハザードの問題点
第14回_情報の非対称性（４）―モラルハザードの解決のための経済政策
第15回_機会費用と市場の失敗
定期試験

【事前・事後の学習の内容】 講義資料の見直しや練習問題を通じて,講義後の復習の時間を確保することを期待する．ただし，ミクロ経済学の基本的な内容に不安がある人は，事前に復習をしておいて欲しい．

【評価方法】 最終回に実施する試験により評価を行う．ただし，20%を上限として，講義中の課題を成績評価に加味する可能性がある．

【テキスト又は参考書】 テキストは特になし．以下の教科書を参考書とするので，併用して学習することが望ましい．また初回講義でさらに幾つかの参考書を紹介する予定である．
八田達夫(2008)『ミクロ経済学（１）市場の失敗と政府の失敗への対策』，東洋経済新報社
安藤至大(2013)『ミクロ経済学の第一歩』，有斐閣

【受講生へのコメント】 ミクロ経済学の基本的な内容（市場均衡や総余剰の求め方）を前提とします．不安のある方は事前に勉強をしておいてください．質問があったら，遠慮なく尋ねてください．

論文採点基準表

各項目の採点基準　0：大学入学レベルをクリアしていない。1：大学生として極めて不十分、2：大学生として不十分、3：大学生として合格レベル、4：大学生としては秀逸

項目	採点	修了小論文	論文演習	卒業論文		素点	詳細説明
問題意識と課題設定の明確性とオリジナリティ	0，1，2，3，4	×3	×3	×2	＝		この論文で明らかにしたい問題および明らかにするために必要な課題設定が明確に提示されているか。課題設定に著者自身の思考に立脚したオリジナリティがあるか。
研究課題の意義	0，1，2，3，4	×1	×1	×2	＝		取り組んだ課題は、解決する必要性が何らかの形で認められ、答えが知りたくなり、その解決によって有意義な知見を獲得できるか？その解決は専門分野において有意義であると十分プレゼンテーションできているか。
研究課題の新規性	0，1，2，3，4	×0	×0	×1	＝		取り組んだ課題は未解決か。
研究課題の先行研究への位置付け	0，1，2，3，4	×1	×1	×2	＝		先行研究の関係の明確化。必須先行研究への依拠。
問題解決の明確さと貢献度	0，1，2，3，4	×3	×3	×2	＝		提示された課題にどの程度答えられているか？はぐらかしになっていないか。解決された結果は当該専門分野でどの程度評価すべき物か。
今後の課題の明確化	0，1，2，3，4	×2	×2	×1	＝		今後の課題の明示とその考察。その妥当性。学術的課題としての今後の課題のみではなく，自分の努力の不十分さ，論文執筆によって開けた視野から見えるやり残したことへ意識をみる.
根拠の展開・提示法の妥当性	0，1，2，3，4	×5	×5	×4	＝		著者の選択した根拠の信頼性・妥当性を問題にする。課題解決の為の根拠の選択に関する考察があるか。その議論は妥当か。根拠の論理的操作や提示がこなれているか。
根拠の新規性、独創性	0，1，2，3，4	×0	×0	×1	＝		根拠は従来からその分野で使用されているものか、それとも初めてか。根拠の使用法は、独創的なものであるか。
論文のわかりやすさ	0，1，2，3，4	×4	×4	×4	＝		読者の想定は妥当か。特に、学術用語の選択、その説明の細かさ、当該分野の暗黙の前提の扱い方。論文の構成、文章、図表はわかりやすいか。
論文の形式要件	0，1，2，3，4	×4	×4	×4	＝		論文の字数、体裁などが指定された物になっているか。十分な註が付けられているか。参考文献リストは明示されているか。剽窃・盗用はないか。形式要件を満たさないものは0点。
その他特筆すべき点	0，1，2，3，4	×2	×2	×2	＝		努力等の評価
論文評価（A）							
卒論の場合のみ専門性評価（B）							
卒業論文評価：（A+B）/2							

交通機関の運休、気象条件の悪化による授業の休講および定期試験の延期措置について

【杉本キャンパス、梅田サテライト】

⑴　交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関の①または②のいずれかが運休（事故等による一時的な運行停止を除く）を行った場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、運休の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

●杉本キャンパス

① JR阪和線全線

② Osaka Metro御堂筋線全線およびJR大阪環状線全線が同時

●梅田サテライト

代替交通機関があることから、交通機関の運休による休講の措置については行いません。

⑵　気象条件の悪化による授業の休講について

「大阪府下に暴風警報又は特別警報（すべて対象とする）のいずれか」が発令された場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

（別表）

●杉本キャンパス

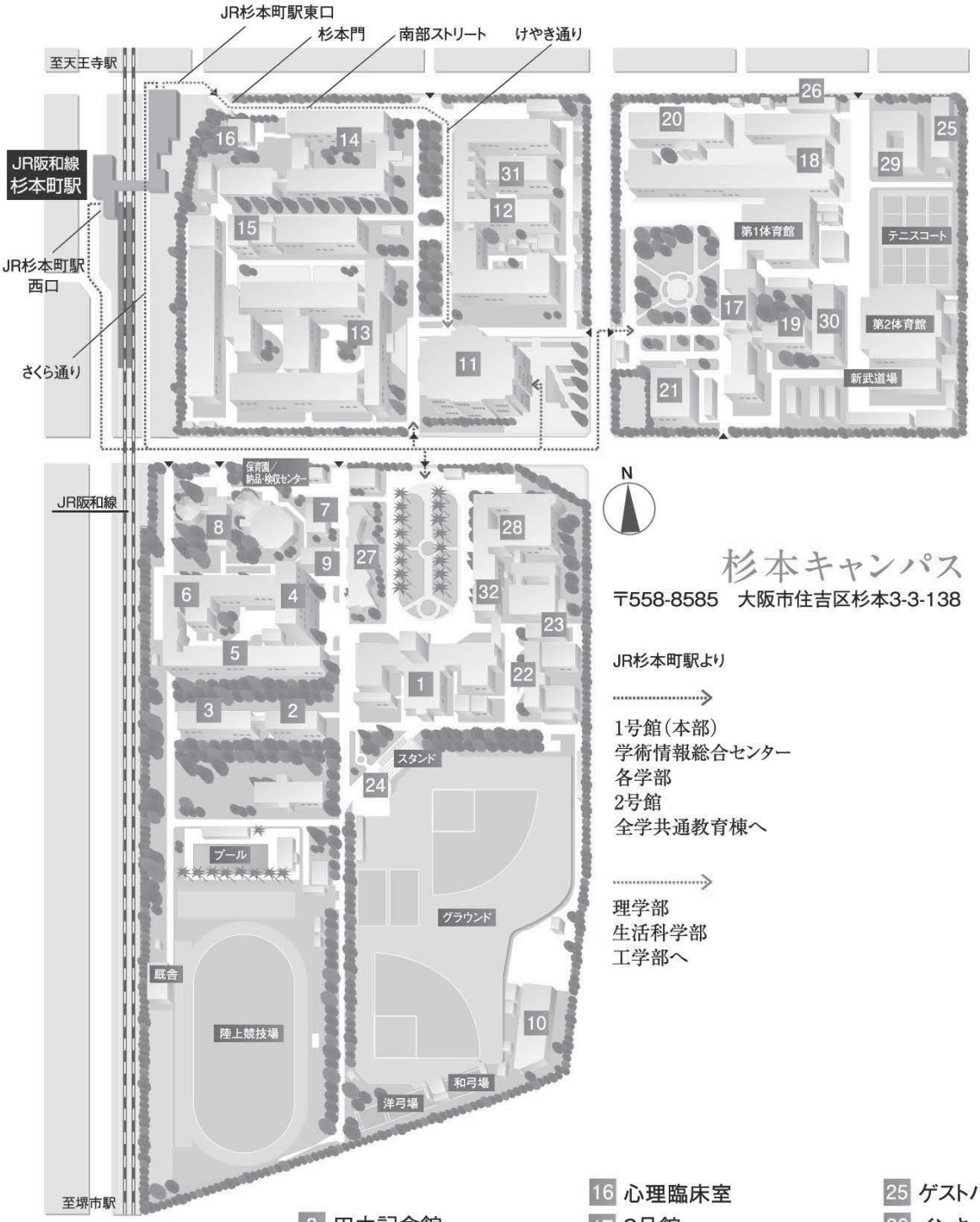
運行再開・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午　前　7　時　以　前		全時限
午　前　10　時　以　前	１・２ 時限	３・４・５ 時限
午前10 時を過ぎても運行再開・警報解除されない場合	全時限	

●梅田サテライト

（梅田サテライト）月～金曜日の授業		
警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午　後　3　時　以　前		全時限
午後３時を過ぎても解除されない場合	全時限	

（梅田サテライト）土曜日の授業		
警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午　前　7　時　以　前		全時限
午　前　10　時　以　前	１～３時限	４～７時限
午前10時を過ぎても解除されない場合	全時限	

※交通機関の運休とは、事故、気象現象、地震、交通ストライキ、その他の理由により交通機関が運行休止になり、通学が困難な場合をいう。
※授業中または試験中に、暴風警報又は特別警報が発令された場合は、原則として、実施中の授業・試験についてはそのまま行い、その次の時限から授業は休講とする。
※このほか、必要がある場合は、各学部又は各研究科において別に定める。



杉本キャンパス

〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138

JR杉本町駅より

→

1号館（本部）
学術情報総合センター
各学部
2号館
全学共通教育棟へ

→

理学部
生活科学部
工学部へ

1 1号館
・新産業創生研究センター
・事務室
（職員課、財務課、管理課
学務企画課、研究支援課）

2 商学部棟

3 経済学部棟

4 法学部棟

5 文学部棟

6 経済研究所棟
・創造都市研究科
・人権問題研究センター
・証券研究センター

7 都市研究プラザ

8 田中記念館
・事務室
（大学サポーター支援室）

9 保健管理センター

10 河海工学実験場

11 学術情報総合センター
・大学史資料室
・事務室
（情報推進課
学術情報総合センター運営課）

12 理学部棟
・数学研究所

13 工学部棟

14 生活科学部棟

15 工作技術センター

16 心理臨床室

17 2号館
・都市健康・スポーツ研究センター
・複合先端研究機構

18 全学共通教育棟
・英語教育開発センター
・大学教育研究センター
・事務室
（共通教育支援室（学務企画課）
国際センター）

19 4号館

20 基礎教育実験棟

21 第1学生ホール

22 第2学生ホール

23 第3学生ホール

24 スポーツハウス

25 ゲストハウス

26 インキュベータ

27 高原記念館
・地域連携センター

28 学生サポートセンター
・事務室
（内部監査室、大学改革・戦略課
広報室、安全衛生管理室
学務企画課、学生支援課
入試室、就職支援室）

29 共通研究棟

30 人工光合成研究センター

31 理系共通実験棟

32 本部棟
・事務室
（企画総務課）

杉本キャンパス　教室一覧

建物	階層	教室番号
3　経済学部棟	１階	ＣＡ
1　１号館	２階	１２Ａ、１２Ｂ、１２Ｅ、１２Ｆ １２０　～　１２８
	３階	１３Ａ　～　１３Ｇ １３０　～　１３７
19　４号館	１階	４１０
6　経済研究所棟	２階	５２Ｅ１ ５２１　～　５２４
	３階	５３Ｅ１、５３Ｅ２
4　法学部棟	３階	７３０
	４階	７４０
	１１階	７１１-Ａ　～　７１１－Ｃ
18　全学共通教育棟	１階	８１Ａ、８１Ｂ ８１０　～　８１６ 自習室
	２階	８２０　～　８２２
	３階	８３Ａ　～　８３Ｌ ８３０　～　８３５
	４階	８４Ａ ８４０　～８４９ 外国語特別演習室１　～　５
	５階	８５Ａ ８５０、８５１
20　基礎教育実験棟	１階	階段教室
	２階	物理学実験室等
	３階	生物学・化学実験室等
	４階	化学実験室等

教員名簿

			研究室TEL 06－6605－	E－mail
C．ウェザーズ	教授	戦後日本経済史	2274	weathers@econ.osaka-cu.ac.jp
有賀　敏之	〃	世界経済論	2492	aruga@gscc.osaka-cu.ac.jp
浦西　秀司	〃	産業経済論	2264	uranishi@econ.osaka-cu.ac.jp
坂上　茂樹	〃	産業技術論	2266	sakagami@econ.osaka-cu.ac.jp
滋野　由紀子	〃	日本経済論	2289	shigeno@econ.osaka-cu.ac.jp
辻　賢二	〃	金融経済論	2284	tsujiken@econ.osaka-cu.ac.jp
中嶋　哲也	〃	経済原論Ⅱ	2281	nakajima@econ.osaka-cu.ac.jp
中島　義裕	〃	計算機経済学	2273	yoshi@econ.osaka-cu.ac.jp
中村　健吾	〃	社会思想史	2279	nakamura@econ.osaka-cu.ac.jp
中村　英樹	〃	経済統計論	2271	hnakamur@econ.osaka-cu.ac.jp
朴　一	〃	アジア経済論	2262	paku@econ.osaka-cu.ac.jp
福原　宏幸	〃	労働経済論	2293	fukuhara@econ.osaka-cu.ac.jp
松本　淳	〃	財政学	2282	matumoto@econ.osaka-cu.ac.jp
森　誠	〃	経済変動論	2263	mori@econ.osaka-cu.ac.jp
森脇　祥太	〃	経済開発論	2269	moriwaki@econ.osaka-cu.ac.jp
若森　みどり	〃	経済学説史	2260	wakamori@econ.osaka-cu.ac.jp
脇村　孝平	〃	アジア経済史	2285	wakimura@econ.osaka-cu.ac.jp
岩波　由香里	准教授	国際協力論	2270	iwanami@econ.osaka-cu.ac.jp
岡澤　亮介	〃	マクロ経済学	2286	okazawa@econ.osaka-cu.ac.jp
小川　亮	〃	地方財政論	2265	r.ogawa@econ.osaka-cu.ac.jp
金子　勝規	〃	東南アジア経済論	2496	kaneko@gscc.osaka-cu.ac.jp
北原　稔	〃	ミクロ経済学	2276	kitahara@econ.osaka-cu.ac.jp
久保　彰宏	〃	国際経済学	2291	kubo@ econ.osaka-cu.ac.jp
齋藤　幸平	〃	経済原論Ⅰ	2275	saito@econ.osaka-cu.ac.jp
柴田　淳	〃	流通経済論	2277	shibata@econ.osaka-cu.ac.jp
杉田　菜穂	〃	社会政策論	2296	sugita@econ.osaka-cu.ac.jp
中川　満	〃	統計解析論	2261	nakagawa@econ.osaka-cu.ac.jp
彭　浩	〃	日本経済史	2295	penghao@econ.osaka-cu.ac.jp

副学長

橋本文彦	教授	行動情報論

特任教員

岩　熊　典　乃
岩　本　真　一
西　川　弘　展

非常勤講師

新　居　理　有	公　共　経　済　学	高知工科大学経済・マネジメント学類
今　庄　啓　二	経済情報論特殊講義	フューチャーベンチャーキャピタル㈱元代表取締役社長
上　田　智　巳	経済情報論特殊講義	
小　田　和　幸	商業簿記基礎論	大原簿記法律専門学校
落　合　　隆	経　済　数　学	三重大学人文学部
鹿　野　繁　樹	計量経済学上級講義	大阪府立大学経済学部
佐　藤　　光	社　会　経　済　論	大阪市立大学名誉教授
篠　原　正　人	Lectures on Economic B	福知山公立大学
長谷川　淳　一	西　洋　経　済　史	慶應義塾大学経済学部
堀　口　朋　亨	ヨーロッパ経済論	京都外国語大学外国語学部
松　澤　俊　雄	経済構造上級講義	大阪市立大学名誉教授